

○免稅處分濟ノ腐敗酒ヲ原料トシ更ニ清酒ヲ製造シタル所爲ハ免許ヲ受ケスシテ清酒ヲ製造シタルモノナリトス (明治三十四年六月十四日)

上告趣意ハ第一原院ニ於テハ上告人カ清酒ヲ製造シタルモノトシテ處罰セラレタルモ上告人ハ清酒ヲ製造シタルコトナク單ニ腐敗シタル清酒ヲ買得シ之ニ藥物等ヲ混入シテ良酒トナシタルニ過キス是等ノ行爲ハ法律上罰セラルヘキモノニアラス換言スレハ清酒ヲ製造シタル罰則アルモ清酒ヲ改善シタルモノニ適用スヘキ法條ナシ然ルニ原院ニ於テ之ヲ有罪ト判定シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○原判決ニ依レハ被告ハ免稅處分濟ノ腐敗清酒ニ柿澁石灰寒天等ヲ混和シ酸味ト濁リトヲ除去シ清酒ヲ製造シタル事實ニシテ被告ハ免稅處分濟ナル腐敗酒ヲ原料トナシ更ニ清酒ヲ製造シタルモノナレハ即チ免許ヲ受ケスシテ清酒ヲ製造シタルモノナルヲ以テ原院カ酒造稅法第二條第二十二條第一項ニ依リ處斷シタルハ相當ナリ

○謄寫版ヲ以テ檢事長ノ氏名ヲ印刷シタル上告趣意書ハ無効ナリ (明治三十四年六月十八日)
刑事訴訟法第二十條ニ官吏公吏ノ作ルヘキ書類ハ署名スヘシトアルハ其書類ノ真正ヲ保スル爲メ作成者自ラ其名ヲ筆記スヘキコトヲ命シタルモノナルニ原院檢事長松室致ノ上告趣意書ヲ閱スルニ其氏名ハ謄寫版ヲ以テ印刷シタルモノニシテ作成者自ラ筆記シタルモノニアラス然ラハ刑事訴訟法第二十條ノ規定ニ背キ其書類ノ効ナク從テ上告申立ヲ爲シタルモ其趣意書ヲ提出セサルモノニ歸セサルヲ得ス故ニ本件上告ハ適法ニ成立セサルモノトス

○官署ノ施シタル封印ナルコト及之ヲ破毀シタル以上ハ間稅官吏ノ證票攜帶ノ如キハ犯罪事實ニ毫モ影響ナキモノトス

○差押物件ノ保管證ヲ徵セサルカ爲メ差押ノ効ナク又ハ封印破毀ノ行爲ナシト謂フヲ得ス

○雇人トハ一定ノ期間雇傭契約ニ依リ雇入レラレタル者ヲ謂フ從テ雇主不在中ノ留守居ノ如キモノハ雇人ニ非ス (明治三十四年十月七日)

辯護人佐々木直綱擴張第一點ノ要旨ハ收稅官吏タル稅務屬カ司法警察官トシテ證據蒐集ヲナスニ際シテハ間稅官吏ノ證票ヲ攜帶スルコトヲ要スルハ間接國稅犯則者處分法第一條第三項ノ規定スル所ナレハ原院カ稅務屬和田智道ノ爲シタル行爲カ職務執行トシテ適法ナル證據蒐集ノ行爲即有効ナル差押ナリト認ムルカ爲メニハ先ツ以テ此證票ヲ攜帶シタルヤ否ヤヲ證據ニヨリテ之ヲ明示セサルヘカラス然ルニ原院ハ其之ヲ認ムルニ付何等ノ理由ヲ付セサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○官署ノ施シタル封印ナルコト及ヒ之ヲ破毀シタル事實ヲ認メ之レカ理由ヲ明示シタル以上ハ間稅官吏ノ證票攜帶ノ如キハ犯罪事實ニ毫モ影響ナキヲ以テ特ニ其證票攜帶ノ證據ヲ示スヲ要セス」同第二點ノ要旨ハ間稅官吏カ差押手續トシテ其物品ノ保管ヲ命スル場合ニ於テ必ス預リ證ヲ徵スヘキモノニシテ本件ノ如キ此ノ規定ニ反シ單ニ和田收稅屬カ口頭保管ヲ命シタルニ過キサル違法手續ニ依リテ爲サレタル差押ハ差押トシテ効力ヲ有スルモノニアラス故ニ其物品ニ施シタル封印ノ如キモノ之ヲ官ノ特別ノ處分ニヨル封印ト云フヲ得サルナリ然ルニ原院ハ和田屬カ差押ヲナシタル甕ヲ被告ニ保管ヲ命シタルニ被告ハ保證書ヲ差出サスト認ムルニ係ハラス封印破毀ノ所爲アリトシ刑法第七十四條ニ間擬シ

タルハ違法ナリト云フニ在レトモ本件原判決ノ認ムル所ハ和田收稅官吏カ密造濁酒在中ノ甕ヲ差押ヘ封印ヲ施シ被告ニ保管ヲ命シタルニ被告ハ保管證ヲ差出スコトヲ拒ミ同人ノ立去リタル後其封印ヲ破毀シタル事實ニシテ所謂預リ證ヲ徵シ得サリシハ被告ノ抗拒ニ出テ其手續ヲ行フ能ハサリシモノナレハ之レニ對シ保管證ヲ徵セサルカ爲メ差押ノ効ナク又ハ封印破毀ノ行爲ニアラスト論難スル如キハ太々謂レナシ」被告美代吉辯明第二點ノ要旨ハ豫審ノ證人タル勝又紋次郎ハ和田收稅屬ノ告發書等ニ依レハ被告ノ留守居ニ雇ヒタルコト明カナリ即チ留守居ハ被告家ノ雇人ナルヲ以テ之ヲ證人トシテ取調ヘタル豫審調書ヲ罪證ニ供シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第二百二十三條ノ雇人トハ一定ノ期間雇傭契約ニ依リ雇入レラレタル者ノ謂ニシテ本件雇主不在中ノ留守居ノ如キハ同條ノ所謂雇人ニアラス乃チ原判決ハ所論ノ如キ不法ナシ

○收稅官吏ハ犯則事件ノ調査ヲ終リタル後證憑埋滅ノ虞アルトキハ直ニ之ヲ告發スルノ職權ヲ有ス而シテ證憑埋滅ノ虞アリヤ否ヤハ當時ノ情況ニ徴シ當該官吏ノ査定スヘキモノトス

(明治三十四年十月七日)

辯護人石原毛登馬上告趣意書ノ第一點ハ上告人ニ對スル酒造税法違犯事件ハ稅務屬カ濫リニ證憑埋滅ノ虞アリトノ理由ヲ以テ直ニ司法裁判所ヘ告發シタルモノニシテ明治三十三年法律第六十三號第十三條ニ違反スル告發ナルヲ以テ之ニ由リテ公訴ヲ提起シタルハ不法ナリ然ルニ原判決カ控訴ヲ却下セラレタルハ法律ヲ不當ニ適用シタル不法アリト云フニ在リ○然レトモ收稅官吏犯則事件ノ調査ヲ終リ證憑埋滅ノ虞アルトキハ直ニ之ヲ告發スヘシトハ間接國稅犯則者處分法第十三條第三號ノ規定スル所ニシテ其證憑埋滅ノ虞アリト認ムヘキモノナリヤ否ヤハ一ニ當該官吏カ當時ノ情況ニ徴シ之ヲ査定スヘキモノトス故ニ今本件ニ於テ當該官吏カ證憑埋滅ノ虞アリト認メ之ヲ告發シタルモノナレハ之ニ由リテ提起セラレタル公訴ハ素ヨリ適法ノモノナリトス故ニ原院ニ於テ第一審裁判所カ公訴不受理ノ申立ヲ却下シタル判決ヲ是認シ被告ノ控訴ヲ棄却シタルハ毫モ不法ニアラス

○仲買人カ一旦取引所ニ於テ直取引ノ賣付ヲ爲シ翌日解約シナカラ預合ト稱シテ仲買人相互ノ間ニ於テ其取引ヲ結了セス後日ニ至リ轉賣ト稱シテ買付ヲ爲シ以テ前ノ賣買ト後ノ賣買トノ差額取引ヲ爲スカ如キハ名ヲ直取引ニ借リテ定期取引ノ實ヲ行フモノト云ハサルヲ得ス (明治三十四年十月二十六日)

上告趣意ノ第三ハ原判決ハ其理由ヲ說明シテ曰ク「取引所ノ仲買人カ賣買ノ直取引ヲ爲シ其翌日取引所ニ對シテ解約ヲ申出ナカラ内實其賣付ニ付テハ仲買人間ニ於テ預合トナシ履行ヲ猶豫シ後日賣付物品ノ相場騰貴スルニ及ヘハ轉賣(又ハ買埋)ト稱シテ賣方ヨリ買方ニ對シ前ニ賣付ケタルモノト種類品質ノ相同シキ物ヲ買受ケ賣付ト轉賣トノ間ニ生スル損益ノ計算ヲ爲スカ如キ方法ニ依ル取引ハ即チ取引所外ニ於テ爲ス取引所ノ定期取引ト類似スル賣買取引ニシテ取引所法第二十五條ノ規定ニ依リ禁止セララル此規定ハ公ノ秩序ニ關スルモノニシテ之ト異ナリタル慣習ハ法律上認容スヘカラサルカ故ニ假令此ノ如キ取引方法カ橫濱蠶糸外四品取引所ノ仲買人間ニ慣習トシテ行ハレ法律行為ノ當事者カ此慣習ニ從フ事ノ意思表示ヲ爲シタリトスルモ當事者カ此ノ慣習ニ支配セララルヘキニ非サルコトハ民法第九十二條ノ趣旨ニ照シテ明白ナルノミナラス此ノ如キ取引方法ニテ賣買取引ヲ爲スノ委託ハ公ノ秩序ニ反スル事項ヲ目的トスル法律行為ナルヲ以テ同法第九十條ニ依リ無効タルヘキモノトス而シテ云々被控訴人主張スル控訴人ノ委託ハ即チ法律上無効ナルモノニシテ且其主張スル控訴人ノ委託ナルモノヲ前ニ掲クル如キモノトセハ之ヲ區分シテ仲買人間ニ於ケル預合轉賣ノ關係ニ付テハ無効ナルモ取引所ニ對スル直取引ノ關係ニ付テ有効ナルモノトナスヲ得スシテ委託事項

全部ニ付無効トセサルヘカラサルカ故ニ右損失額ニ付テモ亦法律上全ク控訴人ノ負擔ニ歸スルコト無キモノト謂ハサルヘカラス」ト云フニ在リ原院ニ於テハ上告人カ被上告人ヨリ委託シタル事項ニ付爲シタル商行爲ノ全部ヲ取引所法第二十五條ノ規定ニ違背シ公ノ秩序ヲ害スル行爲ナリトシテ之ヲ全然無効ナリト判決シタルハ法則ノ適用ヲ誤リタル不法ノ判決ナリトス其理由ハ左ノ如シ

上告人ハ被上告人ノ委託ニヨリ横濱蠶糸外四品取引所ニ於テ乙第一號證賣約定表ニ記載シア
ル如ク器械太糸一番物四百五枚及五十枚ノ直賣ヲ爲シタルモ各々其日附ノ翌日ニ至リ取引所
ニ對シテハ定款第九十五條ニ依リ何レモ解約ヲ届出テ而シテ其賣買ニ付テハ商習慣ニ從ヒ對
手仲買間ニ於テ預合トナシ後日賣付物品ノ相場騰貴シタルヨリ轉賣ト稱シテ更ニ被上告人手
締ノ爲メ前ニ賣付タルモノト種類品質ノ相同シキ物四百五枚及五十枚ヲ乙第一號證賣約定表
ニ記載シタルカ如ク是亦同取引所ニ於テ買受ケ其結果トシテ計算上生シタル損失額ヲ支出ス
ルニ至リタリ然リ而シテ此ノ委任行爲ハ取引所法第二十五條ノ所謂取引所外ニ於テ取引所ノ
定期取引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ賣買取引ヲ爲シタルモノニ該當スルヤ否ヤハ本件ノ要
點トシテ審究スヘキ所ナリ之ヲ按スルニ第一上告人カ被上告人ノ委託ヲ受ケ横濱蠶糸外四品
取引所ニ於テ前記物品ノ直賣ヲ爲シタルモ各其翌日ニ至リ委任者ノ意思ニ依リ賣買當事者雙
方ノ合意上定款ノ規定ニ從ヒ解合ヲ爲シ之ヲ取引所ニ届出テタル行爲ハ仲買人トシテ上告人
カ取引所ニ對シテモ亦委任者トシテ受任者タル被上告人ニ對シテモ何等違法ノ處置ニアラサ
レハ之ヲ以テ無効ノ法律行爲ト云フヲ得サルハ論ヲ俟タサル所ナリ第二公然取引所ニ於テ賣

付又ハ買受タル物品其物ヲ唯受渡ノ都合上對手仲買人ト合意ノ上表面ニ於テ適法ノ解約ヲ爲
シ裏面ニ於テ雙方間ニ預合ト稱スル一ノ行爲ヲ爲スコトハ横濱蠶糸外四品取引所仲買人間ニ
久シク行ハレ來リタル一ノ商慣習ニシテ取引所ニ對シテハ何等ノ關係ナキモ委任者ト仲買人
トノ間及賣買雙方ノ仲買人間ニ於テハ合意上常ニ行ハル、所ノモノナリ而シテ此商習慣アル
カ爲メニ當事者其他何人ニ於テモ未タ曾テ何等ノ實害ヲ被リタルモノ之レアラサルハ勿論社
會ニ對シ何等ノ害毒ヲ醸サ、ルカ故ニ此慣習ヲ以テ直チニ公ノ秩序ヲ害スルモノト云フヲ得
サルハ多辯ヲ要セスシテ明ナリ又此預合ナルモノハ取引所法第二十五條ニ所謂取引所外ニ於
ケル取引所ノ定期取引ト同一又ハ類似ノ方法ニ依ル賣買取引ト云フヲ得ヘキモノニ非サルコ
トハ其行爲自体ヲ以テ明白ナリトス第三仲買人カ預合ノ後或時期ニ於テ賣付物品ノ相場騰貴
シタルヨリ轉賣ト稱シ前ニ賣付タルモノト種類品質ノ相同シキ物ヲ更ニ復タ公然取引所ニ於
テ手数料ヲ支拂ヒ買受クルノ行爲ハ素ヨリ上告人カ委任者タル被上告人ノ委託ニ依リ仲買人
トシテ普通ノ手續ヲ爲シタルモノナレハ取引所ニ對シテハ仲買人トシテ適法ノ手續ト責任ト
ヲ盡シ委任者ニ對シテハ其委任權ヲ適法ニ實行シタルモノニ過キサルモノナリ是カ故ニ前記
ノ賣買取引ヲ以テ原判決ノ所謂取引所外ニ於テ取引所ノ定期取引ト同一又ハ類似ノ方法ニ依
ル賣買取引ト云フヲ得サルハ敢テ喋々ヲ要セサルナリ以上(第一)(第二)(第三)ノ行爲ハ之ヲ
綜合連續スルモ亦之ヲ分離獨立セシムルモ一トシテ取引所法第二十五條ニ該當スルモノニ非
サルコトハ自ラ明カナリ殊ニ(第二)ノ行爲即チ預合ノ商習慣ハ數十年間各取引所ニ於テ日
常實行セラレ且ツ公ノ秩序ニ關セサルモノナレハ當然法律上認容スヘキモノナリ然ルニ原院

ニ於テハ前掲ノ委託事項ノ全部即チ(第一)乃至(第三)ノ行爲ヲ一括シテ之ヲ無効ナリト判断シタルハ取引所法第二十五條及民法第九十條及同第九十二條等ノ適用ヲ全然誤リタル不法アルモノトスト云フニ在リ○然レトモ本論旨ニ所謂轉賣ト稱スルモノハ通例ノ手續ニ依リ仲買人カ取引所ニ於テ買付ヲ爲スモノナリトノ事實ハ原判決ニ於テ確定セサルノミナラス當事者カ如斯申立ヲ爲シタル事蹟ハ訴訟記録ニ徵スルコトヲ得ス然リ而シテ其轉賣ナルモノハ取引所ニ於テ爲スモノナルト否トニ關セス原判決ニ於テ本論旨ノ題目タル取引ヲ不法ニシテ無効ナリト判示シタルハ誠ニ相當ナリ抑原判決ニ於テ確定シタル事實ニ依レハ上告人ハ被上告人ノ委任ニ依リ一旦取引所ニ於テ直取引ノ賣付ヲ爲シ其翌日解約シタルヲ以テ此ニ賣買契約ハ消滅シタルモノト言ハサルヲ得ス然ルニ上告人ハ預合ト稱シテ仲買人相互ノ間ニ於テハ依然其取引ヲ結了セス而シテ後日ニ至リ轉賣ト稱シテ買付ヲ爲シ以テ前ノ賣買ト後ノ賣買トノ差額取引ヲ爲シタルコト明ナレハ則チ明治二十六年勅令第七十四號第十二條及ヒ第十五條ノ規定ニ遵由シテ解約シタル賣買ヲ結了セサルノミナラス名ヲ直取引ニ假リテ定期取引ノ實行フモノト云ハサルヲ得ス何トナレハ假令轉賣ナルモノハ取引所ニ於テ買付ヲ爲スモノナリトスルモ仲買人相互ノ間ニ於テハ前ノ賣買ト後ノ賣買トハ恰モ定期取引ノ賣付ニ對スル買戻ト買付ニ對スル轉賣トノ如キ關係アリテ其定期取引ニ類似スル取引ナルコト絲毫ノ疑ナケレハナリ故ニ本論旨モ亦上告ノ理由トナラス

○酒造營業人ハ其醸造場一ヶ所毎ニ免許ヲ受ケサルヘカラス從テ免許ノ製造場外ニ於テ清酒

醪ヲ製造シタル所爲ハ酒造稅法第二十二條ニ依リ處分スヘキモノトス

○免許ヲ受ケサル場所ニ於テ醪ヲ製造シ之ヲ免許ヲ受ケタル場所ニ移シ清酒ヲ製シ査定ヲ免レタルトキハ密造ノ所爲ト清酒ノ査定ヲ免レタル所爲トノ二ヶノ所爲ナリトス

(明治三十四年十一月十四日)

上告趣意書ハ本件ノ事實ハ原院ノ認ムルカ如ク渡島國龜田郡大野村字西上町四十二番地即チ免許ヲ受ケタル製造場以外ニ於テ清酒醪六石五斗ヲ製造シ之ヲ免許ヲ受ケタル製造場ニ送致シテ酒精容量百分ノ二十以下ノ清酒五石七斗六升五合ヲ搾取シ更ニ密造場所タル西上町四十二番地板倉ニ隱蔽シタルモノニ係レリ然ルニ原審ハ此事實ニ對シ酒造稅法第二十二條同第二十四條ヲ適用シ二ヶノ犯罪ナリトシテ處斷シタルハ左ノ點ニ於テ不法ナリ(一)酒造營業人ニ對スル免許ニシテ場所ニ對スル免許ニアラス故ニ營業者ハ假令製造場外ニ於テ醸造スルモ其査定ヲ受クルニ於テハ固ヨリ之ヲ稅法違反ナリト爲スヲ得サルコトハ恰モ營業者カ醸造申告高ヲ超過シテ醸造シタル場合ニ於テ其査定ヲ受クルハ茲ニ犯罪アリト云フヲ得サルカ如シ本件ノ如ク營業者カ製造場以外ニ於テ醸造セシハ稅法第二十四條ノ所謂不正ノ所爲ヲ以テ査定ヲ免レ又ハ免レムト爲シタル云々ニ該當シ決シテ無免許醸造ヲ以テ論スヘキ筈合ニ非ス然ルニ原審カ上告人ノ製造場以外ノ醸造ノ所爲ニ對シ稅法第二十二條ヲ適用シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○酒造稅法第二條ニ酒類ヲ製造セムトスルモノハ製造場所一ヶ毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシトアリテ酒造營業人ハ人ノミニ限ラス其醸造場所一ヶ毎ニ免許ヲ受ケサルヘ

カラサルコト知ルヘキナリ既ニ酒類ノ醸造ニ付テハ人ト場所トノ免許ヲ要件ト爲シタル以上ハ原院ニ於テ被告カ免許ヲ受ケタル製造場所外ニ於テ清酒醪ヲ製造シタル所爲ニ對シ稅法第二十二條ヲ適用處斷シタルハ相當ナリトス(一)前顯製造場以外ノ醸造ヲ以テ稅法第二十二條ノ所謂無免許醸造ノ犯罪ナリトセハ其醸造ニ係ル醪ヲ免許ヲ受ケタル醸造場ニ送致シ清酒ヲ搾取シテ之ヲ醸造ノ現場即密造ノ場所ニ隱蔽シタル所爲ハ第一ノ犯罪(無免許醸造ノ所爲)ノ結果ニシテ稅法第二十四條ノ所謂查定ヲ免レ若ハ免レムトスルノ犯罪ニアラス如何トナレハ不適法ニ醸造シテ查定ヲ免レムトスルハ即チ無免許醸造ノ所爲ニシテ無免許ノ醸造物其物ハ絶對ニ查定ヲ受クヘキモノニアラサルナリ之ヲ要スルニ法律上ノ查定ヲ受クヘキ物件ハ營業者カ免許ヲ受ケタル公開ノ製造場ニ於テ適法ニ醸造シタル酒類ニ限ルヘク營業者ナルト否トヲ問ハス始メヨリ密造ノ意志ヲ以テ不法ニ醸造シタル酒類ハ法律上查定ヲ受クヘキモノニアラサレハナリ去レハ原審ノ認メタル第一ノ所爲カ無免許醸造ノ犯罪ナリトシテ稅法第二十二條ノ適用ヲ受クヘキモノナリトセハ之ヲ清酒ニ搾取シテ隱蔽シタル所爲ハ第一ノ所爲ノ自然ノ結果ニシテ稅法第二十四條ノ犯罪ナリト云フヲ得ス然ルニ原院カ之ニ對シ第二十四條ヲ以テ科罰シタルハ不法ナリ以上ノ如ク稅法第二十二條若ハ第二十四條ノ一罪ヲ以テ論スヘク決シテ二罪ヲ以テ論ス可キモノニアラスト思料スト云フニ在リ○然レトモ免許場外ニ於テ醪ヲ製造シ同場所ニ於テ醪又ハ清酒ヲ製シタルトキハ論旨ノ如ク醪又ハ清酒密造ノ一所爲ナルヘキモ本件事實ノ如ク免許ヲ受ケサル場所ニ於テ醪ヲ製造シ之ヲ免許ヲ受ケタル場所ヘ移シ以テ清酒ヲ製シ之カ查定ヲ免レタルトキハ密造ノ所爲ト清酒ノ查定ヲ免レタル所爲ト素

ヨリ二個ノ所爲ト云フヲ得ヘシ此場合ニ於テハ其原料ヲ他ヨリ讓受ケ之ヲ免許場内ニ移シ清酒ヲ製成シタルト同シク其製成ノ清酒ニ付查定ヲ受クヘキコトハ施行規則第四十條第十條ノ趣旨ニ依リ知ルヲ得ヘシ然ルニ本件被告ハ其製成ノ清酒ニ付查定ヲ受ケスシテ他ノ場所即チ無免許ナル醪製造ノ場所ニ移シタルモノナレハ原院カ之ヲ同法第二十四條ニ間擬シタルハ相當ニシテ毫モ不法ノ點アルコトナシ

○煙草製造人ハ葉煙草專賣法ニ依リ毎年其免許ヲ受クヘキモノトス從テ無免許ニテ數年度製
造シタルトキハ其年度毎ニ別罪ヲ構成ス (明治三十四年十一月二十二日)

(參照) 煙草ノ製造又ハ葉煙草ノ賣買ヲ業トセムトスル者ハ毎年政府ニ申立テ免許ヲ受ケ左ノ免許料ヲ納ムヘシ其業
ヲ廢セムトスルトキハ其際届出ヘシ (葉煙草專賣法第十九條ノ五)

上告趣意書第一ハ原裁判所ニ於テハ上告人カ明治三十三年三月十七日ヨリ明治三十四年二
月二十日迄ノ間繼續シテ葉煙草六十六貫百五十匁ヲ湊麟太郎ヨリ買受ケ之ヲ刻製シテ販賣シ
タル事實ヲ認メナカラニケノ犯罪アルモノトシテ各一罪ニ付罰金百圓ノ刑ヲ言渡サレタルモ
思フニ原判決ニ認ムル如ク犯意繼續スル上ハ犯罪ノ時期ニシテ二年度ニ涉ルモノ一罪タル事勿論ニシ
テ納税ノ年度ニ區分アルモ之カ爲メ犯罪ヲ區分スヘキ理ナク一罪ハ常ニ一罪ニシテ只其一罪
ニ年度ニ涉ル爲メ二年度ノ脱税アルトキハ其二年度ノ脱税高ヲ合算シ之カ二倍若ハ五倍ノ罰
金ヲ科スヘク三十三年ノ犯罪三十四年ノ犯罪ト區分スヘキモノニアラス故ニ原裁判所カ二罪
ト認メ葉煙草專賣法第二十七條ヲ適用處斷シタルハ擬律ノ錯誤アル不法ノ裁判ナリト云フニ
在レトモ○葉煙草專賣法ニ依レハ葉煙草製造人ハ毎年其免許ヲ受クヘキモノトス故ニ無免許ニ
テ數年度製造シタルトキハ其年度毎ニ別罪ヲ成スコトハ當然ニシテ意思ノ繼續ヲ以テ一罪ト
ナスヘキモノニ非サレハ原院カ年度毎ニ罪ヲ爲スモノトシテ處斷シタルハ相當ナリトス

○煙草ノ製造トハ葉煙草ニ加工シテ製造スルモノ、ミノ謂ニアラスシテ刻煙草粉煙草等ヲ以
テ紙卷煙草ヲ製造スルモノヲモ包含ス (明治三十四年十一月二十九日)

上告趣意ハ抑モ葉煙草專賣法第十九條ノ煙草製造者ナルモノハ葉煙草ヲ專賣所ヨリ拂下ケ
ヲ受ケ之ニ加工 (刻煙草及葉煙草刻卷煙草等) シテ販賣スルモノヲ指稱スルモノナルコトハ
論ヲ俟タサル所ナリ然ルニ被告ハ葉煙草ニ加工製造シタルモノニアラスシテ原判決ニ認メラ
レタル如ク煙草製造人ナル長崎縣南高來郡神代村煙草製造人本田直一其他ノ煙草製造人ヨリ
刻煙草ヲ買入レ紙卷ニナシタル迄ニシテ被告カ初メヨリ刻煙草其他ノ加工製造ヲナシタルニ
アラサルコトハ第一審以來原院モ認容セラレタル事實ナリトス如斯製造人ハ他ニ已ニ專賣法
ノ規定ニ從フ人アリテ該法ノ課税ハ已ニ濟ミタル煙草其モノニ對シ幾重ニモ課税スルハ法ノ
精神ニ非サルヘシ被告ハ縣稅課目ニ依リ煙草工業ノ鑑札ヲ願受ケ之ニ基キ營業スルモノナレ
ハ決シテ葉煙草專賣法ノ制裁ヲ受クヘキ理由ナシ然ルニ原院カ葉煙草專賣法第十九條ノ五同
法施行細則第八條ノ三葉煙草專賣法第二十一條ノ二ヲ適用處斷セラレタルハ法律ヲ不當ニ適
用シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○葉煙草專賣法第十九條ノ五ニ所謂煙草ノ製造ト
ハ論旨ノ如ク單ニ葉煙草ヲ以テ刻煙草葉煙草刻卷煙草等ヲ製造スルカ如キ則チ葉煙草ニ加
工シテ製造スルノミノ謂ニ非スシテ該煙草粉煙草等ヲ以テ紙卷煙草ヲ製造スルモ亦煙草ノ製
造ナルヤ法文上疑ナシ故ニ原院ニ於テ被告カ免許ヲ得スシテ刻煙草及粉煙草ヲ用キ紙卷煙草
ヲ製造シテ販賣シタル所爲ヲ以テ葉煙草專賣法第十九條ノ五同第二十一條ノ二等ヲ適用處斷
シタルハ相當ニシテ本論旨ハ上告ノ理由ナシ

○取引所外ニ於テ取引所ノ定期取引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ賣買取引ヲ爲シタル者トシ之ヲ處罰スルニ當リ如何ナル類似ノ方法ヲ以テ米賣買ノ取引ヲ爲シタルモノナルヤヲ詳示セサル判決ハ不法ナリ (明治三十五年二月十七日)

上告趣意書第二點ハ原裁判所ハ本件ヲ以テ取引所ノ定期取引ト類似ノ方法ヲ以テ賣買取引ヲ爲シタルモノトシテ判決セラレタリ然レトモ取引所法第十八條ニ取引所ノ賣買取引ハ直取引延取引及定期取引ノ三種トス第十九條ニ取引所ノ賣買取引ノ方法ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム第二十條ニ取引所ハ其定款ニ依リ證據金ヲ納メシムルコトヲ得トアリテ各其取引ノ種類ニ依リ其方法ヲ異ニスルコトハ明ナリ然ラハ原裁判所ノ一枚ヲ十石トナシ一枚ニ付證據金ヲ二圓若ハ三圓ト定メ云々定期取引ト類似ノ賣買取引ヲ爲シタルモノトスト判決シタルハ其方法ヲ明示シタルニ非スシテ證據金等ヲ記載シタルニ止リ未タ以テ賣買取引ノ方法ヲ明示セリト云フヲ得ス即チ其定期取引ハ如何ナル方法ナルカヲ示シ次テ本件ノ取引態様ヲ示シ以テ類似ノ賣買取引ナルヤ否ヲ判定セサルヘカラス然ルニ原審ハ事茲ニ出テスシテ單ニ類似ノ方法ヲ以テ云々ト判決セラレタルハ理由不備ノ判決ナリト云フニ在リ○依テ原判決ヲ查スルニ其前段ニ被告等ハ取引所外ニ於テ定期取引ト類似ノ取引ヲ爲サムコトヲ云々ト掲ケ其後段ニ定期取引ト類似ノ賣買取引ヲ爲シタルモノナリトアリ而シテ其事實トシテハ單ニ一枚ヲ十石トナシ一枚ニ付保證金ヲ二圓若ハ三圓ト定メトノミ記載アリテ被告等ハ如何ナル類似ノ方法ヲ以テ米賣買ノ取引ヲ爲シタルモノナルヤ之ヲ詳示セサルヲ以テ被告等ノ行爲カ果シテ取引所法違反ナルヤ否ヲ知ルニ由ナシ若シ其方法ニシテ相場ノ高低ニ依リ損益ヲ計算シ其差

額ノミノ取引ヲ爲シタルモノトスレハ賭博罪ヲ成スヘキモノナルヲ以テ其方法ヲ明示スルハ最モ必要ナリトス然ルニ原判決ハ前示ノ如ク其明示ヲ欠キタルモノナレハ即チ理由不備ノ判決ニシテ本論旨ハ上告ノ理由アルモノトス

○酒造稅法第三十一條ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕等ノ例ヲ用キサルコトノ規定ノミニシテ教唆ニ關スル特別ノ規定ナシ從テ刑法第百五條ノ教唆ノ規定ハ酒造稅法違犯ノ場合ニ於テ全然之ヲ適用スルコトヲ要ス

○間接國稅犯則者處分法第六條ノ臨檢ニ際シ云々トアルハ臨檢ノ場所ニ於テノミ犯則者及證人ノ陳述ヲ聽クコトヲ得ルノ主旨ニ非スシテ臨檢ノ場所以外ニ於テモ臨檢ノ處分ニ引續キ有効ニ尋問ヲ爲スコトヲ得ルノ主旨ナリトス

○酒造稅法第三十二條ハ代理人家族其他ノ者ノ爲シタル犯罪行爲ヨリ生スル刑罰ノ責任ハ酒類製造人ヲシテ之ヲ負ハシムルコトヲ規定シタルニ過キサルモノトス從テ酒類製造人ノ代理人家族其他ノ者ヲ教唆シテ稅法違犯ノ行爲ヲ爲サシメタル者ハ刑法第百五條ニ依リ酒造稅法違犯ノ正犯トシテ處罰スヘキモノトス (明治三十五年四月二十四日)

(參照) 人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ又正犯トナス (舊刑法第百五條)

被告市右衛門ノ上告趣意書ハ被告カ九石二斗ノ腐敗清酒ヲ汲取リ佐藤英作ニ交付シタル事實ハアルモ之レカ爲メ酒造稅法第二十五條ヲ適用スヘキモノニアラス何トナレハ該清酒ハ既ニ稅務屬ノ査定ヲ得タルモノニシテ之ヲ販賣又ハ他ニ交付スルコトハ被告ノ任意ニシテ毫モ違法ノ所爲ニアラス而シテ其汲取リタル跡ハ水ヲ混和スルモ爲メニ造石稅ヲ増減スルニ足ラサレハ脫稅ヲ謀リタル行爲ナリト云フヲ得サレハナリ然ルニ原院カ被告ニ對シ酒造稅法第二十五條ヲ適用シタルハ不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原判文ヲ閱スルニ被告ノ代理人タル内山仲吉ニ於テ清酒百六石七斗四升九合ノ内九石二斗ヲ汲取リ之レヲ被告英作方ヘ廻送シ

殘清酒九十七石五斗四升九合ノ中へ水九石二斗ヲ投入シ清酒百六石七斗四升九合現存スルモノ、如ク裝ヒ腐敗酒トシテ其全部ニ對シ被告市右衛門ヨリ稅金免除ノ申請ヲ當該官廳ニ提出シタル事實ニシテ即チ詐術ヲ構ヘ清酒九石二斗ノ造石稅ノ免除ヲ得ムトシタル旨判示シアリ右判文ノ主旨ニ依ルトキハ原院ハ被告カ九石二斗ノ酒ヲ英作ニ販賣シタルノ所爲ヲ違法ナリト認メタルニアラス被告ノ代理人仲吉ニ於テ九石二斗ヲ他ニ搬出シ同量ノ水ヲ殘清酒ニ混シテ清酒ノ全部現存セルモノ、如ク裝ヒ被告ヨリ其全部ニ對スル免稅ヲ出願シ既ニ他ニ搬出シテ免稅ヲ受クルコト能ハサル九石二斗ノ分ニ對シテモ免稅ヲ得ムトシタル所爲ハ酒造稅法第二十五條ニ該當スルモノト認メ同條ノ刑ニ問擬シタルモノニシテ右原院ノ認メタル事實ニ依レハ被告ハ詐欺ノ手段ヲ以テ九石二斗ノ免稅ヲ得ムトシタルモノナレハ原判決ハ相當ニシテ上告論旨ハ理由ナシ

被告英作上告趣意書ハ原判決ハ被告ニ對シ酒造稅法違犯者トシテ罰金ノ刑ニ處セラレタレトモ被告ハ酒類製造營業者ニアラサレハ酒造稅法ノ適用ヲ受クヘキモノニアラス從テ酒造稅法違犯者トシテ罰セラレヘキ道理ナシ然ルニ原院カ被告ニ對シ酒造稅法違犯者トシテ刑ヲ科セラレタルハ法則ヲ不當ニ適用セシ違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○刑法第百五條ニ依ルトキハ人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタルモノハ正犯トシテ其責ニ任セサルヘカラス而シテ同法第五條ニ依ルトキハ右第百五條ノ規定ハ別ニ總則ノ設ナキ他ノ法律規則ニ規定スル犯罪ニ適用セラレヘキハ論ヲ俟タス而シテ酒造稅法第三十一條ニハ「此稅法ヲ犯シタルモノニハ刑法ノ不論罪云々ノ例ヲ用キス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニアラス」トア

ルノミニテ教唆ニ關スル特別ノ規定ナケレハ刑法第五條ノ規定ハ之レヲ酒造稅法違犯ノ場合ニ全然適用スルコトヲ要スルモノト斷定セサルヘカラス尤モ酒造稅法第三十二條ニハ「酒類ヲ製造スル者ノ代理人家族同居者雇人其他ノ從業者ニシテ其業務ニ關シ此稅法ヲ犯シタルトキハ製造主ハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ此ノ稅法ノ處罰ヲ免ル、コトヲ得ス」トアリ此規定ヨリ生スル結果トシテ稅法違犯ノ責ニ任スル者ハ製造人ニシテ代理人家族等ハ其責ニ任セサルコト、ナルヲ以テ稅法ノ適用ヲ受クヘキモノハ酒類製造營業者タルコトヲ要シ其以外ノ人ハ假令稅法違犯ノ行爲アルモ其適用ヲ受クヘキモノニアラスト論スルコトヲ得ヘキカ如シト雖モ右第三十二條ハ營業者ノ代理人家族同居者雇人其他ノ從業者ニ稅法違犯ノ行爲アリタル場合ニ關スル特別ノ規定ヲ包含スルモノナレハ同條ハ嚴ニ其規定ノ眼目タル特別ノ場合ニノミ適用スヘク之ヲ擴張シテ其規定ノ範圍外ニ屬スル他ノ場合ニ適用スルコトヲ得サルモノトス從テ營業者ノ代理人家族等第三十二條ニ列記シタルモノ、部類ニ入ラサルモノニ稅法違犯ノ行爲アリタルトキハ其違反者ハ製造營業人タルト否トニ論ナク犯罪行爲ノ責罰ニ關スル一般ノ原則ニ從ヒ稅法ニ定ムル刑罰ノ制裁ニ服從セサルヘカラス故ニ右第三十二條ニ列記シタル資格ヲ有セサル者ハ同條ノ規定ヲ援用シテ稅法違反ノ責ナシト主張スルコト能ハサルノミナラス教唆罪ノ成立不成立ハ一ニ主タル犯罪ノ成立不成立ニ係ルヲ以テ主タル犯罪カ成立シタル以上ハ教唆罪ハ完全ニ成立スヘク教唆者カ自ラ其犯罪ノ主体タルヘキ身分ヲ有スルヤ否ハ毫モ教唆罪ノ成立ニ影響ヲ及ボサ、ルヲ以テ或犯罪ノ主体タル身分ナキ者ト雖モ他人ヲシテ其犯罪ヲ爲スコトニ決意セシメタル以上ハ教唆者トシテ刑罰ノ責任ヲ辭スルコト

能ハサルモノトス而シテ原判文ヲ見ルニ被告英作ハ内山市右衛門ノ代理人タル仲吉ヲ教唆シ詐僞ノ手段ヲ以テ免稅ヲ得ムトスル酒造稅法違犯ノ行爲ヲ爲サシメタルモノナレハ刑法第五條ノ規定ニ從ヒ酒造稅法違犯ノ正犯トシテ同法ノ適用ヲ受クヘキモノトス故ニ原院カ被告ニ對シテ右稅法ノ刑ヲ科シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ理由ナシ

辯護人山口憲上告趣意擴張書ノ第一ハ明治二十三年法律第八十六號間接國稅犯則者處分法第六條ニ依レハ收稅官吏ハ單ニ臨檢ヲ爲スニ際シ犯則者及證人ノ陳述ヲ聽クコトヲ必要トスル時ハ之ヲ尋問スルコトヲ得ルニ止マリ其他ノ場合ニ於テハ人民ヲ尋問スル職權ヲ有スルモノニアラス然ルニ原院カ證據トシテ採用セラレタル馬場才次郎ノ顛末書ナルモノハ臨檢ノ際爲シタル尋問調書ニ非スシテ馬場才次郎ノ住所ナル北魚沼郡小千谷町第四百七十八番戶ニ於テ小千谷稅務署收稅官吏カ與板稅務署ノ囑託ニ依リ單獨ニ訊問作成セラレタル書面ナリ而シテ該書面ノ名ハ顛末書ナルモ其實質ハ訊問調書ナルコト其形式ニ於テ明ナリ左レハ原院ハ職權ナキ收稅官吏カ作成シタル無効ノ訊問調書ヲ斷罪ノ證據ト爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○間接國稅犯則者處分法第六條ニハ間稅官吏臨檢ニ際シ犯則者及證人ノ陳述ヲ聽クコトヲ必要トスルトキハ之ヲ尋問スルコトヲ得トアリ其所謂臨檢ニ際シ云々トアルハ臨檢ノ場所ニ於テノミ犯則者及證人ノ陳述ヲ聽クコトヲ得其以外ニ於テハ之ヲ聽クコトヲ禁スルノ主旨ニアラスシテ臨檢ノ上犯則者又ハ證人ヲ訊問スルノ必要ヲ生シタルトキハ其場所ニ於テ尋問ヲ爲スコトヲ得ルハ勿論臨檢ノ場所以外ト雖モ臨檢ノ處分ニ引續キテ訊問ヲ爲スコトハ臨檢ノ際ニ於ケル處分トシテ有効ニ爲シ得ヘキモノト解釋スルヲ相當トスルノミナラス同法第

二條ハ管轄區域外ノ證憑蒐集ニ關シテ囑託ノ手續ヲ認許セルニ依リ收稅官吏カ右第六條ノ規定ニ從ヒ證人ノ訊問ヲ爲シ得ヘキ場合ニ訊問ヲ要スル證人カ管轄區域外ニ在ルトキハ囑託ノ手續ニ依リ之ヲ訊問スルコトヲ得ヘキモノト解釋セサルヘカラス而シテ本件ニ於テハ與板稅務署收稅官吏兵藤武雄カ犯則者タル内山市右衛門方ニ數回臨檢ヲ爲シ其間ニ於テ小千谷稅務署ノ官吏ニ囑託シテ其管轄區域内ニ住スル馬場才次郎ノ訊問ヲ爲サシメタルコトハ一件記録ニ徵シテ明ナレハ原院カ其調書ヲ斷罪ノ證ニ供シタルハ適法ニシテ上告論旨ハ理由ナシ」其第二ハ原判決ハ被告佐藤英作カ清酒百餘石ノ内十石程ヲ汲取リ其痕跡ヲ掩ハムカ爲メ其跡ヘ水ヲ汲入ルヘキ旨ヲ相被告内山市右衛門ノ代理人仲吉ニ勸メ仲吉ハ之ニ應シタリトノ事實ヲ認メ被告英作ニ教唆ノ罪アリト判決セラレタレトモ仲吉ハ實行者ナリト雖モ正犯ニモ從犯ニモアラス本件酒造稅法違犯ニ付テハ全ク何等ノ犯罪ヲモ構成セサルモノナリ左レハ假令被告英作カ原判決ノ如ク勸告シタレハトテ刑事上ノ教唆罪ヲ構成スヘキモノニ非ス何トナレハ教唆罪ハ正犯ニシテ罰スヘキ本人自身ニ決意ヲ爲サシムルニアラサレハ成立スヘキモノニアラサレハナリ然ルニ原院カ之ヲ教唆ノ罪アリトセラレタルハ不法ナリト云フニ在リ○依テ審按スルニ原院ノ認メタル事實ニ依レハ被告英作ハ市右衛門ノ代理人タル仲吉ヲ教唆シテ酒造稅法違犯ノ行爲ヲ爲サシメタルモノニシテ直接ニ市右衛門ヲ教唆シ市右衛門ヲシテ酒造稅法違犯ノ行爲ヲ爲スコトニ決意セシメタルモノニアラサルコトハ辯護人主張ノ如シト雖モ被告英作ハ尙教唆者トシテ同法ノ處罰ヲ免ル、コトヲ得サルモノトス蓋シ既ニ掲記シタル酒造稅法第三十二條ノ明文ニ依ルトキハ酒類製造人ハ自己ノ關知セサル其代理人家族等ノ爲シタル稅

法違犯ノ行爲ニ付キ犯罪人トシテ自ラ其責ニ任シ稅法ニ定ムル刑罰ニ服從セサルヘカラス隨テ製造人ノ代理人家族等ハ其現ニ爲シタル稅法違犯ノ行爲ニ對シテ刑罰ノ制裁ヲ受クルコトナシト雖モ是レカ爲メ其行爲ハ犯罪ヲ構成セサルモノト謂フコトヲ得ス何トナレハ代理人家族其他ノ者カ現ニ酒造稅法違犯ノ行爲ヲ爲スハ即チ酒造稅法ニ禁スル犯罪行爲ヲ爲スモノニ外ナラサルヲ以テナリ然ルニ酒造稅法ニ於テ代理人家族其他ノ者ノ爲シタル稅法違犯ノ行爲ニ對シ之ヲ處罰セサルハ代理人家族其他ノ者ノ爲シタル行爲ハ法律上犯罪ヲ構成セサルカ爲メニアラス徵稅ニ關スル政策上代理人家族其他ノ者ノ爲シタル行爲ハ酒類製造人カ自身ニ爲シタルモノトシテ酒類製造人ヲ處罰シ代理人家族其他ノ者ハ之ヲ不問ニ付スルニ過キサリナリ換言スレハ代理人家族其他ノ者ノ爲シタル犯罪行爲ヨリ生スル刑罰ノ責任ハ酒類製造人ヲシテ之ヲ負ハシムルニ過キサリモノトス果シテ然ラハ酒類製造人ノ代理人家族其他ノ者ヲ教唆シテ稅法違犯ノ行爲ヲ爲サシメタルモノハ即チ他人ヲ教唆シテ犯罪行爲ヲ爲サシメタルモノナレハ刑法第一百五條ノ規定ニ則トリ酒造稅法違反トシテ同法ノ刑罰ヲ受ケサルヘカラス現ニ教唆ヲ受ケタル代理人家族其他ノ者カ自身ニ刑罰ヲ受クルト否トハ之ヲ問フノ必要ナシ而シテ原院ノ認メタル事實ニ依レハ被告英作ハ酒類製造人タル市右衛門ノ代理人仲吉ヲ教唆シテ酒造稅法違犯ノ行爲ヲ爲サシメタルコト明カナレハ原院カ刑法第一百五條ヲ適用シ酒造稅法ニ問擬シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ理由ナシ

○刑事訴訟法第二十一條ニ所謂欄外記入トハ其本文ニ入ルヘキ文詞ヲ欄外ニ記入スルヲ謂フ
 從テ改訂又ハ削除シタル字數ヲ欄外ニ記載シタル場合ノ如キハ必スシモ其欄外ノ記載ニ押
 印ヲ要スヘキモノニ非スシテ其改訂削除ノ個所若ハ欄外ノ記載孰レカ一方ニ押印スルヲ以
 テ足ルモノトス (明治三十五年四月二十五日)

辯護人鳩山和夫外一名上告理由擴張ノ第四點ハ武田綠ノ豫審調書半澤百太郎ノ同調書豫審
 終結決定書第一審公判始末書及第一審判決原本ニハ何レモ文字ノ挿入削除アリ而シテ挿入削
 除ノ事實ハ欄外ニ記入アルニ拘ラス此欄外記入ノ分ニ對シテハ一モ認印アルヲ見ス挿入削除
 ハ其効力ナク其文意ニ於テ甚シキ異同アルモノアルニ拘ハラス第一二審裁判所カ何レモ其挿
 入削除ノ効力アルモノノ如ク判定シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第二十一
 條ニ所謂欄外ノ記入トハ其本文ニ入ルヘキ文詞ヲ欄外ニ記入スルヲ謂フニアリテ改訂又ハ削
 除シタル字數ヲ欄外ニ記載シタル場合ノ如キハ必スシモ其欄外ノ記載ニ押印ヲ要スヘキモノ
 ニアラス其改訂削除ヲ明確ニスル爲メ改訂削除ノ個所若ハ欄外ノ記載孰レニテモ一方ニ押印
 アルヲ以テ足ルモノトス而シテ論旨ニ基キ記録ヲ調査スルニ其欄外記入ト稱スルモノハ皆改
 訂ノ字數ヲ示スモノニシテ捺印ヲ必要トスルモノナリ且其改訂ニハ捺印シアルカ又ハ字數ノ
 欄外記載ニ捺印シアリテ漏ス所アルコトナシ故ニ本論旨ハ上告適法ノ理由ナシ

○國稅徵收法第三十二條第一項ノ所爲ハ必スシモ滞納處分開始以後ニ係ルコトヲ要スルモノ
 ニ非ス然レトモ納稅人ニシテ滞納處分ヲ受クルコトナケレハ國庫ニ對シ損害ナキヲ以テ滞
 納處分ノ開始ヲ待チ之ヲ處罰スルニ過キサレモノトス (明治三十五年五月二日)

上告趣意書ノ第一ハ明治三十年法律第二十一號國稅徵收法第三十二條ハ滞納者又ハ滞納者
 ノ財産ヲ占有スルモノ其財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虚偽ノ契約ヲ爲シタルモノ及其契約ヲ承諾シ
 タルモノヲ處罰スヘキノ條文ナリ而シテ原控訴院ハ該賣買行爲ハ明治三十四年六月及七月上
 旬ニ各結了シ同七月九日松山區裁判所麻生出張所ニ於テ其登記ヲ了シタル以後明治三十四年
 七月三十一日納付スヘキ同年度酒造稅金第一期分ハ其保證人ニ於テ納付シ同年十月三十一日
 限納付スヘキ同第二期分酒造稅金ニ於テ遲滞アルヲ認メ賣買行爲ノ當時ハ未タ岡宮重太郎ニ
 於テ滞納者ニ非サリシコトヲ斷定セリ滞納者ナル者ハ國稅徵收法上何レノ場合ヲ指スヤヲ明
 識スルコト能ハスト雖モ同法第九十條ニ依ルトキハ國稅ノ納期限ヲ過キ其稅金ヲ完納セサル
 者アルトキハ滞納處分ニ着手スヘキコトヲ規定セルニヨリ滞納者タルノ分限ヲ有スルハ同條
 ニヨル稅金ニ遲滞ヲ生シ收稅官吏ニ於テ相當處分ニ着手スルノ場合ニ始マルヲ相當トス若シ
 本罰條ハ滞納者タルト否トヲ論セス原院カ認メタル賣買行爲ヲ以テ罪トセムトスルモ刑法第
 二條ハ法律ニ正條ナキモノハ何等ノ行爲ト雖モ之ヲ罰スルコトヲ得サルノ法章ヲ有シ牽強引
 援以テ擬律シ得ヘカラサルヤ明ナリ加之原院ハ主体人タル岡宮重太郎カ納稅ニ付テ第一期分
 即チ明治三十四年七月三十一日納付スヘキ酒造稅金ハ其保證人ニ於テ之ヲ納付シ了リタルヲ
 其判文上ニ明揭シ重太郎カ納稅ニ付テハ保證人ノ衝任スルコトヲ認メタリ然リ而シテ酒類ヲ

製造スルモノハ酒造稅法第十三條ニヨリ其一酒造年度見込造石稅ノ納付ニ付相當擔保ヲ提供シ或ハ同法第十四條ニヨリ全部納稅ヲ擔保スヘキ納稅保證人ヲ供スルノ必要アリ前述納稅保證人ヲ供立シテ納稅ヲ確保スル岡宮重太郎ニ於テ造石稅ニ遲滯アル場合ハ同法第十五條及第十六條ノ規定ニ依リ納稅保證人ハ納稅者トシテ其義務ヲ負擔シ且保證物ノ代位タルヘキニヨリ率先シテ之レカ納付若クハ滯納處分ヲ受クルノ義務アリ尙國稅徵收法第十五條ニヨリ納稅滯滯ノ情ヲ知リテ故意ニ其財產ヲ讓渡シ讓受人其情ヲ知リテ讓受ケタルトキハ政府ハ其行爲ノ取消ヲ求メ得ルモノニシテ納稅不足ノ場合ヲ補填シ得ルモノナリ要之岡宮重太郎ハ如何ナル行爲アルモ逋稅ヲ成シ得ヘキ位置ニアルモノニアラス然ルニモ拘ハラヌ重太郎ニ於テ逋稅セムトスルノ意思アリトスルモノ之到底不能犯ニ屬シ恰モ呪咀ニヨリテ人ヲ殺サムト謀リタルト一般ニシテ犯罪成立ノ要素ヲ缺クモノナリ酒造稅法第七條ハ酒類ヲ製造スル者逋稅又ハ逋稅ヲ謀ルノ行爲アリト認ムルトキハ造石稅ノ一時徵收ヲ成シ得ルニ拘ハラヌ松山稅務署カ法律上ノ施用ニ係リカ、ル憂慮ノ必要ナキヲ認メタルモノナルコトハ原院判文上相當期間ノ日附ヲナス可キ告知ノ外一時徵收ノ命令アリタルコトハ認ムル能ハサルニヨリテ明著ナリ而シテ原院ハ松山稅務署カ重太郎ニ對シ明治三十四年十一月六日以後重太郎所住家宅ノ一部ニ就テ財產ノ差押ヲ爲シタルコトヲ明定シアルモ滯納者トナリタル重太郎ニ代位シ納稅義務ニ衝ル可キ保證人ニ對シ其處分ヲ續行スルニアラサレハ納稅ニ任シ剩餘及不足ノ額ハ定ムル能ハサルモノナルニ拘ラス保證人ニ對シ何等ノ處分ヲ爲シタルノ影跡ハ判文上認ムル能ハス要スルニ斯ル漫然タル事實ヲ原院ニ於テ認定シ且罰條ヲ比附牽引シテ各被告人ニ問擬シタルハ法

律ヲ不法ニ適用シタルモノナリト云フニ在レトモ○國稅徵收法第三十二條第一項ハ納稅人カ其財產ヲ藏匿脫漏シ又ハ虛偽ノ契約ヲ爲シ以テ稅金ノ逋脫ヲ計ル行爲ヲ罰スルモノニシテ其行爲ハ必スシモ滯納處分開始以後ニ係ルコトヲ要スルモノニアラス然レトモ若シ納稅人ニシテ滯稅處分ヲ受クルコトナシトセムカ國庫ニ對シ損害ヲ加フルコトナキヲ以テ滯納處分開始以前ニ於ケル行爲ハ同處分ノ開始ヲ待テ犯罪ヲ構成スルモノトス法文上滯納者ト記載シタルモ亦全ク此趣旨ニ外ナラス故ニ苟モ逋脫ノ目的ヲ以テ財產ヲ藏匿脫漏シ若ハ虛偽ノ契約ヲ爲シタル者カ滯納者トナリタル場合ニ在テハ國稅徵收法第三十二條第一項ノ制裁ヲ受クヘク其之ヲ幫助シタルモノハ同條第三項ノ制裁ヲ受クヘキモノナレハ原院カ爲シタル法律ノ適用ハ相當ニシテ不法ノ廉アルコトナシ

○官吏カ職務ヲ以テ正當ニ法律規則ヲ執行スル場合ニ在テハ假令其執行カ事實上ノ誤認ニ基
 因シタルトキト雖モ被執行者ハ之ニ服従スルノ義務アルモノトス從テ之ニ暴行ヲ加ヘ抗拒
 シタル以上ハ官吏抗拒罪ヲ構成ス (明治三十五年五月十三日)

辯護人中村徳重郎ノ擴張書第一點ハ原判決ハ「被告ハ云々外二名ノ者ト共ニ賭博ヲ爲サム
 トシテ未タ行ハサル際巡查大野六郎カ賭錢博奕ノ現行犯ト認メ被告等ヲ逮捕シ證據物ヲ押收
 セムトシタルニ被告ハ云々暴行ヲ加ヘツ、同巡查ノ職務執行ニ抗拒シタルモノナリ」ト事實
 ヲ認定シ刑法第三百三十九條ニ問擬セラレタリ然レトモ同法條ヲ適用セムニハ(一)官吏カ其
 職務ヲ以テ(二)法律規則ヲ執行スルニ當リ(三)暴行脅迫ヲ以テ(四)其官吏ニ抗拒シタ
 ルコトノ四ケノ要件ヲ具備セサルヘカラス若シ其一ヲ缺クトキハ本罪ノ構成セサルヤ明ナリ
 而シテ賭博罪ハ現行犯ヲ罰スルモノニシテ本件ノ如ク未タ行ハサルモノ即チ豫備ノ行爲ハ之
 ヲ罰セサルノミナラス巡查カ直ニ被告人ヲ逮捕スルコトヲ得ルハ刑事訴訟法第五十八條ニ依
 リ「現行犯アルコトヲ知リタル場合」ナラサルヘカラス而シテ茲ニ所謂現行犯トハ同法第五
 十六條ノ「現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺シタル罪」ヲ謂フ故ニ本件ノ如ク現ニ行
 ヒタルニアラス又行ヒ終リタルモノニモアラス未タ全ク行ハサル際ナレハ現行犯ト謂フヲ得
 サルナリ已ニ現行犯ニアラサル以上ハ巡查カ逮捕スルノ職權ナキヲ以テ其職權ナキニ不拘之
 ヲ逮捕セムトスルカ如キハ巡查ノ職權外ノ行爲ニシテ刑法第三百三十九條ノ所謂官吏其職務ヲ
 以テ法律規則ヲ執行シタリト云フヲ得サルナリ(中略)即チ上告人ハ巡查ノ不法ノ逮捕ニ應
 スヘキ義務ナキヲ以テ之ニ對抗シタルハ元ヨリ憲法上賦與セラレタル權利ノ實行ニシテ本罪

ノ構成セサルヤ多辯ヲ俟タサルナリ要スルニ本件ニ付キ巡查大野六郎カ未タ賭博ヲ行ハサル
 ニ先チテ上告人ヲ逮捕セムトシタルニ際シ之ニ抗拒シタルハ權利ノ執行ニシテ官吏職務執行
 抗拒罪ノ構成セサルモノナルニ原判決ノ如ク處斷セラレタルハ法則ヲ不當ニ適用シタル不法
 ノ裁判ナリト信スト云フニ在レトモ○官吏其職務ヲ以テ正當ニ法律規則ヲ執行スル場合ニ在
 テハ縱シヤ其執行ハ事實上ノ誤認ニ基因シタリトスルモ被執行者ハ之ニ服従スルノ義務アル
 モノニシテ其誤認ナルコトヲ主張シテ以テ之ニ抗拒シ得ヘキモノニアラス而シテ原判決ノ認
 定ニ依レハ巡查大野六郎ハ賭錢博奕ノ現行犯ト認メ被告ヲ逮捕セムトシテ抗拒ヲ受ケタル事
 實ナレハ其逮捕ハ賭錢ノ現行犯タル事實ノ誤認ニ基キタルニ外ナラスシテ現行犯ニアラサル
 コトヲ知リツ、之ヲ行ヒタルモノニアラス換言スレハ其逮捕ハ正當ナル職務ノ執行ニシテ違
 法越權ノ行爲ニアラス從テ暴行ヲ加ヘテ之ニ抗拒シタル以上ハ官吏抗拒罪ヲ構成スルコト勿
 論ナレハ本論旨ハ其理由ナシ

○酒造稅法第三十一條ハ刑ノ併科ヲ規定シタル法條ナリトス從テ併科スヘキ案件ニ同條ヲ適用セサルトキハ法律ノ明示ヲ缺ク不法アリ (明治三十五年五月二十日)

辯護人中村德重郎上告趣意擴張書第一點ハ本件ノ如ク刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用キスシテ各所爲ニ對シ各別ニ併科スヘキ場合ハ其併科スル法律ノ正條タル酒造稅法第三十一條「此稅法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ云々數罪俱發ノ例ヲ用キス」トノ規定ヲ明示セサルヘカラス然ラサレハ何故ニ刑法ノ原則タル吸收主義ニ依ラスシテ特ニ例外タル被告ノ不利益ニ歸スヘキ併科主義ニ依テ各別ニ處斷セラレタルヤ其理由ヲ知ルニ由ナシ然ルニ原判決ハ上告人ノ所爲ヲ二罪ト認メ其第一所爲ニ對シ罰金二千二百八十七圓六十九錢九厘ヲ科シ第二所爲ニ對シ罰金十圓ヲ科セラレタルモ其併科スヘキ前掲酒造稅法第三十一條ノ適用ヲ缺キタルハ法律上ノ理由ヲ附セサル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ○依テ審按スルニ酒造稅法第三十一條ハ刑ノ併科ヲ規定シタル法條ニシテ若シ併科スヘキ案件ニ之レヲ適用セサルトキハ即チ法律ノ明示ヲ缺キタルモノニシテ原院カ本件ニ付キ同條ヲ適用セサルハ辯護士所論ノ如ク不法ノ判決タルヲ免レサルモノトス

○國稅代納義務者カ未タ徵收ノ告知ヲ受ケサル以前ニ財產ヲ藏匿脫漏シタルトキト雖モ其後滯納者トナリタル以上ハ國稅徵收法第三十二條ヲ適用シ處斷スヘキモノトス (明治三十五年五月三十日)

被告四名ノ上告趣意書ハ被告德治郎カ所有財產ノ賣買其他ノ處分ヲ爲シタルハ法律上滯納者タル身分ナリシヤ否ヤヲ審究スルヲ要ス然ルニ本件第一審裁判所カ認定セラレタルカ如ク第一審相被告ナル瀨井辰熊カ酒類造石稅滯納セルモ被告德治郎ハ只タ納稅保證人ニシテ第二ノ義務者タル資格ニ止リ未タ直接納稅義務アルニアラス假リニ一步ヲ讓リ直接納稅ノ義務アリトスルモ先ツ被告德治郎ニ對シ國稅徵收法第六條ノ告知ヲ爲サ、ルヘカラス此告知ヲモ受ケサル以前ニ於テ保證人タル第二義務者ヲ直チニ滯納者ナリト論斷スルヲ得ス果シテ然ラハ滯納者タル身分ニアラサル被告德治郎カ其財產ヲ賣買隱匿シタリトスルモ罪トナルヘキモノニアラス况ンヤ被告眞振惟德常五郎ノ如キ知情賣買隱匿セリトスルモ犯罪ヲ構成スヘキ理アルヘカラス故ニ原院ノ判決ハ擬律錯誤ノ不法アルモノトスト云フニ在レトモ○國稅徵收法第三十二條第一項ハ納稅者カ其財產ヲ藏匿脫漏シ又ハ虛偽ノ契約ヲ爲シ國庫ニ損害ヲ加ヘ又ハ加ヘムトスル者ヲ罰スルモノナリ而シテ其危害ハ納稅者カ滯納者ト爲リタルトキニアラサレハ生セサルヲ以テ本條ノ適用ハ常ニ納稅者カ滯納者トナリタル以後ニアリ是レ法文ニ滯納者トアル所以ニシテ滯納者トナリタル後ノ行爲ノミヲ罰スルノ法意ニアラス何トナレハ右藏匿脫漏ノ行爲カ納期前ニ在ルトキト雖モ滯納スルトキハ徵稅上危害ヲ加フルモノナレハナリ故ニ被告德治郎ハ元來納稅本人ニアラス第一審ノ相被告タル瀨井辰熊ノ保證人ニシテ本件ノ行爲ハ代納義務者トシテ未タ徵收ノ告知ヲ受ケサル以前ニアルモ德治郎ニ於テ其後滯納者トナ

リタル以上ハ原院カ其行爲ヲ同條ニ問擬シ又之ヲ幫助シタル被告眞振惟徳常五郎ヲ同條第三項ニ依リ處罰シタルハ相當ニシテ本論旨ハ其理由ナシ

○挿入ノ字數ハ之ヲ記載スルヲ要セス從テ其字數ノ記載ニ誤謬アルモ認印アル以上ハ其挿入ハ適式ナリ (明治三十五年六月二日)

上告ノ要旨ハ(前略)公判始末書ニ依レハ其出廷判事ノ記載ノ部ニ於テ中村太郎ノ記載アリ之ヲ抹消シテ其傍ニ澤村勝ノ三字ヲ記載シアルモ其上部欄外ノ記載ニハ一右二字入ル四字削ルトアリ即チ四字削ルハ中村太郎ノ四字ヲ消シタルモノナルモ二字入ルトノ意味ハ澤村トノ二字ナリヤ或ハ村勝トノ二字ナリヤ之ヲ知ルニ由ナキノミナラス何レノ二字トスルモ如斯氏名ヲ有スル者ハ原院判事申會テ其人ナキヲ以テ結局判事ノ一名ハ欠缺シタルモノトナスヲ相當トス已ニ一名ノ欠缺アリトセハ其構成ハ固ヨリ無効ナルヲ以テ隨テ該證人決定モ亦無効ナリトスト云フニ在レトモ○(前略)第一回公判始末書ニ澤村勝ノ三字ヲ挿入シ欄外ニ二字入ルト記載アルモ刑事訴訟法第二十一條ニ依レハ挿入ニハ字數ヲ記載スルヲ要セサルヲ以テ其字數ノ記載ニ正確ヲ缺クモ既ニ認印アル以上ハ其挿入ハ適式ニシテ證據決定ヲ爲シタル第一回公判ヲ開キタル公判裁判所ノ構成ニ瑕瑾アリトスルヲ得ス故ニ該決定ハ有効ニシテ上告ハ理由ナシ

○挿入ノ字數ハ之ヲ記載スルヲ要セス從テ其字數ノ記載ニ誤謬アルモ認印アル以上ハ其挿入ハ適式ナリ (明治三十五年六月二日)

○檢事ハ間接國稅犯則者ニ對シテハ間稅官吏ノ告發ヲ待ツニ非サレハ公訴ヲ提起スルコトヲ得ス (明治三十五年六月三十日)

被告ノ上告趣意書第一點ハ原院ハ被告カ酒造稅法違犯事件ニ付收稅官吏ノ處分ヲ俟タス司法警察官カ告發ヲ爲シタルニ基キ檢事カ起訴ヲ爲シタルハ違法ナルヲ以テ該公訴ハ受理スヘカラサルモノナリトノ申立ヲ棄却シタル理由ノ要領ニ曰ク酒造稅法違犯事件ト雖モ刑事上ノ犯罪タル以上ハ司法警察官カ之ヲ檢舉シ檢事カ之ヲ起訴スルハ違法ナラスト云フニ在リ然レトモ酒造稅法違犯事件ニ就テハ特ニ間接國稅犯則者處分法ナル特別法アリテ收稅官吏カ之ヲ檢舉スヘキコトヲ規定セリ故ニ普通事件ノ如ク司法警察官カ之ヲ檢舉スルコトヲ得ルトセハ是レ一事件ニ付兩様ノ處分法アルモノト云ハサルヲ得ス由來國家ノ意思ハ一ニシテ二アルモノニ非ス收稅官吏ト司法警察官トヲ問ハス國家ノ機關タル以上ハ互ニ抵觸セサル處分ヲ國家カ認許スヘキ理由アルナシ故ニ若シ互ニ相抵觸ヲ來スヘキ場合ハ必ス其一ニ從テ處分スヘク他ハ其處分ノ權能ヲ認メサルヘキハ當然ノ理由ナリトス是裁判所構成法第三十條ニ於テ裁判所ノ權限及之ヲ行フ範圍ニ就キテ特別法ノ定ムル所ハ特別法ニ隨ヒ其權限ニ屬スヘキモノト然ラサルモノトヲ決定スヘキ趣旨ヲ規定セル所以ニシテ而シテ同條ノ特別法トハ間接國稅犯則者處分法ヲモ包含シテ規定シタルモノト思考ス果シテ然ラハ間接國稅犯則者處分法ハ酒造稅法違犯事件ノ爲メニ特ニ規定セラレタル法律ナルヲ以テ該被告事件ハ同法ニ依テ處分スヘキモノニシテ普通刑事訴訟手續ニ依ルヘキモノニ非サルヘシ論者曰ク同法第一條ニハ「收稅官吏云々爲スコトヲ得」ト規定シテ其得「ト規定シタル趣旨ハ收稅官吏カ之ヲ爲

スコトヲモ又ナサルコトヲモ得ルトノ趣旨ニシテ其之ヲ爲サル場合ヲ法律カ認メタルハ是司法警察官吏カ之ヲ檢舉スヘキコトヲ豫期シタルカ故ナリト然レトモ之法文ヲ誤解シタルモノナリ抑モ同法第一條ニ於テ「收稅官吏ハ云々爲スコトヲ得」ト規定シタルハ收稅官吏ニ對シテ檢舉スヘキ權能ヲ與ヘラレタルモノニシテ此ノ權能ヲ與ヘラレタル收稅官吏カ之ヲ行ハサルコトヲ得ルヤ否ヤハ官吏カ職務ヲ執行セサルコトヲ得ルヤ否ヤノ一般法ニ從フヘキモノニシテ同條カ此點ニマテ規定シタルモノニアラス(中略)既ニ同法第一條ノ趣旨ニシテ前掲ノ如シトセハ收稅官吏カ犯則者アル毎ニ絶對ニ之ヲ檢舉スヘキ權限アルモノニシテ司法警察官吏ノ檢舉ハ法律カ認許セサルモノナルニ拘ハラス此理由ヲ認メサルハ違法ナリト信スト云ヒ」第二點ハ原院判決ノ如ク司法警察官カ檢舉スルコトヲ得ルトセハ處分法第十四條ノ通告ニ就キ被告人ノ權利ニ重大ナル影響ヲ及ホスニ至ルヘシ抑モ通告處分ナルモノハ徵收主義ニ基ケル和解手續ニシテ刑罰ニアラス而シテ收稅官吏ノ檢舉シタル場合ハ常ニ通告處分ニ依ルヘキヲ以テ被告人ハ之ヲ履行シテ刑事訴訟ヲ受ケサルコトヲ得ヘシト雖モ司法警察官ノ檢舉シタル場合ハ直チニ刑罰處分ヲ受クルニ至ルヘシ即チ同一事件ニシテ之ヲ檢舉スル國家ノ機關カ異ナルニ依リテ被告人ニ各異ナル制裁ヲ加フルニ至ル是豈法律ノ眞意ナラムヤ又同一ノ犯則事件ニ付キ收稅官吏カ通告處分中ナルヲ知ラスシテ司法警察官カ告發ヲ爲シタル場合ニ於ケル處分ハ如何ニスヘキカ之ヲ管轄ヲ異ニシタル場合ニ推及セハ其混雜ハ如何之ヲ要スルニ現行犯則者處分法ト刑事訴訟法ノ抵觸ニ關シ裁判官ノ取捨スヘキ法律ノ規定ナキヲ以テ原院判決ノ如ク司法警察官ニ檢舉ヲ許ストセハ之カ裁判ニ支障ヲ生スルヤ言フ俟タヌ而

シテ法律カ此點ニ付何等ノ規定ヲ爲サ、ルハ是豈司法警察官ニ檢舉ヲ許サ、ルノ法意ナルナ
 カラムヤ即チ原院判決ハ此點ニ於テモ亦違法ナリト信スト云フニ在リ○因テ審按スルニ間接
 國稅犯則者處分法第十一條ニハ「間稅署長又ハ分署長ハ犯則事件ノ調書及其他ノ書類ヲ調査
 シ犯則ノ心證ヲ得タルトキハ其犯則ト認ムル理由ヲ明示シ罰金ニ該ルモノハ其罰金ニ相當ス
 ル金額沒收ニ該ルモノハ沒收スヘキ物品並ニ第十六條ノ費用ヲ其署ニ納付スヘキ通告書ヲ作
 リ之ヲ本人ニ送達スヘシ」トアリ同第十二條ニハ犯則者前條ノ通告書ヲ受ケ通告ノ旨ヲ承諾
 スルトキハ七日内ニ履行スヘシ此期限ヲ過キ履行セサルモノハ間稅署長若ハ分署長ヨリ管轄
 裁判所ニ告發スヘシ」トアリ又同第十三條ニハ「犯則者通告ノ旨ヲ履行シタルトキハ同事件ニ
 付刑事又ハ民事ノ訴ヲ爲スヲ得ス」トアリ而シテ同第十四條第十五條ニ於テ間稅官吏カ直チ
 ニ裁判所ニ告發スヘキ場合ヲ規定セリ故ニ間接國稅犯則者ニ對シテハ間稅官吏ハ右第十四條
 第十五條ノ場合ヲ除ク外先ツ第十一條ノ通告ヲ爲シ犯則者カ其通告ノ旨ヲ履行セサルトキニ
 於テ初メテ告發ヲ爲スヘク犯則者カ其旨ヲ履行シタルトキハ刑事民事ノ訴追ヲ免ルヘキモノ
 トス而シテ此法律ハ固ヨリ總テ間接國稅犯則者ニ對スル處分法ナルヲ以テ間稅官吏カ其犯則
 者ヲ發見シタル場合ト檢事又ハ他ノ司法警察官カ之ヲ發見シタル場合トニ因リテ其處分ヲ異
 ニスヘキ理由ナキノミナラス犯則者ニ於テ右通告ノ旨ヲ履行シタルトキハ公訴權ハ消滅スル
 モノナレハ一面ニ於テ通告ヲ爲シ一面ニ於テ公訴ヲ提起スルカ如キハ固ヨリ法律ノ許サ、ル
 所ナリト云ハサルヘカラス然ルニ若シ檢事ハ間稅官吏ノ告發ヲ待タスシテ公訴ヲ提起スルヲ
 得ヘシトセハ間稅官吏カ通告ヲ爲シタルニ拘ハラヌ檢事ハ之ヲ知ラスシテ公訴ヲ提起スルコ

トナシトスヘカラス而シテ其通告ヲ爲シ又ハ告發ヲ爲スニハ一ニ間稅官吏ノ認定ニ因ルヲ以
 テ結局右犯則者ニ對シテハ間稅官吏ノ告發ヲ待ツニ非サレハ公訴ヲ提起スルヲ得サルモノト
 解セサルヘカラス然ルニ原院ハ檢事カ間稅官吏ノ告發ヲ待タスシテ提起シタル本件公訴ヲ適
 法ナリトシテ被告ノ控訴ヲ棄却シタルハ失當ニシテ上告ハ其理由アルモノトス

ルヲ得ス何トナレハ差押ハ一ノ法律上ノ行爲ニシテ其行爲ニ有効ナル條件ハ民事訴訟法ノ定ムル所ナリ執達吏タルト收稅官吏タルトヲ問ハス苟モ此差押行爲ヲ爲スモノハ亦必ス法律上ノ條件ニ從ハサルヘカラス而シテ封印又ハ認印等ヲ以テ差押ヲ明確ナラシムルニアラサレハ差押ノ効ナキコトハ民事訴訟法ノ明定スル所ナリ國稅犯則者處分法中別ニ差押ノ方法ニ付キ何等ノ規定ナキモ苟モ同法中收稅官吏カ差押ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ヲ規定スル以上ハ其所謂差押ナルモノハ法律上一定シタル行爲ヲ指スモノタルコト明白ナルヲ以テ從テ法律上一定セル條件ニ從ハサルヘカラサルコト亦明白ナリトスト云フニ在リ○然レトモ封印又ハ認印ヲ施スハ差押ヲ明白ニスルカ爲メニ外ナラス故ニ有體動産ニ對スル強制執行ノ如キ封印等ヲ以テ差押ノ要件トナシ之ヲ缺タトキハ差押ヲ無効トスヘキ規定アル場合ハ格別ナルモ其他ノ差押ニ付テハ封印等ナキ一事ヲ以テ直チニ差押ヲ無効ナリト云フヲ得ス而シテ原院ノ認メタル事實ニ依レハ收稅官吏ハ清酒ノ差押ヲ爲シタル上差押目錄ヲ作り以テ元村某ノ保管ニ付シタルモノニシテ則チ收稅官吏カ差押物ヲ自己ニ占有シ元村某ヲシテ之ヲ看守セシメタルモノナレハ假令封印等ナキモ之レカ爲メ差押ノ効力ナシト謂フヲ得ス故ニ原院カ差押ヲ有効ナリト判決シタルハ相當ナルノミナラス本件ハ官署ノ命令ニ依リ他人ノ看守シタル自己ノ物品ヲ竊取シタルモノナルヲ以テ差押ノ有効ナルヤ否ヤハ犯罪成立ニ付直接ノ關係ヲ有セサルモノトス旁以テ本論旨ハ上告ノ理由トナスヲ得ス」同第三點ハ一旦差押ヲ爲シタル後其差押ヲ繼續スルニハ收稅官吏ハ自ラ之ヲ爲スコトヲ要セス他人ニ保管ヲ命スルコトヲ得シムルハ便宜上必要ノ方法タリ然レトモ官權公權ノ代理即チ公ナル職務ハ法令ノ規定ニ基クノ外漫リニ一私

人ニ之ヲ委託スルコトヲ得ス故ニ間接國稅處分法第七條ハ差押物件ハ所有者又ハ市町村ヲシテ之ヲ保管セシムルコトヲ得ト規定シ此便法ヲ開キタリ若シ通常私人ノ行爲ノ如ク何人ニモ此保管ヲ託スルコトヲ得ヘキモノトセハ此法條ハ殆ト何等ノ必要アルヲ見ス然ルニ原院ハ右ノ法條ヲ誤解シ苟モ保管者ノ任意ニ基ク以上ハ保管行爲即チ官吏ノ爲スヘキ職務ヲ以テ何人ニモ之ヲ委託スルコトヲ得ヘキモノトシ本件ニ於テ收稅官吏カ被告ノ雇人ニ命シタル保管ヲ有効トセラレタルハ不法モ亦甚シト云フニ在リ○依テ按スルニ間接國稅犯則者處分法第七條ニ一差押物件ハ云々所有者又ハ市町村ヲシテ保管セシムルコトヲ得トアルハ收稅官吏ハ差押物件ノ保管ヲ所有者又ハ市町村ニ一任シ以テ自ラ保管ノ責任ヲ免レ得ヘキコトヲ定メタルモノナリ故ニ收稅官吏カ自己ノ責任ヲ以テ保管スル場合ニ在テハ假令一私人ナルモ之ヲ使役スルカ如キハ該規定ノ爲メ何等ノ妨礙トナルヘキモノニ非ス殊ニ自ラ保管スル場合ニ當リ一定ノ勞務者ヲ使用スヘキ必要アルハ實際上常ニ免レ得サル所ニシテ且又當然ノ行爲ナリトス原院ハ一ハ強制力アル命令ナリト云ヒ一ハ任意ヲ要スル命令ナリト云ヒ二者均シク之ヲ命令ナリト云ヒ右ノ區別ヲ明ニセサルカ爲メ一見妥當ナラサルカ如ク則チ之ヲ細別スルトキハ後者ハ合意上即チ契約上ノ保管ナリト云ハサルヲ得スト雖モ亦之ヲ命令ト稱スルヲ得ヘキハ刑法第三百七十條ニ所謂命令中ニハ此場合ヲモ包含スヘキモノナルニ因ルナリ若シ夫レ同條ノ命令ナル文字ヲ狹義ニ解釋シ後者ノ場合ヲ包含セストセハ均シク官署ヨリ看守ニ付セラレタル物品ヲ竊取シタルモノナルニ其看守者ノ法律上ニ出ラタルト合意上ニ出ラタルトニ依リテ罪ノ有無ヲ異ニスヘキ奇觀ヲ呈スルニ至ルヘキヲ以テナリ故ニ收稅官吏カ命シタル保管者カ

被告ノ雇人ナレハトテ之レカ爲メ刑法第三百七十一條ニ所謂看守人タルニ妨ナク從テ被告ノ所爲ハ同條ノ制裁ヲ免ル、ヲ得サルモノトス」同第五點ハ原院ハ刑法第三百七十一條即チ自己ノ所有物ト雖モ典物トシテ他人ニ交付シ又ハ官署ノ命令ニ因リ他人ノ看守シタル時之ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論ストノ法條ヲ適用セラレタルモ該條ノ所謂他人トハ所有主ノ權力以外ノ人ヲ指示スルモノニシテ所有主ノ雇人ノ如キハ之ヲ他人ト云フコトヲ得サルヲ以テ本件ノ如キ雇人ニ看守ヲ命シタル場合ヲ包含セス又該差押ヲ爲ス其差押條中ノ官署ノ中ニハ收稅官吏ヲ包含セサルモノト信スト云フニ在レトモ○雇人タル効力ハ其雇傭契約ニ關スル事項ニ限ルコト勿論ナルヲ以テ假令被告ノ雇人ナルモ其者カ收稅官吏ノ命令ニ從ヒ右雇傭契約以外ノ事務ニ從事スル場合ニ在テハ其事務ニ付キ被告人ニ對シ雇人タル關係アルコトナク即チ此場合ニ在テハ刑法第三百七十一條ニ所謂他人トアルニ該當スルモノトス又本件ハ同條ヲ適用スヘキ犯罪ナルヲ以テ後段差押條（刑法第三百九十六條）中云々ノ論旨ニ對シテハ別ニ說明スルノ要ナシ

○收稅官吏カ容器ニ施シタル封印ヲ破毀シ在中ノ物品ヲ取出シ他ニ移シタル行爲ハ封印破棄ニ差押物件藏匿ノ二罪俱發ナリトス從テ竊盜罪ヲ以テ論スヘキモノニ非ス（明治三十五年九月十九日）上告趣意書ノ第一ハ原判決ハ被告ハ清酒醪四石五斗五升ノ検査ヲ免レムカ爲メ之ヲ隱蔽シタル事ヲ福井稅務署收稅官吏生田謹一郎ノ發見スル所トナリ其容器ノ兩端ニ封印二ヶ所ヲ施シタル處其封印ヲ破棄シテ在中ノ醪ヲ竊取シ之ヲ酒造藏内第四號桶ニ移シ置タルモノニシテ刑法第三百七十一條ニ依リ竊盜罪ヲ以テ論スヘキモノナリト云フニ在レトモ抑稅務屬カ其清酒醪ニ封印ヲ施シタル行爲ハ酒造稅法第二十七條ニ依リ相當制裁ヲ加ヘムカ爲メ證據保全ノ行爲ニ出テタルコトハ原判決ニ於テ採用セラレタル稅務屬ノ告發書及顛末書ニ依リ明瞭ナリ而シテ被告ハ此事實ニ對シ（被告ハ之ヲ認メサルモ此事實アリト假定ス）一面ニ於テ酒造稅法違犯ノ行爲アリトシテ有罪ノ判決ヲ受ク然ラハ即チ證據保全ノ爲メ封印ヲ爲シタル行爲ニ付テハ既ニ其目的ヲ達シタルモノナレハ其清酒醪ヲ竊取シタル行爲ニ付テハ別箇ノ犯罪ヲ構成セサルヤ勿論ナリ反言スレハ原判決ニ於テ認メラレタル竊盜ナル事實ハ酒造稅法違犯事件ノ内容ニ屬スルモノナルヲ以テ別ニ竊盜罪アリトシテ之ヲ罰スルハ一ノ事實ニ對シテ二重ノ制裁ヲ加フルモノニシテ不法ノ判決ナリト云ヒ」其第二ハ凡ソ竊盜罪ヲ構成スルニハ或物件ヲ自己ノ占有ニ移スノ行爲ナカルヘカラス然ルニ本件ニ付テハ原判決ノ認ムル所ニ依レハ其竊取シタル清酒醪ヲ酒造藏内第四號桶ニ移シ置キタルモノト云フニ在リ而シテ其四號桶ハ公然稅務屬ノ検査ヲ受クルカ爲メ提供シタルモノナレハ竊ニ自己ノ占有ニ移シタル事實ナシ原判決ハ之ヲ竊盜罪ヲ以テ罰セラレタルハ不法ノ判決ナリト云ヒ」辯護人津田義治擴張書第一點

ハ刑法第三百七十一條ニハ官署ノ命令ニ依リ他人ノ看守シタル時トアルヲ以テ本件醜ハ收稅官吏カ封印シタルモ未タ他人ニ看守ヲ命セラレタルニ非ス蓋シ收稅官吏ハ間接國稅犯則者處分法第七號第二項ノ差押物件ハ便宜ニヨリ保管證ヲ徵シ所有者又ハ市町村ヲシテ保管セシムトアル規定及同施行規則第二條ノ所有者又ハ市町村ヲシテ保管セシムルトキハ封印ヲ爲シトアル手續ニヨリテ先ツ封印ヲ爲シタルニ在ルモ保管セシムルノ手續ヲ果シ得サルニ付キ本則五條ニ依リ適當ノ差押處分ヲ遂タルニ必要トシテ警察官ノ援助ヲ求ムル爲メニ出タル間ハ則チ差押ヲ爲サトスル手續中ニ係ルモ未タ官署ノ命令ト他人ノ看守トノ二要素ヲ兼備スルニ至ラス此場合ノ目的物ニ付キテ刑法第三百七十一條ヲ適用シタルハ不法ナリト思考ス(中略)ト云フニ在リ○按スルニ(中略)上告趣意第一點第二點擴張第一點ノ論旨ニ依リテ審按スルニ原判決ノ認定シタル本件事實ハ被告ハ酒類製造營業人ニシテ明治三十四年十二月三日收稅官吏カ被告方ニ出張シ未熟清酒醜等ノ檢査ヲ爲シタル際酒藏外ノ空地ニ挿入シタル酒桶中清酒醜四石五斗五升ヲ隱蔽シアルヲ發見セラレ被告ハ其發見アルヤ直チニ家族ト共ニ逃走シ立會ヲ爲サ、ルヲ以テ容器ニ封緘ニケテ施シ之ヲ差押タルニ被告ハ稅務屬ノ不在中容器ニ施シアル封印ヲ破棄シ在中ノ醜ヲ取出シ之ヲ酒造藏中第四號桶ニ移シタリト云フニ在リ故ニ被告ノ所爲ハ封印破棄差押物件藏匿ノ二罪ニ問ヒ刑法第七十四條第一項同第三百九十六條同第百條ヲ適用スヘキモノナリ然ルニ原判決ハ此事實ニ對シ官署ノ命令ニ依リ他人ノ看守シタルモノヲ竊取シタリトシ刑法第三百七十一條第三百六十六條ニ擬シタルハ擬律錯誤ノ不法アルモノニシテ此點ノ論旨ハ其理由アルモノトス

○收稅官吏ハ現行犯ノ場合ヲ除クノ外日沒ヨリ日出マテノ間ニ於テ臨檢搜索又ハ差押ヲ爲スコトヲ得ス從テ此規定ニ背キテ爲シタル處分ニ基キ作成シタル調查顛末書ハ無効ナリトス

(明治三十五年九月三十日
明治三十六年三月十日)

辯護人宮原末太郎擴張書ノ第三點ハ無効書類ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ失當ナリ原院ハ明治三十四年十二月二日作成ノ稅務屬加藤安太郎外五名ノ調查顛末書ヲ採テ以テ本件斷罪ノ資料トナシタルトモ該顛末書ナルモノハ稅務屬カ法律ノ規定ニ違背シタル無効ノ處分ニ基ク違法ノ書面ナルヲ以テ被告事件ヲ斷スルノ證據トナスヲ得サルナリ蓋シ間接國稅犯則者處分法第八條ニヨレハ收稅官吏ハ現行犯ノ場合ヲ除クノ外日沒ヨリ日出マテノ間臨檢搜索又ハ差押ヲ爲スコトヲ得サルモノナルニ本件ハ明治三十二年ノ犯罪ニシテ明治卅四年十二月四日告發セラレ居リ現行犯ニアラサルコト明白ナルニ拘ハラス稅務屬加藤安太郎外五名ノ調查顛末書ニヨレハ右取調ハ明治三十四年十二月二日午後九時終リトアリテ加藤安太郎等ノ爲シタル調查顛末書ハ全ク違法ノ處分ニ基ク無効ノ書面ナリト云ハサルヘカラス既ニ臨檢搜索差押等違法ノ處分トスレハ此違法處分ニ基キ爲サレタル訊問ノ如キ從テ亦違法ニシテ法律上無効ノ處分タルコト言フ俟タサルナリ然ルニ前陳ノ如ク原院ハ此無効ノ調查顛末書ヲ採テ斷罪ノ資料ニ供シタルハ失當ヲ免レサルモノナリト云フニ在リ○依テ稅務屬加藤安太郎外五名ノ作成シタル調查顛末書ヲ查スルニ其冒頭ニ大櫃久太郎酒造稅法違犯嫌疑事件ニ付明治三十四年十二月二日午前十一時本人方出張取調ヲナシタル顛末左ノ如シトアリテ其末尾ニ右取調ハ明治三十四年十二月二日午後九時終レリ云々トアリ而シテ該顛末書ニ據レハ其調書ノ事タル帳簿ノ

押收ヨリ實地ノ臨檢及ヒ本人ノ訊問等ヲ爲シタル記載アリテ即チ臨檢搜索又ハ差押ヲ爲シタルモノナリ然ルニ明治三十三年法律第六十七號間接國稅犯則者處分法第八條ニ收稅官吏ハ日没ヨリ日出マテノ間臨檢搜索又ハ差押ヲ爲スコトヲ得ス但シ現行犯ノ場合ハ此限ニアラストアリテ現行犯ヲ除クノ外本件ノ如キ非現行犯ノ場合ニ於テ日没後即チ午後九時ニ至ルマテ臨檢搜索等ノ處分ヲ爲スハ該法條ノ明カニ禁スル所ナリトス然ルニ本件臨檢等ノ處分ハ午前ヨリ引續キ午後九時ニ至リタルモノニシテ被告モ亦之ニ對シ異議ヲ述ヘタル事蹟ノ見ルヘキナケレハ日没後之レカ處分ヲ爲スモ妨ケナキモノ、如シト雖モ其續行ト其異議ナキトハ該法條ニ何等ノ關係ヲ有セサルモノニシテ毫モ此事實ヲ以テ同條ノ例外タラシムルノ理由アルヲ見ス何トナレハ若シ其事實ヲ以テ例外トセハ收稅官吏ハ日没後尙常ニ之レカ處分ヲ爲スヲ通例トナシ只異議アル場合ニ於テ始メテ其權能ヲ失フモノトナリ明ニ該法條ト相容レサルノ解釋ニ歸スレハナリ果シテ然ラハ本件加藤安太郎等カ爲シタル臨檢搜索等ノ處分ハ法律上爲スヲ得ヘカラサル所ノ措置ニシテ從テ該調書顛末書ハ其効ヲ有セサルモノトス然ルニ原院カ該無効ノ顛末書ヲ援用シ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ノ判決タルヲ免レスシテ破毀スヘキ原由アルモノトス

○酒造稅法第二十四條ニ所謂造石數ノ查定トハ製造シタル酒類其モノ、造石數ノ查定ヲ指稱シタルモノトス從テ查定ヲ受クヘキ清酒ノ一部ヲ他ニ移シ同一分量ノ古清酒ヲ補充シタル場合ト雖モ他ニ移シタル清酒ノ查定ハ之ヲ免レタルモノナルヲ以テ同法條ノ犯罪ヲ構成ス

○酒造稅法第二十四條ニ所謂造石數ノ查定トハ製造シタル酒類其モノ、造石數ノ查定ヲ指稱シタルモノトス從テ查定ヲ受クヘキ清酒ノ一部ヲ他ニ移シ同一分量ノ古清酒ヲ補充シタル場合ト雖モ他ニ移シタル清酒ノ查定ハ之ヲ免レタルモノナルヲ以テ同法條ノ犯罪ヲ構成ス

(明治三十五年十月二日)

上告趣意書第一點ハ本件被告カ燒酎原料用トシテ製造シタル清酒十七石五斗七升一合ノ内八石ヲ汲取り明治三十五年三月十五日三十三年度ニ於テ製造シタル粕漉古清酒ノ内ニ移入シタルハ事實ナルモ同時ニ右粕漉古清酒ノ内八石ヲ汲出シ右原料清酒ノ内へ移入シタルモノニシテ即彼是交換シタルモノナル事ハ原裁判所モ亦認ムル所ノ事實ナリ抑原料用ノ酒類ヲ他ニ讓渡シ質入シ消費シ又ハ製造場外ニ移出スルカ如キハ原料酒類ヲ其儘處分又ハ使用シ之ヲ其原料ニ供セサルモノナルヲ以テ原料酒其モノノ造石數ヲ查定スヘキモノナレトモ本件被告ノ所爲ハ原料酒ノ内ヲ他ノ同種同質ノ清酒ト交換シタルニ過キスシテ燒酎原料清酒ノ石數及其酒精分ノ度ニ於テ毫モ増減變更ナキノミナラス讓與質入消費公賣又ハ製造場外ニ移出シタルモノニアラサレハ酒造稅法施行規則第十二條及第三十九條ニ該當セサル事明ニシテ同規則中他ニ查定ヲ受クヘキ規定ノ存セサレハ本件被告カ原料清酒ヲ交換スルニ付其儘之カ查定ヲ受クヘキモノニアラサルヤ勿論ニシテ隨テ該交換ノ事實カ查定ヲ免レ又ハ免レムトシタルモノト爲スヲ得ス然ルニ原裁判所カ查定ヲ免レムトシタル場合ニ適用スヘキ酒造稅法第二十四條ニ據リ被告ヲ處罰シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト思考スト云ヒ」第二點ハ良シヤ右交換ニ付查定ヲ受クヘキモノトスルモ後陳ノ如ク原料清酒ノ石數及其酒精分ニ毫モ増減變更ナキヲ以

テ被告カ査定ヲ免レムトノ意思ナキコト明瞭ナリ殊ニ酒造稅法第二十四條ノ犯罪ニハ詐欺其他不正ノ所爲アラサルヘカラサルニ被告ノ所爲ハ毫モ詐欺又ハ不正ノ所爲ナキコト明ナルニ依リ到底犯罪ヲ構成スヘキモノニ非サルナリ然ルニ原裁判所カ被告ヲ處罰シタルハ理由不備ノ裁判ナリト云フニ在リ○因テ按スルニ被告ニ於テ燒酎原料用トシテ製造シタル清酒十七石五斗七升一合ノ内八石ヲ汲取り明治三十三年度ニ製造シタル粕瀧古清酒ノ内へ移入シ其八石ノ所へ粕瀧古清酒八石ヲ補充シタルトスルモ清酒十七石五斗七升一合ノ内ヨリ八石ヲ汲取り粕瀧古清酒ノ内へ移入即チ混入シタルハ右八石ノ清酒ヲ消費シタルモノニシテ酒造稅法施行規則第十二條ニ依レハ酒造用原料品トシタル酒類ヲ消費スルニハ其造石數ノ査定ヲ受ケサルヘカラサルモノトス然ルニ被告ハ清酒八石ノ査定ヲ受ケスシテ擅ニ之ヲ汲ミ取り他酒ト混合シタルモノニシテ其不正ノ所爲タルヤ論ヲ俟タサルノミナラス酒造稅法第二十四條ニ所謂造石數ノ査定トハ製造シタル酒類其モノ、造石數ノ査定ヲ指稱シタルモノナレハ被告ニ於テ假令ヒ清酒十七石五斗七升一合ノ内ヨリ八石ヲ汲取り粕瀧古清酒八石ヲ補充シタルトスルモ其製造シタル八石ノ査定ハ之ヲ免レタルモノニシテ酒造稅法第二十四條ノ犯罪ヲ構成スルヤ論ヲ俟タサルヲ以テ右論旨ハ總テ上告ノ理由ナシ

○同一欄内ニ文字ノ挿入削除アリテ連續シタル文字ナルトキハ一個ノ押印ヲ以テ二個ノ變更ヲ證スルモ無効ニ非ス (明治三十五年十月九日) (明治四十三年一月二十一日)

辯護人高木益太郎上告趣意擴張書第二點ハ原判決證據說明ノ部ニ被告貞治カ原公廷ノ供述中「階子段ノ所ニテ何人ニカ行違ヒニ出逢ヒタリトノ記載」ヲ證據ニ援用シタルトモ本件記録百四十五枚目ヲ閱スルニ原公判始末書中貞治ノ右供述ニ係ル部分ハ挿入ニカ、ル事ハ甚顯然タリ而シテ其部分ハ相當官吏ノ認印ヲ押捺セサルヲ以テ右ノ挿入ハ其効ナシト云ハサルヘカラス既ニ該挿入ニシテ無効ナル以上ハ之ヲ供述セルモノトシテ斷罪ノ資料ニ供セラレタル原判決ハ即チ虛無ノ事實ヲ證據ニ供シタル不法アルヲ免レスト云フニ在レトモ○原院ノ公判始末書ヲ閱スルニ論旨ニ所謂挿入ノ個所ニハ明ニ右始末書ヲ作成シタル裁判所書記ノ印ヲ押捺シアリ尤モ同一欄内ニ削除ノ文字アルカ爲メニ右ノ押印ハ單ニ削除ノ旨ヲ證スヘクシテ挿入ニ付キ効用ナシト云フヲ得ヘキカ如キモ既ニ同一欄ニシテ且連續シタル文字ナルカ故ニ該押印ハ兼テ之ヲ二個ノ變更ヲ證シタルモノト認ムルニ足レリ依テ其挿入ハ無効ナリト云フヲ得ス故ニ論旨ハ上告ノ理由トナラス

○削除ノ字數ヲ記載スルハ正當ニ爲シタル削除ニ増加スルコトヲ防止スルニ在リ從テ一行ノ全部ヲ削除シ其旨ヲ記載シタルトキハ更ニ削除ヲ増加スルノ虞ナキヲ以テ其字數ヲ記載セサルモ違法ニ非ス (明治三十五年四月二十一日)(明治三十五年十一月十日)

辯護人森肇公私訴上告擴張趣意書第一點ハ原判決ヲ閱スルニ其第三百二十八葉中欄外ニ「一行削除」ノ記載アリテ字數ノ記載ナシ刑事訴訟法第二十一條ノ規定ニ依レハ文字ヲ削除スルトキハ其數ヲ記載スヘシトアリテ明ニ字數ノ記載ヲ命令シアルニ前記ノ如ク字數ヲ記載セズシテ單ニ行數ノ記載ヲ爲シタルハ同條ニ違犯セルノミナラス削除ヲ無効トスレハ判文ノ意味不明トナルヲ以テ結局理由不備ノ違法判決ト爲ルモノト確信スト云フニ在レトモ○削除ノ字數ヲ記載スルハ正當ニ爲シタル削除ニ増加スルコトヲ防止スルニ在リ然ルニ一行ノ全部ヲ削除シ其旨ヲ記載スレハ更ニ削除ヲ増加スルノ虞ナキヲ以テ其字數ヲ記載セサルモ敢テ違法ニアラス故ニ所論ノ削除ハ有効ニシテ論旨ハ理由ナシニ非ス (明治三十五年四月二十一日)(明治三十五年十一月十日)

○同一欄内ニ文字ノ記入階級マレモ並列マレハ文字ナクハ一階ノ階級マレモ二階ノ階級

○刑事訴訟法中書類ノ每葉ニ契印スヘシトノ規定ハ數葉ヲ合セテ一通ト爲シタル書類ニ適用スヘキモノトス從テ各通相異ナル書類ニ在テハ箇々別々ノ書類ナルヲ以テ其間契印ヲ爲スノ要ナシ (明治三十五年十一月二十日)

上告趣意擴張第一論旨ハ(前略)右公判始末書ト同年八月十二日第三回公判始末書トノ間ニ契印ヲ缺クヲ以テ第四回公判列席ノ判事ハ果シテ判決ヲ爲シタル判事ナルヤ知ルニ由ナシ是レ刑事訴訟法第二百六十一條ニ違背スル不法アリト云フニ在リ○然レトモ書類ノ每葉ニ契印スヘシトノ規定ハ數葉ヲ合セテ一通トナシタル書類ニ適用スヘキモノタルハ勿論各通相異ナル書類ニ在テハ則チ箇々別々ノ書類ナルヲ以テ其間契印ヲ要スヘキモノニ非サルハ事理ノ當然トス

○清酒ト酒粕トヲ混和シタル粕澆醪ヲ搾揚クル爲メ搾器械使用ノ許可ヲ受ケ之ヲ搾揚ケスシテ別ニ製造シ置キタル濁酒ヲ搾ルカ爲メ之ヲ使用シ因テ得タル清酒ヲ粕澆醪ヨリ搾取シタルモノ、如ク假裝シ其査定ヲ經テ之ヲ販賣シタル所爲ハ濁酒ヨリ製出シタル清酒ノ造石數ニ相當スル税金ノ納付ヲ免レムト企テタルモノナリトス（明治三十五年十二月二十五日）

上告趣意書ハ原院判決書ヲ閱スルニ其理由認定ノ部ニ於テ「前掲粕澆醪ハ濁酒トシテ之ヲ販賣シ其殘六石四斗四升八合ハ豫テ仕込ミタル査定濟ノ濁酒ノ腐敗シタルモノナリト詐稱シテ同年七月六日酒類造石稅免除申請書ヲ佐原稅務署ヘ差出シ其免除ヲ得ムトシタルモノナリトアリテ六石四斗四升八合ニ就テハ免稅ヲ企テタル事實ヲ認定シアルモ清酒七石七斗五升ニ就テハ何等説明スル所ナシ且清酒七石七斗五升ニ就テハ「同月二十四日臨檢セル官吏ニ向ヒ恰モ前掲粕澆醪ヨリ搾取シタルモノ、如ク假裝シ其査定ヲ經テ之カ一部ヲ販賣シ云々」ト説明シヨシ其内容ニ詐術アリシトスルモ兎モ角一應正式ノ査定ヲ經タルコトヲ明示セリ既ニ正式ノ査定ヲ經タル以上ハ之カ造石稅ヲ賦課セラル、ハ當然ナリ否事實上賦課セラレタルナリ故ニ若シ原院カ清酒七石七斗五升ヲ免稅ヲ企テタルモノトシ之ニ刑ヲ科スルニハ免稅ヲ企テタル事實ヲ最モ明ニスルノ必要アリ然ルニ原院カ毫モ茲ニ及ハサリシハ罪トナルヘキ事實ヲ明示セサル違法アリトスト云フニアリ○然レトモ被告ハ清酒七石七斗八升六合ト酒粕五十四貫トヲ混和シタル粕澆醪八石六斗二升二合ヲ搾揚ルカ爲メ搾器械使用ノ許可ヲ受ケ之ヲ搾揚ケスシテ別ニ製造シ置キタル濁酒八石八斗九升二合ヲ搾ルカ爲メ之ヲ使用シ因テ得タル清酒七石七斗五升ヲハ臨檢ノ官吏ニ向ヒ前記粕澆醪ヨリ搾取シタルモノ、如ク假裝シ其査

定ヲ經テ之カ一部ヲ販賣シタルコトハ原院文ニ認ムル所ノ事實ナリ蓋シ酒類製造者カ濁酒ヲ搾リテ清酒ヲ製造シタルトキハ新タナル酒類ヲ製造シタルモノナレハ其清酒ノ造石數ニ相當スル税金ヲ納付スルコトヲ要スルヲ以テ本件ニ於テ被告カ濁酒ヨリ製出シタル七石七斗五升ニ對シテハ特ニ税金ヲ納付セサルヘカラサルヤ明ナリ而シテ其七石七斗五升ノ清酒ハ原院文ニ認ムル前記粕澆醪ノ原料七石七斗八升六合ノ範圍内ニ屬スルヲ以テ若シ其七石七斗五升ノ清酒カ實際粕澆醪ヨリ製造シタルモノナルニ於テハ被告ハ之ニ對シテ特ニ税金ヲ支拂フコトヲ要セサルモノトス然ルニ被告ハ七石七斗五升ノ清酒ハ粕澆醪ヨリ搾取シタルト詐稱シタルモノナレハ被告カ現ニ濁酒ヨリ搾取シタル右七石七斗五升ニ對スル税金ノ納付ヲ免レムト企テタルモノナルコトハ明白ナリトス果シテ然ラハ原院文ニハ被告カ清酒七石七斗五升ニ對シテ免稅ヲ企テタルノ事實ヲ明示シアリテ理由ニ於テ毫モ欠クル所ナキヲ以テ上告論旨ハ理由ナシ

○酒造稅法ニ依レハ酒類ノ密造者ハ其造石數ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處セラルヘキモノニシテ清酒ノ造石稅ハ其酒精分ノ二十度以上ナルト以下ナルトニ依リ其稅額ヲ異ニス從テ密造ノ酒精分ニ關スル明確ノ證左ナキ爲メ密造酒ノ酒精分ヲ二十度以下ノモノト認定シタル判決ハ相當ナリ (明治三十六年一月十三日)

辯護人鳩山和夫外一名上告說明書ノ第四點ハ原院ハ本件酒造稅法違犯ノ罰金額ヲ定ムル標準ヲ得ルニ當リ「密造清酒ノ酒精分ニ就テハ本件記錄中何等明確ナル證左ナキニヨリ酒造稅法第四條ニ定メタル最下額ノ稅ヲ付スヘキ酒精分二十度以下ノ清酒ナリト判定ス」ト說明シ此標準ニヨリテ罰金ヲ科セラレタリト雖モ之レ即チ認定ノ理由ヲ付セサル不法ノ裁判ナリ何トナレハ若シ原院カ酒精ノ分量ヲ知ルニ苦マハ鑑定其他ノ方法ニヨリ之ヲ認定スヘキモノナルニ一件記錄中何等證左ナキヲ知リ乍ラ酒稅ノ稅率ヲ定メタル該法第四條ニ依リ酒精分二十度以下ノ清酒ナリト判定シ而モ酒精分ノ不明確ナル場合ニ斯法ニ依ルトノ規定毫モ存在セザレハナリト云フニ在レトモ○被告増太郎ハ清酒ヲ密造シタルモノナルコトハ事實證據ニ依リテ原院ノ認メタル事實ニシテ被告増太郎ノ密造シタルモノハ清酒ナリトセハ其清酒ハ多少ノ酒精分ヲ含蓄スルコトハ論ヲ俟タサル所ナルヲ以テ被告増太郎ハ酒造稅法違犯者トシテ刑罰ノ責任ヲ免ル、コト能ハサルモノトス而シテ現行酒造稅法ニヨレハ酒類ノ密造者ハ其造石稅ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處セラルヘキモノニシテ清酒ノ造石稅ハ其酒精分ノ二十度以上ナルト以下ナルトニ依リ稅額ヲ異ニシ二十度以上ノ酒精分ヲ含有スル清酒ハ二十度以下ノ酒精分ヲ含有スル清酒ヨリモ多額ノ稅金ヲ納付スルコトヲ要スルヲ以テ原院ニ於ケル事實ノ認定上

被告ノ密造シタル清酒カ二十度以上ノモノト確定スルニ於テハ被告ニ不利ナル結果ヲ生スヘキハ別段說明ヲ要セサル所ナリ夫レ斯ノ如ク被告ハ酒精分ヲ含有スル酒ノ製造者トシテ酒造稅法ノ制裁ニ服從セサルヘカラサル場合ニ被告ハ二十度以上ノ酒精分ヲ含有スル清酒ヲ製造シタルモノトシテ稅法ヨリ生スル重キ制裁ヲ被告ニ負ハシメ被告ニ不利ナル判決ヲ爲スヘキヤ若ハ被告ハ二十度以下ノ酒精分ヲ含有スル清酒ヲ製造シタルモノトシテ輕キ制裁ニ服從セシメ被告ニ利益ナル判決ヲ爲スヘキヤヲ決スルニ當リテハ別段ノ證據アルニ非サレハ被告ノ密造シタル清酒ヲ以テ二十度以上ノ酒精分ヲ含有スルモノト認メ被告ニ不利ナル判決ヲ爲スコト能ハサルヤ明ナリ故ニ原院カ密造ノ酒精分ニ關スル明確ノ證左ナキヲ以テ本件ノ密造酒ヲ酒精分ヲ二十度以下ノモノト認ムル旨ヲ判示シ被告ニ利益ナル判決ヲ爲シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ理由ナシ

○腐敗清酒ヲ模造シ造石稅ノ免除ヲ得ムトシタル犯罪行為カ現行酒造稅法施行後ナルトキハ其清酒ノ釀造カ施行前ニ係ル場合ト雖モ現行酒造稅法ヲ適用スヘキモノトス(明治三十六年一月十九日)

上告趣意書ハ原院判決ハ本案事件ニ付酒造稅法第二十五條ヲ適用シ三百五十三圓五十八錢ノ罰金ニ處セラレタル第一審判決ヲ認可セラレタリ然レトモ本件免除ヲ申請シタルハ明治三十三年度ノ造石稅ニ關スルモノナレハ改正以前ノ法律ヲ適用シ造石稅三倍ノ罰金ニ處セラレヘキモノナルニ五倍ノ罰金ニ處セラレタルハ擬律ニ錯誤アル判決ト思料スト云フニ在レトモ

○原判決ニ依レハ被告カ腐敗清酒ヲ模造シ造石稅免除ヲ得ムトシタルハ明治三十五年四月十三日ナルヲ以テ假令其清酒ハ明治三十三年度ノ釀造ニ係ルモノトスルモ明治三十四年ノ改正造稅法第二十五條ヲ適用シ造石稅五倍ノ罰金ニ處シタルハ其當ヲ得タルモノトス何トナレハ酒犯罪行為ノトキノ法律ヲ適用スヘキハ當然ナレハナリ

○間接國稅犯則者處分法第十四條ニ規定シタル場合ノ一ニ該當スルヤ否ヤヲ識別シテ同法第十一條ノ通告ヲ爲サス直チニ犯則事件ヲ告發スルト否トヲ定ムルハ間稅官吏ノ職權ニ屬ス從テ同官吏カ右通告ヲ爲サス直チニ之ヲ告發シタル以上ハ同法第十四條ニ規定シタル場合ノ一ニ該當スルモノト認メタルコトハ自ラ明ナリトス(明治三十六年一月二十三日)

辯護人降旗熊次郎上告理由擴張ノ要旨第一ハ原判決ハ本件第三ノ事實ニ對シ間接國稅犯則者處分法ニ依リ通告ノ手續ヲ爲サス直チニ刑ヲ言渡シタルハ失當ナリトノ辯護人ノ主張ニ對シ明治三十五年三月二十九日松本稅務管理局長飯塚忠成ノ檢事局ニ差出シタル書面ニ依リ通告ノ旨ヲ履行スル資力ナシト認メテ爲シタル告發ナリト認ムトノ理由ニ依リ之ヲ斥ケラレタリ然レトモ原院カ引用セル前記告發書ハ其内容ニ於テ第三ノ犯罪事實アリタルコトヲ告發セシニ過キスシテ被告人ノ資力ノ有無ニ付何等ノ記載アルコトナシ然レハ原判決ハ告發書ニ依リ認ムヘカラサル資力ノ有無ヲ斷シタルモノニシテ其失當タルヤ言フ俟タス之ヲ要スルニ第三ノ事實ニ對シテハ通告ノ手續ヲ缺ク手續上ノ不法アリテ犯罪トシテ未タ處斷スヘカラサルモノナリ然ルニ原院カ此點ニ對シテ事實ヲ冒認シ法則ヲ不法ニ適用シタルハ失當ナリト云フニ在レトモ○間接國稅犯則者處分法第十四條ニ規定シタル場合ノ一ニ該當スルヤ否ヤヲ識別シテ同法第十一條ノ通告ヲ爲サス直チニ犯則事件ヲ告發スルト否トヲ定ムルハ間稅官吏ノ職權ニ屬スルヲ以テ同官吏カ右通告ヲ爲サス直チニ之ヲ告發シタル以上ハ同法第十四條ニ規定シタル場合ノ一ニ該當スルモノト認メタルコトハ自ラ明ニシテ之ヲ告發書ニ明示スルノ要ナク又裁判所ニ於テモ同官吏ノ告發アル以上ハ其告發ニ基キ之ヲ處斷スルハ固ヨリ當然ノ

○收稅官吏カ酒類密造ノ證據物トシテ帳簿ヲ差押ヘ立チ去リタル後之ヲ強取セムトシ收稅官吏ヲ其歸途ニ要シ暗ニ危害ヲ加ヘムトスルノ舉動ヲ示シ帳簿ヲ強取シタル所爲ハ差押手續終了後ノ所爲ナルヲ以テ官吏職務執行ノ抗拒罪ニ非スシテ強盜罪ナリトス(明治三十六年三月十九日)被告四名辯護人村松龜一郎外一名上告趣意辯明書第一點原院ニ於ケル第二事實認定ノ要旨ハ稅務屬平慶五郎カ善右衛門方ニ於テ密造濁酒ヲ發見シ其證據物トシテ差押ヘタル倉出帳賣上帳各一冊及濁酒詰ノ罌二本ヲ携ヘ同家ヲ立去リタル後歸途ニ於テ被告善七幸八廣吉ノ三名共謀シテ右物品ヲ奪取シタリト云フニ在リ果シテ然ラハ本件ハ強盜罪ニアラスシテ官吏職務抗拒罪ナリ蓋シ官吏抗拒罪ナリヤ否ヤハ其職務ノ執行中ニ犯シタリヤ否ヤニ依リテ之ヲ決セサルヘカラス然リ而シテ本件ニ付キ平稅務屬カ證據物ヲ奪取セラレタル時期ハ其職務ノ執行中ナリヤ將又執行完了後ナリヤ是本件死活ノ分ル、重要問題ナリ按スルニ稅務屬平慶五郎カ右證據物件ヲ差押ヘタルノミヲ以テシテハ未タ職務執行ノ完了ト云フヲ得サルモノナリ即チ差押ヘタル後之ヲ携帶シテ其所屬佐沼稅務署ニ歸リ當該官吏ニ告發若ハ申告スルカ其他苟モ規定ノ手續ヲ完了スル迄ハ其職務ノ執行中ナルコト一點ノ疑ヲ容レス(中略)即チ職務ノ執行中ニ當リテ暴行脅迫ヲ以テ其差押物ヲ奪還シ由テ以テ職務ノ執行ヲ完カラシメサルカ如キハ明カニ官吏ノ職務執行ニ對シ抗拒シタルモノナレハ刑法第三百三十九條ニ則リ官吏職務執行抗拒罪ヲ以テ論スルハ格別強盜罪ヲ以テ處斷シタル原判決ハ失當ヲ免レスト云フニ在レトモ○原院ノ認メタル事實ニ依レハ收稅屬平慶五郎カ被告善右衛門方ニ於テ密造濁酒ヲ發見シ證據物トシテ帳簿二冊ヲ差押ヘ同家ヲ立去リタル後被告善七等ハ共謀シ暗夜ニ乘シ之ヲ強取セ

ムトシ各覆面シテ同人ヲ其歸途ニ要シ同人ヲ取圍ミ暗ニ危害ヲ加ヘムトスル舉動ヲ示シ終ニ同人ノ拒ムニモ不拘帳簿二冊ヲ強取シタルモノニシテ收稅屬平慶五郎カ被告善右衛門方ニ於テ帳簿ヲ差押ヘ其手續ヲ了シタルト同時ニ其職務ノ執行ハ爰ニ完了シタルモノナレハ是ヨリ以後ニ在リテ前示ノ如キ被告等ノ行爲ハ官吏職務執行ノ抗拒罪ニアラスシテ強盜罪ヲ以テ論擬スヘキコトハ言フ要セサルナリ故ニ原院カ被告善七等ノ所爲ヲ強盜罪ニ問擬シタルハ相當ノコトナリトス(中略)本件事實ハ前項掲クル所ノ如クニシテ強盜罪ノ成立スル理由モ亦前項說示スル所ノ如シ故ニ差押ノ手續ヲ了シタル以後ニアリテ本案事實ノ如キ所爲アル上ハ其場所ノ何レナルカヲ問ハス強盜罪ハ成立スルモノナレハ本論旨ハ其理由ナシ第五點本件ニ付被告等ノ所爲ハ濁酒密造ノ罪跡ヲ掩ハムカ爲メ其差押ヘラレタル證據物品ヲ奪還シタルモノナリヤ將又他ニ利得セムトシテ之ヲ奪取シタルヤハ本件死活ノ分ル、重要問題ナルニ原院ハ其犯意ノ何レニアリヤヲ說明セラレサルノミナラス官吏ノ職權ヲ以テ差押ヘ携帶シタルヲ奪還シタル場合ト一己人ノ占有シタル物品ヲ強盜シタル場合トヲ混同シ漫然刑法第二百七十九條ニ問擬シ強盜罪ヲ以テ處斷シタルハ共ニ理由不備ノ不法ヲ免レスト云フニ在レトモ○被告善七等カ差押ヘラレタル帳簿ヲ強取シタルハ犯跡ヲ蔽ハムトスルニ出テタルコトハ原判文上明認セラルヘキモノナルノミナラス其目的ノ如何ハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ有セザレハ其目的ノ明示ナキモ不法ト云フヲ得ス

○變味シタル清酒ニ水ヲ混シ又濁酒ニ水ヲ混シ更ニ之ヲ混和シタルモノハ即チ新ニ一ノ濁酒ナル酒類ヲ製造シタルモノトス

○酒造稅法第十八條ハ脫稅ノ意思ナクシテ酒類ヲ製造場外ニ移出シ又ハ他人ニ讓渡シ質入シ消費スルコトヲ得サラシメタル取締上ノ禁令ニ過キス而シテ同法第二十四條ハ之ト異ナリ脫稅ノ意思アリテ査定ヲ免レ又ハ免レムトシタル者ヲ罰スヘキ法條ナリトス(明治三十六年三月三十日)被告慶太郎上告趣意書ハ第一審裁判所ハ被告カ第二ノ所爲即變味清酒十石五斗水二石一斗トヲ混シ又濁酒二十一石ト水六石三斗トヲ混シ更ニ之ヲ混和シ濁酒三十九石九斗ヲ製造シタル所爲ハ酒造稅法第二十二條ニ該當スルモノナリトセルモ同條ハ新ナル原料ヲ用キテ酒類ヲ製造シ其課稅ヲ免レサラシメムトシタルモノニシテ一旦課稅セラレタル濁酒變味酒又ハ水ヲ混和シタレハトテ酒類ナル一新物ヲ造成シタルモノト云フヲ得ス然ルニ原院カ法律ノ適用ヲ誤リタル此一審判決ヲ認許シタルハ擬律ノ錯誤アル違法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○酒造稅法第一條ニ此稅法ニ於テ酒類ト稱スルハ清酒濁酒白酒云々六種トストアリ同法第二十二條ニハ免許ヲ受ケスシテ酒類又ハ云々製造シタルモノハ云々トアレハ第一審判決ノ認メタル如ク變味シタル清酒ニ水ヲ混シ又濁酒ニ水ヲ混シ更ニ之ヲ混和シテ濁酒ヲ製造シタルモノハ即チ新タニ一ノ濁酒ナル酒類ヲ製造シタルモノナルヲ以テ第二十二條ノ制裁ヲ受クヘキハ當然ナリ原判決ハ所論ノ如キ不法ナシ辯護人江木衷上告趣意擴張書第一點原判決ハ被告高橋甚八ノ犯罪事實ヲ叙スルニ當リ被告ハ檢査前ニ密カニ清酒醪三十六石四斗六升五合ヲ他人ニ賣渡シ其査定ヲ免レタリト云ヒ單ニ檢査前ニ酒類ヲ他人ニ賣渡シタル事實ノミヲ叙シテ査定

ヲ免レタル事實ヲ叙セスシテ之ニ稅法第二十四條ヲ適用セルハ法律ノ適用ヲ誤リ且ツ判決ニ犯罪ノ事實ヲ明示セサル不法アルヲ免レス何トナレハ單ニ査定前密カニ酒類ヲ他ニ賣渡シタル所爲ハ稅法第十八條第二十八條ヲ適用スルニ過キサレトモ右稅法第二十四條ハ大ニ其趣ヲ異ニシ「酒類ヲ製造スル者詐僞其他不正ノ所爲ヲ以テ造石數ノ査定ヲ免レタル所爲」ヲ罰スルモノナレハ稅法第八條ノ各項ニ規定セル時期ニ於テ現ニ造石數ノ査定ヲ爲シ其査定ノ當時査定前ニ於テ密カニ賣渡シタル造石數ヲ隱掩シ其賣渡シタル石數ヲ除キ殘餘ノ石數ニ付其査定ヲ受ケタル事實ナケレハ右第二十四條ヲ適用シ得ヘカラス假令査定前ニ酒類ヲ他ニ賣渡スモ他ノ方法ニ依リ其賣渡シタル石數ヲ減少セスシテ査定ヲ受クル以上ハ石數ニ増減ナキヲ以テ第十八條ノ罪アルモ第二十四條ノ罪アルナシ然ルニ原判決ハ現ニ造石數ヲ査定シタル事實及其査定ノ際造石數ヲ詐リタル事實ヲ認メスシテ第二十四條ヲ適用セルハ不法ナリ然ラハ如何ナル理由ニテ本件ハ査定ノ際造石數ニ異同ナカリシヤト云フニ第一檢事ノ控訴理由及一件書類ニテ明瞭ナルカ如ク元來本件公訴ノ事實ハ被告ハ査定前ニ三十六石餘ノ清酒醪ヲ數次他ニ賣渡シ其都度清水ヲ加ヘ置キ査定ヲ受ケタル所爲ヲ以テ稅法第二十四條ニ當ルモノトシテ公訴ヲ提起セラレタルモノニシテ第一審以來被告ノ爭フ所ハ被告カ他ニ賣渡シタル醪ヲ補フ爲メ其都度清水ヲ加ヘタルナラハ數ニ於テ同一ナレハ査定ノ際造石數ヲ免レタルモノニアラスト云フニ在リテ第一審カ無罪ノ判決ヲ言渡シタルモ亦此點ヨリ密賣ノ必要ナキヲ推測セルニ在リシナルヘシ然ルニ原判決ハ右ノ清水ヲ加ヘタル事實ハ全然之ヲ認メス單ニ査定前ニ他ノ酒類ヲ賣渡シタル事實即チ稅法第十八條ニ相當スル事實ノミヲ認メタル爲メ犯罪事實ハ極メ

ヲ單簡ナルモノトハナリタレトモ依然第二十四條ヲ適用スルニ至リテ遂ニ此ノ不法ヲ招クヲ致セリ甚ハノ第二ノ所爲ニ付テモ右同一理由ヲ引用シ原判決ニ不法アルモノトスト云フニ在レトモ○酒造稅法第十八條ハ酒類ヲ製造スルモノハ造石數査定前ニ於テハ其酒類ヲ他人ニ讓渡シ質入シ消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ストアリ而シテ同第二十八條ニハ云々第十八條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ストアリテ該第十八條ハ脫稅ノ意思ナクシテ酒類ヲ製造場外ニ移出シ又ハ他人ニ讓渡シ質入シ消費スルコトヲ得サラシメタル取締上ノ禁令ニ過キスシテ同第二十四條ハ之ト異ナリ脫稅ノ意思アリテ査定ヲ免レ又ハ免レムトシタルモノヲ罰スヘキ法條ナリ今原判決ノ認ムル所ニ依レハ被告甚ハハ酒類製造業テ云々意思繼續シテ數回ニ云々檢査前密カニ清酒醪三十六石四斗六升五合ヲ汲取り内三十石者ニシ五斗四升ハ同年一月九日ヨリ同年三月十三日迄ノ内ニ被告慶太郎ニ賣渡シ云々濁酒三十六石四斗六升五合ノ査定ヲ免レトアリ即チ脫稅ノ意思ヲ以テ査定前密カニ他ニ賣却シ造石數ノ査定ヲ免レタル事實ヲ認定シタルニ在ルヤ明ナレハ之ニ對シ稅法第二十四條ヲ適用處斷シタルハ相當ニシテ所論ノ如キ不法ナシ

○酒造稅法ノ規定ハ各酒類毎ニ其製造ノ免許ヲ受ケシムルノ趣旨ナリトス從テ免許ヲ受ケスシテ數種ノ酒類ヲ製造シタル所爲ハ意思繼續ノ一犯罪ニ非スシテ數個異別ノ犯罪ナリトス

長崎控訴院檢事長水上長次郎上告趣意書ハ第一當院ノ判文ヲ讀ムニ被告ハ酒類製造ノ免許ヲ受ケスシテ其自宅ニ於テ意思ヲ繼續シ濁酒燒酎及清酒ヲ製造シタリトアレトモ其意思繼續トハ犯罪ノ初頭ニ於テ清酒醪ヲ仕込ミ其成熟醪即チ濁酒ヲ造リ之ヲ搾リテ清酒トナシ更ニ其粕ヲ蒸餾シテ燒酎ヲ製シタル如ク其外形ニ於テハ三種ノ酒類ヲ製造シタルモノナレトモ其實質ニ於テハ一貫ノ行爲ナリトノ謂ナル乎將タ三種ノ酒類ヲ製造シタルハ各獨立ノ行爲ニシテ其間因果ノ關係アルニアラサレトモ同一ノ場所ニ於テ同時ニ又ハ接近シタル時期ニ於テ製造シタルモノナレハ酒類ヲ製造スルノ意思ハ互ニ連續セリトノ謂ナル乎若本件ノ事實ハ前者ニアリトセハ之ヲ一罪トシテ罰スルモ不可ナカルヘシト雖モ之ニ反シテ後者ノ事實ナリトセハ第二爭點ニ於テ詳論セムトスル如ク一酒類毎ニ一罪ヲ構成スルモノナレハ其事實ハ宜ク之ヲ明示スヘキ筈ナルニ判文茫漠トシテ二者孰レカ其事實ナル乎ヲ知ル能ハサルハ理由不備ノ判決ナリト思料ス」第二當院ハ第一審判決ヲ取消ス理由トシテ同一ノ場所ニ於テ繼續セル意思ヲ以テ之ヲ密造シタルモノト認ムルヲ相當トシ從テ一酒類毎ニ一罪ヲ構成スルモノニ非スト説明セリ右説明ニ依レハ不充分ナカラ當院ハ前項ニ於テ論シタル後說ヲ以テ本件ノ事實ナリト認メ其事實ハ一罪ヲ構成スルニ止マルモノト判決セルモノ、如シ本職ノ見ル所ニ依レハ本件ハ事實認定ノ理由不備ナリト思料スレトモ假リニ其理由ニ不備ノ瑕疵ナシトセハ酒造稅法

上本件ハ一罪トシテ罰スヘキモノナル乎ノ判斷ヲ仰カサルヘ
 カラス借本職カ一酒類毎ニ一罪ヲ構成スルモノト信スル理由ニ數個アリ（イ）ハ法律ノ沿革
 上ヨリ來レル解釋ニシテ舊法即チ酒造稅則第二條ニ免許ヲ受ケタル者ハ總テ之ヲ製造スルヲ
 得ヘシト明示アリテ酒造免許者ハ全種類ヲ製造スルヲ得タレトモ新法即チ現行法律ハ此明文
 ヲ存セス（ロ）酒造稅法施行規則第一條ニ酒類ヲ製造セムトスルモノハ其酒類製造場及製造
 スヘキ酒類ヲ定メ申請シ其免許ヲ受クヘシトアリ且大藏省令（明治三十年第十五號）ニ定メタル免許申請
 ノ様式ニモ製造スヘキ酒類ヲ指示シテ免許ノ申請ヲ爲スヘキモノトシ其申請ヲ受ケタル稅務
 署ハ酒類中ノ一種又ハ數種ニ限リテ免許セリ（ハ）酒造稅法第五條ハ清酒濁酒及ヒ燒酎ノ製
 造最低石數ヲ制限セリ然ルニ舊法ノ如ク酒造免許ヲ受ケタルモノハ總テノ酒類ヲ製造スルコ
 トヲ得ルモノトセハ清酒ノ免許ヲ得テ濁酒ヲ造リ白酒ノ免許ヲ得テ清酒ヲ造ル等ノ結果ヲ生
 シ最低石數ヲ制限シテ取締ヲ嚴密ニセムトスルノ目的ヲ達スル能ハサルナリ（ニ）若シ一種
 ノ酒類製造ノ免許ヲ受ケタルモノハ他ノ酒類ヲモ製造スルコトヲ得ルトセハ其申請セザリシ
 酒類ヲ造リタルモノハ稅法第二十四條ニ依リテ罰セサルヘカラサレトモ元來最低石數ニ達セ
 サル或種ノ酒類製造ハ之ヲ申請スルモ免許ヲ受クルヲ得サルモノナルニ其免許セラレ得ヘカ
 ラサルモノヲ密造シタル者ニ對シ酒類ノ査定ヲ免レタリトノ法律ヲ適用スルハ不當ナルコト
 論スル迄モナキコトナラム以上ノ理由ニ依リ現行稅法ハ一種毎ニ免許ヲ得ヘキ法規ナレハ一
 ノ酒類ニ付免許ヲ得ルモ他種ノ酒類ヲ製造スレハ無免許製造者トシテ稅法第二十二條ノ罰
 ヲ受クヘキハ明確ナリト信ス酒造免許者スラ無免許ノ酒類ヲ製造スルトキハ無免許製造ノ罪

ヲ構成スルモノナルコト疑ナシトセハ元來免許ヲ得サルモノカ二種以上ノ酒類ヲ各別ニ製造
 シタルトキハ其場所ヲ同シウシ其時期ヲ接續スルトモ別罪ヲ構成スヘキハ多言ヲ要セスシテ
 之ヲ知り得ヘシ然ルニ當院カ之ヲ一罪トシテ罰シタルハ擬律ノ錯誤ナリト思料スト云フニ在
 リ○因テ審按スルニ酒造稅法第二條ニハ「酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場一ヶ所毎ニ政府
 ノ免許ヲ受クヘシ云々」トアリテ酒類ヲ製造スル爲メ一ノ免許ヲ得タル者ハ數種ノ酒類ヲ製
 造シ得ヘキカ如シト雖モ酒造稅法施行規則第一條ニ依レハ酒類ヲ製造セムトスル者ハ其酒類
 製造場及製造スヘキ酒類ヲ定メ其居所氏名ヲ記シ稅務署長ニ申請シ其免許ヲ受クヘシ」ト
 アリテ免許ヲ受クルニ當リ製造スヘキ酒類ヲ一定スルヲ要スルモノナレハ一ノ酒類ヲ定メテ
 免許ヲ受ケタル者カ他ノ酒類ヲ製造スルニハ更ニ免許ヲ受ケサルヘカラサルヲ以テ結局酒造
 稅法ノ規定ハ各酒類毎ニ免許ヲ受ケシムルノ趣旨ナルヤ明ナリ從テ免許ヲ受ケスシテ數種ノ
 酒類ヲ製造シタル者ハ數個異別ノ犯罪行爲ヲ爲シタルモノナレハ假令犯人ノ意思ハ繼續シタ
 リトスルモ數ヶ異別ノ犯罪行爲ヲ以テ繼續シタル一犯罪ト云フヘカラス何トナレハ數個ノ行
 爲ヲ以テ一ノ繼續犯罪トナスハ犯人カ繼續シタル同一ノ意思ヲ以テ同一ノ數行爲ヲ爲シタル
 場合ナラサルヘカラス若シ意思ヲ異ニシ又ハ行爲ヲ異ニスル場合ニ於テハ數個ノ犯罪ヲ構成
 シ一個ノ繼續犯罪ヲ構成スルモノト云フヘカラサルヲ以テナリ而シテ本件被告ハ免許ヲ受ケ
 スシテ濁酒燒酎及ヒ清酒ノ三種ノ酒類ヲ製造シタルモノナレハ即チ三個異別ノ犯罪行爲ヲ爲
 シタルモノニシテ三罪ヲ構成セサルヘカラサルニ拘ハラス原院カ意思繼續シタル一罪トシテ
 處斷シタルハ失當ニシテ上告論旨ハ其理由アリ

○骨牌稅法違犯事件ニ付キ稅務署長ノ告發ニ基キ裁判所カ審理ヲ爲シタル結果稅務署長カ違犯事件ニ付適用シタル法條ト裁判所カ同事件ニ付適用シタル法條トヲ異ニスルモ其事實ニシテ同一ナルトキハ之ヲ以テ告發以外ノ事實ニ對シ判決シタルモノト云フヲ得ス

○裁判所ハ稅務署長カ犯則者ニ通告シタル罰金額ニ拘束セラル、モノニ非ス從テ其罰金額ヨリ重キ罰金ヲ科スルモ違法ニ非ス

○自宅店頭ニ於テ犯罪ヲ犯シタルコトノ記載アル以上ハ犯罪ノ場所ヲ明示セサルモノト云フヲ得ス (明治三十六年四月十七日)

上告趣意書ヲ要スルニ第一ハ本件ハ間接國稅犯則者處分法第十四條ニ該當スルモノニシテ稅務署長ノ通告シタル罰金額十圓ハ其通知ニ依リ確定シタルモノナルニ三百圓ノ罰金ニ處シタル第一審判決ヲ認可シタル原判決ハ不法ナリト云ヒ」第二ハ本件ノ起訴ハ骨牌稅法第十六條前段ノ行爲ニ對スルモノニシテ同法第二十四條ノ所爲ニ對シテハ通告告發ナキモノナルニ第二十四條ノ犯則者トシテ處斷シタル第一審判決ヲ認可シタル原判決ハ違法ナリト云フニ在レトモ○訴訟記録ヲ查スルニ稅務署長ハ被告カ印紙ヲ貼用セサル里札ト稱スル骨牌參組ヲ所持シ販賣ニ供スル爲メ他ノ商品ト共ニ店頭ニ羅列シタル所爲ヲ骨牌稅法第十六條ニ違背スルモノト判定シ之ニ相當スル罰金十圓ヲ納付スヘキ旨ヲ通告シ被告ハ之ニ應セサルニ依リ告發ヲ爲シ第一第二審ハ其事件ヲ審理シタル結果被告ノ所爲ハ同法第二十四條ニ該當スルモノト判定シタルモノナレハ告發シタル事實以外ノ行爲ニ對シ判決ヲ下シタルニ非ス又裁判所ハ特ニ法律ニ規定アル場合ノ外ハ其認定シタル事實ニ對スル法定ノ刑ヲ適用スルノ權能ヲ有スル

モノニシテ法律上稅務署長ノ通告シタル罰金ヨリ重キ罰金ニ處スルコトヲ禁シタル法規ナキ以上ハ通告シタル罰金額ニ拘束セラル、コトナク被告ノ行爲ヲ骨牌稅法第二十四條ニ該當スルモノト認定シ其刑ハ三百圓以上千圓以下ナルヲ以テ其範圍内ニ於テ罰金三百圓ニ處シタルハ違法ニアラス」第三ハ原判決ニハ自宅トノミアリテ犯罪ノ場所ヲ明示セサルノ違法アリト云フニ在レトモ○原判決ニ「自宅店頭ニ他ノ商品ト共ニ陳列シ置キタルモノナリ」ト明示シアレハ判文冒頭ノ被告ノ肩書ノ地ニ於テ本件ノ罪ヲ犯シタルコト明白ナルヲ以テ犯罪ノ場所ヲ明示セサルモノト云フヲ得ス

○政府ノ免許ヲ受ケスシテ酒類ヲ製造スルノ罪ハ免許ヲ受ケサルコト、酒類ヲ製造シタルコトノ二要素ヲ以テ成立ス而シテ從犯ノ罪ハ正犯ノ犯罪ヲ構成スヘキ要素ノ一ヲ幫助スルトキハ成立スルモノナルヲ以テ他人カ酒類ヲ製造スルノ事實ヲ知り其原料タル米ヲ供給シタル所爲ハ免許ヲ受ケスシテ酒類ヲ製造シタル罪ノ從犯ナリトス（明治三十六年四月二十四日）

大阪控訴院檢察長上告趣意書ハ被告寅之助ニ對スル論旨ハ重罪輕罪ヲ犯スコトヲ知りテ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタルモノハ從犯ナルカ故ニ重罪輕罪タルコトヲ知りテ其構成要素中ノ一要素ノ成立ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタルモノハ從犯ナリ無免許酒造罪ハ（一）無免許ノ不行爲ト（二）酒造ノ行爲ト二要素ノ合同ニ因リ構成スルモノナルコト論ヲ俟タス

原判決カ無免許タル不行爲ヲ處罰スルモノニシテ製造行爲其モノヲ禁スル主旨ニアラスト爲シタルハ甚シキ失當ナリ原判決ハ酒造稅法第二十二條ニ於テ製造ノ酒類ハ之ヲ沒收セス相當課稅ノ上自由處分ニ任スルヲ以テ見ルモ無免許タル不行爲ヲ罰スルモノニシテ製造行爲其モノヲ禁スル主旨ニアラストヲ知ルニ足レリト云フモ無免許釀造ノ酒類ヲ沒收セサル所以ハ立法上之ヲ沒收セスシテ造石稅ヲ徵收スルヲ策ノ得タルモノナリト認メ此ノ如ク規定セシニ過キサレハ之ヲ以テ酒造稅法カ無免許ノ不行爲ヲ罰スルモノニシテ製造行爲ヲ禁スル主旨ニアラストノ論據ト爲スニ足ラス故ニ無免許酒造罪ヲ犯スコトヲ知りテ其構成要素ノ一タル酒造ヲ幫助シタル場合ニ於テ從犯トシテ處罰スル能ハサルノ理斷シテ有ルコトナシ原判決ノ所謂無免許ノ事ニ關シ幫助ノ所爲アリシ從犯トシテ處罰スルカ如キハ寧ロ想像スヘカラサル事例ニ屬セリ本件被告寅之助カ石橋傳吉ノ無免許酒造罪ヲ犯スコトヲ知りテ其原料タル米ヲ

供給シタル事實ハ原判決ノ認ムル所ニシテ其行爲カ無免許酒造罪構成ノ要素タル酒造ノ幫助タルコト疑ヲ容レス故ニ被告寅之助ハ無免許酒造罪ノ從犯ニシテ酒造稅法第二條第二十二條刑法第五條第二項同第九條酒造稅法第三十一條ニ該ルモノナリ然ルニ原裁判所カ犯罪ヲ構成セストノ理由ヲ以テ無罪ト判決シタルハ擬律錯誤ノ裁判ト思料スト云ヒ「被告傳吉ニ對スル論旨ハ犯罪ノ用ニ供シタル物件トハ犯罪構成ニ必要ナル原素ノ成立ノ用ニ供シタル物件ヲ云フ本件差押物件カ被告傳吉ノ免許ヲ受ケサル酒類釀造ノ用ニ供セラレタルコトハ原判決ノ認ムル所ニシテ酒造行爲カ無免許酒造罪構成ノ原素タルコトハ前段論旨ニ於テ説明セルカ如シ故ニ本件差押物ハ犯罪ノ用ニ供シタルモノニシテ刑法第五條第二項第四十三條第二號ヲ適用シ沒收スヘキモノナリ然ルニ原裁判所カ本件差押物件ハ犯罪ノ用ニ供シタル物件ニ非ストノ理由ヲ以テ還付スト判決シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在リ○依テ審按スルニ酒造稅法第二十二條ニハ免許ヲ受ケスシテ酒類ヲ製造シタルモノハ五十圓以上五千圓以下ノ罰金ニ處ストアリテ本條ノ罪ハ同法第二條ニ依リ政府ノ免許ヲ受ケサルコト、酒類ヲ製造シタルコトノ二要素ヲ以テ構成スルモノニシテ無免許ト酒類製造ハ本犯罪ノ構成ニ付テハ分割シテ觀察スルコトヲ得ヘカラス而シテ從犯ノ罪ハ正犯ノ犯罪ヲ構成スヘキ要素ノ一ヲ幫助スルトキハ成立スルモノナリ然ラハ原判決ニ認定シタルカ如ク被告寅之助カ被告傳吉ノ清酒密造ノ事實ヲ知りテ其原料タル米ヲ供給シタル行爲ハ傳吉カ酒造稅法第二十二條ノ犯罪ヲ幫助シタル從犯ノ犯罪ヲ爲スモノト云ハサルヲ得ス又被告傳吉カ酒類製造ニ使用シタル器具ハ前述ノ理由ニ依リ右犯罪ノ用ニ供シタルモノニシテ刑法第四十三條第二號ニ依リ沒收スヘキヲ相當

トス然ルニ原判決ニ於テ酒造稅法第二十二條ノ罪ハ單ニ政府ノ免許ヲ受ケサル不行爲ヲ罰シ酒造ノ行爲ハ其犯罪ノ要素ニアラストシ被告寅之助ニ從犯ノ罪ナク又被告傳吉カ酒造用ニ供シタル器具ハ犯罪ノ用ニ供シタルモノニ非ストシ之ヲ沒收セザリシハ失當ニシテ上告ハ其理由アルモノトス

○輸出トハ内國所在ノ貨物ヲ外國ニ向ケ輸送スルコトヲ意味ス從テ内國ノ貨物ヲ船舶ニ積載シ外國ニ向ケ内國ノ港灣ヲ發スルトキハ此瞬間ニ於テ其貨物ハ海外ニ輸出セラレタルモノトス (明治三十六年四月二十八日)

○輸出トハ内國所在ノ貨物ヲ外國ニ向ケ輸送スルコトヲ意味ス從テ内國ノ貨物ヲ船舶ニ積載シ外國ニ向ケ内國ノ港灣ヲ發スルトキハ此瞬間ニ於テ其貨物ハ海外ニ輸出セラレタルモノトス (明治三十六年四月二十八日)

被告虎太郎上告趣意書ノ第二ハ被告森太郎カ先キニ乗組船住榮丸ニ積込在リシ偽造韓國白銅貨ト稱スル物品ハ被告ト共謀ノ上積込ミタルモノトスルモ住榮丸ハ内國沿海航線ヲ航行スルノ外未タ外國航船ノ資格ヲ有セサル船體ナルヲ以テ資格ノ變更ヲ求メサル住榮丸ハ其儘渡韓ノ能船ニアラス故ニ山口縣下ノ關ヲ出帆シ上阪ノ準備ヲ爲シ而シテ停船地タル大阪ニ於テ資格變更ノ手續ヲ了シ官之ヲ許可スルニ於テハ渡韓スルノ目的ヲ以テ廣島縣御調郡糸崎港ニ來リ同地出帆尾道灣ニ淀泊中偽造韓國白銅貨積込アリシヲ發見セラレ其目的ヲ遂クルコト能ハサルモノナレハ輸出已遂ト云フヲ得サルナリト云ヒ」被告森太郎ノ上告趣意書第一ハ被告ハ住榮丸ニ乗組既定ノ航路航行中明治三十六年一月頃同乗組員布川虎太郎ハ大阪ニ所用アリテ上阪スルノ便ニ託シ偽造韓國白銅貨ノ買入ヲ託シタルモ船内へ積込ノ手續ニ至ラスシテ發見セラレ又偽造韓國白銅貨九萬七千餘個ハ本船カ山口縣下ノ關ヲ出帆シ大阪へ航行スル途中廣島縣御調郡糸崎港ニ淀泊中住榮丸ト稱スル船員二名カ大阪布川ヨリ依頼ト申シ貨物ノ積込ヲ求ムルニヨリ兼テ布川虎太郎ニ買入方依頼シアルヲ以テ偽造韓國白銅貨ナラムト察シ之ヲ積込レタルモ果シテ韓國通用ノ白銅貨ノ偽造ナルヤ否ヤハ知ラス其儘順路尾道灣ニ着船中發見セラレタルモノナルモ住榮丸ハ内國沿海航線ヲ航行スル船體ニシテ外國航船ノ資格ヲ有シ居ラサルカ爲メ停船地タル大阪ニ於テ資格變更ノ手續ヲ了シ官之ヲ許可スルニ於テハ渡韓ス

ルコトヲ得ヘキモ若シ不許可ノキハ航行スルヲ得サル條件付ノ船體ナルヲ以テ條件完備ノ後ニアラザレハ輸出手續等ノ實行ヲ爲ス能ハス故ニ原審控訴院カ認メタル事實ト假定スルモ輸出已遂ト云フヲ得サルヘシ然ルニ輸出已遂トシテ處分シタルハ不法ナリト思考スト云フニ在レトモ○原院ノ認メタル事實ニ依レハ被告等ハ偽造韓國白銅貨ヲ帆船住榮丸ニ積載シ韓國へ輸出スルノ目的ヲ以テ住榮丸ノ淀泊スル糸崎港ヲ出帆シタルモノナレハ明治三十五年勅令第二百五十六號第二條ニ所謂偽造ノ韓國白銅貨ヲ輸出シタル者ニ該當シ同第三條ノ刑罰ニ處ヒラルヘキモノニシテ被告等カ渡韓ノ目的ヲ達シタルヤ否ヤハ本罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ何トナレハ輸出トハ内國所在ノ貨物ヲ外國ニ向ケ輸送スルコトヲ意味シ輸送ノ方法カ船舶ナルトキハ内國ノ貨物ヲ船舶ニ積載シ其船舶カ外國ニ向ケ内國ノ港灣ヲ發スルト同時ニ之ニ積載セル貨物ハ内國ノ土地ニ對スル關係ヲ離脱シ内國所在ノ貨物タルノ性質ヲ失却スヘキヲ以テ其貨物ハ其瞬間ニ於テ海外ニ向ケ輸出セラレタルモノトナルヘケレハナリ而シテ被告等カ韓國渡航ノ目的ヲ以テ糸崎港ヲ出帆シタルコトハ原院ノ認ムル所ノ事實ニシテ住榮丸カ外國航船ノ資格ナク被告等ハ資格變更ノ許可ヲ得タル止渡韓スル目的ナリト被告主張ノ事實ハ原院ノ認メサル所ナレハ本論旨ハ原院ノ認メサル事實ヲ主張シテ原判決ヲ攻擊スルモノニ歸着シ止告適法ノ理由トナラズ

○關稅法ハ其第七十五條ニ脫稅及脫稅ノ企圖ニ對シテハ刑罰ノ制裁ヲ付スヘキ旨ノ規定アル

モ脫稅ノ目的タル貨物ノ賣買讓渡ニ對シテハ別ニ刑罰ノ制裁ヲ付スルノ規定アルコトナシ從テ脫稅ノ目的タル物件ノ賣買ハ何等ノ犯罪ヲ構成セス (明治三十六年五月十九日)

辯護人高木益太郎辯明書ハ本件事實ハ第一審判決事實理由ノ部前段第一乃至第二十ノ各煙草ヲ密輸入シタル事實同判決後段第一乃至第五ノ右輸入品ヲ賣却シタル犯罪アリト云フニアルモ本件起訴狀ニハ單ニ關稅法違反トノミ記載シテ且ツ第一審公判始末書ニモ其第一回公判ニ於テ立會檢事ハ告發書所載ノ「告發書中賣却セシ事實ノ記載ナシ」第一乃至第二十同ナル事實ノ陳述ヲ爲シ何レモ密輸入ヲ遂ケ關稅ヲ違脱シタルモノナルニ付相當審理アリタシト陳述シタル旨及ヒ其後審理更新スル數次ノ公廷ニ於テ前回ト同一ノ陳述ヲ爲シタル旨ノ記載アルニ依テ看レハ第一審檢事ハ單ニ右密輸入ノ事實ノミニ對シ起訴ノ手續ヲ爲シ其賣却ノ點ニ關シ全然起訴セザリシモノナルコトハ一點ノ疑ナキ所ナリ果シテ然ラハ第一審判決カ右賣却ノ點ヲ併セテ處斷シタルハ刑事訴訟法第百八十四條ニ違背セル不法アリ故ニ之ヲ看過シタル原院判決モ亦同一ノ瑕瑾ニ陷レル裁判タルヲ免レスト云フニ在リ○依テ關稅法ヲ按スルニ其第七十五條ニ關稅ノ違脱ヲ圖リ又ハ關稅ヲ違脱シタルモノハ其違脱ヲ圖リ又ハ違脱シタル税金ノ三倍ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處スル旨ノ規定アリテ脫稅及脫稅ノ企圖ニ對シテハ刑罰ノ制裁ヲ付シアルモ脫稅ノ目的タル貨物ノ賣買讓渡ニ對シテハ別ニ刑罰ノ制裁ヲ付セサルヲ以テ脫稅ノ目的タル物件ノ賣却ハ何等ノ犯罪ヲ構成セサルモノトス(後略)

ル事實ノ記載アル上告人及下村ノ調書ヲ證據トシテ援用シタルハ理由ニ艱難アルモノナリト云フニ在レトモ○問稅官吏カ證據集取ハ處分ヲ爲シタル場合ニ其調書ヲ作成スルハ畢竟其處分ヲ爲シタルコトヲ證明スルカ爲メニ外ナラザレハ本件ノ如ク稅務屬カ既ニ證據物件トシテ差押ヲ爲シタル以上ハ假令ヒ其調書ハ未タ作成シテラサル前ガリトスルモ其物件ノ占有ハ業ニ已ニ該官吏ニ移轉シ該官吏ノ看守ニ係ルモノタルコト論ヲ俟タサルニ依リ論旨ハ上告ノ理由トナラス

其調書、古昔ハ薪宮吏ニ移轉シタルモノナリト云フニ在レトモ○問稅官吏カ證據集取ハ處分ヲ爲シタル場合ニ其調書ヲ作成スルハ畢竟其處分ヲ爲シタルコトヲ證明スルカ爲メニ外ナラザレハ本件ノ如ク稅務屬カ既ニ證據物件トシテ差押ヲ爲シタル以上ハ假令ヒ其調書ハ未タ作成シテラサル前ガリトスルモ其物件ノ占有ハ業ニ已ニ該官吏ニ移轉シ該官吏ノ看守ニ係ルモノタルコト論ヲ俟タサルニ依リ論旨ハ上告ノ理由トナラス

○問稅官吏カ證據集取ハ處分ヲ爲シタル場合ニ其調書ヲ作成スルハ畢竟其處分ヲ爲シタルコトヲ證明スルカ爲メニ外ナラザレハ本件ノ如ク稅務屬カ既ニ證據物件トシテ差押ヲ爲シタル以上ハ假令ヒ其調書ハ未タ作成シテラサル前ガリトスルモ其物件ノ占有ハ業ニ已ニ該官吏ニ移轉シ該官吏ノ看守ニ係ルモノタルコト論ヲ俟タサルニ依リ論旨ハ上告ノ理由トナラス

○間接國稅犯則者ニ對スル尋問ニ付テハ時間ヲ制限アルコトナル(明治三十六年六月五日)

上告趣意第三ハ原院ノ證據ニ援用シタル稅務屬白土千代藏ヲ作成シタル臨檢顛末書ノ前段ニ「家宅搜索中彦太郎立會ヲ爲シタリ」又其後段ニ「午後三時ヨリ始マリ午後七時ニ終了」ト記載アリ然ラハ右臨檢搜索處分ハ日役後ノ違法行爲ニシテ無効タルヲ免レス然ルニ原院カ漫然之ヲ證據ニ供シタルハ失當ナリト云フニ在レトモ○間接國稅犯則者處分法第五條ニハ間觀官吏家宅搜索及物件差押ヲ爲スハ日出ヨリ日没マテノ間ニ限ルヘシトアリテ犯則者ニ對スル訊問ニ付テハ此時間ノ制限アルコトナシ而シテ所論ノ臨檢顛末書ヲ查閱スルニ家宅搜索及帳簿ノ差押ハ四月十七日午後四時ニ終了シタル旨ヲ記載アリテ午後七時ニ終了シタルハ齋藤彦太郎ニ對スル訊問ナレハ右臨檢處分ニ付所論ノ如キ違法ノ點ナク從テ其顛末書ハ有効ナルヲ以テ之ヲ援用シタル原判決ハ不法ニ非ス

○荷クモ免許ヲ得シテ竊カニ酒精含有飲料ヲ製造スルニ於テハ酒精及酒精含有飲料稅法第十五條同第二條ニ從ヒ處斷スヘキモノトス而シテ之ヲ製造スルニ當リ納稅濟ノ清酒又ハ酒精ヲ用キルト其他ノモノヲ用キルトハ同法ノ間ハサル所ナリトス (明治三十六年五月二十五日)

上告趣意ハ酒精及酒精含有飲料稅法第二條ノ規定ハ現實ニ製造シタル造石ヲ標準ト爲シ之ニ課稅スル稅額ノ五倍ヲ以テ罰金算定ノ額ト爲シタルモノニシテ既ニ許可ヲ受ケ現ニ相當ノ稅額ヲ納付シアル部分迄ヲ算定ノ標準ト爲スヘキモノニアラサルコト論ヲ俟タヌ本案ニ於ケル被告ノ行爲ハ假ニ違法ナリトスルモ清酒三石六斗ハ現ニ納稅シアル査定濟ノモノニシテ結局許可ヲ受ケサル部分ハ僅ニ四斗ニ不過然ルニ四石ヲ密造シタリトシテ判決シタルハ違法ナリト云フニ在リ○依テ按スルニ荷モ免許ヲ得シテ竊ニ酒精含有飲料ヲ製造スルニ於テハ酒精及酒精含有飲料稅法第十五條同第二條ニ從ヒ處斷スヘキモノニシテ其如何ナル資料即チ納稅濟ノ清酒又ハ酒精ヲ用キルト其他ノモノヲ用キルトハ同法ノ間ハサル所ナリ故ニ原院ニ於テ被告カ免許ヲ得シテ清酒三石六斗酒精一升水三斗九升ヲ用キテ酒精ノ容量十度五分乃至十一度七分ノ酒精含有飲料四石ヲ製造シタル事實ヲ認メ之ニ對シ同法第十五條第二條ヲ適用シ罰金三百二十圓ニ處シタルハ其當ヲ得タルモノニシテ本論旨ハ其理由ナシ

○關稅法ハ其第十五條ニ處シタルハ其當ヲ得タルモノニシテ本論旨ハ其理由ナシ

○間稅官吏カ證據物件トシテ差押ヲ爲シタル以上ハ假令差押調書ノ作成ヲ了セサル前ト雖モ其物件ノ占有ハ該官吏ニ移轉シタルモノトス從テ其物件ハ官吏ノ看守ニ係ルモノトス

(明治三十六年五月二十六日)

上告趣意書ノ第一ハ原判決ニ據レハ上告人ノ所有ニシテ稅務屬ノ差押ヘタル帳簿ヲ竊取シタリト云フニ在レトモ該帳簿ハ果シテ差押中ノ物件ナルヤ否ハ必要ノ論點ナリトス而シテ間接國稅犯則者處分法第九條ニハ「間稅官吏證據集取ノ處分ヲ爲シタルトキハ自ラ其調書ヲ作リ之ヲ本人ニ讀聞カセ本人ト共ニ署名捺印スヘシ」トアリ蓋シ本人ヲシテ適法ニ承諾セシメタルノ證據ヲ備フルヲ要スルモノナルヘシ此ノ手續完了スル迄ハ之ヲ拒ムヘキ適法ノ理由アルヤ否ヲ知ルヘカラス故ニ此ノ手續ヲ完了シテ後始メテ差押成立シ隨テ其物件ハ差押者ノ占有ニ移ルモノナリ未タ其手續ヲ了セス隨テ差押ノ未タ適法ニ成立セサル間ニ其占有ハ未タ稅務屬ニ移ラス隨テ其看守ニ係ラサルモノナリ故ニ假ニ之ヲ竊取シタルノ所爲アリトスルモ原院ノ適用シタル刑法第三百七十一條ニ所謂「官署ノ命令ニ因リ他人ノ看守シタル時」トアルニ該當スヘカラサルナリ而シテ原判決ノ援用シタル上告人ノ聽取書及ヒ下村稅務屬ノ告發書並ニ聽取書ニ據レハ未タ右等ノ手續ヲ爲シ居ラサルコト明瞭ナルニ付宜シク其實事ヲ揭ケ尙且ツ差押ヲ了シタルモノナリトノ理由ヲ示スニアラサレハ果シテ差押物件ナルヤヲ認ムルコト能ハサルニ拘ハラス原判決ニハ單ニ「證據物件トシテ差押ヘラレタル云々ノ帳簿」トノミ揭ケ其果シテ差押ヲ了シタルモノナルコトヲ認メ得ヘキ理由ヲ示サ、ルハ必要ノ理由ヲ付セサルモノナリ若シ又原判決ノ事實記載ニシテ相當ナリトスレハ之ニ反シ差押手續ハ未了ナ

ル事實ノ記載アル上告人及下村ノ調書ヲ證據トシテ援用シタルハ理由ニ離離アルモノナリト云フニ在レトモ○間稅官吏カ證據集取ノ處分ヲ爲シタル場合ニ其調書ヲ作成スルハ畢竟其處分ヲ爲シタルコトヲ證明スルカ爲メニ外ナラザレハ本件ノ如ク稅務屬カ既ニ證據物件トシテ差押ヲ爲シタル以上ハ假令ヒ其調書ハ未タ作成シテラサル前ガリトスルモ其物件ノ占有ハ業ニ已ニ該官吏ニ移轉シ該官吏ノ看守ニ係ルモノタルコト論ヲ俟タサルニ依リ論旨ハ上告ノ理由トナラス

○間稅官吏ニ對シテ其證據集取ノ處分ヲ爲シタル場合ニ其調書ヲ作成スルハ畢竟其處分ヲ爲シタルコトヲ證明スルカ爲メニ外ナラザレハ本件ノ如ク稅務屬カ既ニ證據物件トシテ差押ヲ爲シタル以上ハ假令ヒ其調書ハ未タ作成シテラサル前ガリトスルモ其物件ノ占有ハ業ニ已ニ該官吏ニ移轉シ該官吏ノ看守ニ係ルモノタルコト論ヲ俟タサルニ依リ論旨ハ上告ノ理由トナラス

○間稅官吏ニ對シテ其證據集取ノ處分ヲ爲シタル場合ニ其調書ヲ作成スルハ畢竟其處分ヲ爲シタルコトヲ證明スルカ爲メニ外ナラザレハ本件ノ如ク稅務屬カ既ニ證據物件トシテ差押ヲ爲シタル以上ハ假令ヒ其調書ハ未タ作成シテラサル前ガリトスルモ其物件ノ占有ハ業ニ已ニ該官吏ニ移轉シ該官吏ノ看守ニ係ルモノタルコト論ヲ俟タサルニ依リ論旨ハ上告ノ理由トナラス

○間接國稅犯則者ニ對スル尋問ニ付テハ時間ヲ制限アルコトナル

上告趣意第三ハ原院ノ證據ニ援用シタル稅務屬白土千代藏ヲ作成シタル臨檢顛末書ノ前段ニハ「家宅搜索中彦太郎立會ヲ爲シタリ」又其後段ニ「午後三時ヨリ始マリ午後七時ニ終了」ト記載アリ然ラハ右臨檢搜索處分ハ日没後ノ違法行爲ニシテ無効タルヲ免レス然ルニ原院カ漫然之ヲ證據ニ供シタルハ失當ナリト云フニ在レトモ○間接國稅犯則者處分法第五條ニハ間稅官吏家宅搜索及物件差押ヲ爲スハ日出ヨリ日没マテノ間ニ限ルヘシトアリテ犯則者ニ對スル訊問ニ付テハ此時間ノ制限アルコトナシ而シテ所論ノ臨檢顛末書ヲ查閱スルニ家宅搜索及帳簿ノ差押ハ四月十七日午後四時ニ終了シタル旨ヲ記載アリテ午後比時ニ終了シタルハ齋藤彦太郎ニ對スル訊問ナレハ右臨檢處分ニ付所論ノ如キ違法ノ點ナク從テ其顛末書ハ有効ナルヲ以テ之ヲ援用シタル原判決ハ不法ニ非ス

○骨牌製造ノ免許ヲ受ケタル者カ自己ノ製造シタル骨牌ヲ販賣スルニ非スシテ他人ノ製造シタル骨牌ヲ販賣セムトスルニハ特ニ販賣ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス(明治三十六年六月十九日)

上告趣意第二點ハ原判決ハ被告カ骨牌製造免許ヲ得タルモノナルヲ認メナカラ販賣免許ヲ得サルモノナリト認メ處罰シタルハ不法ナリ蓋シ製造スルノミニテ少シモ販賣セサルトキハ營業人ハ何ヲ以テ營業ヲ維持スルヲ得ンヤ故ニ製造免許ヲ有スルモノハ自カラ販賣ヲ許サレタルモノニシテ特ニ販賣ノ免許ヲ受クルノ必要ナシ然ルニ原判決ハ被告カ販賣免許ヲ有セサルヲ理由トシテ處罰セシハ不法ナリト云フニ在リ○依テ按スルニ骨牌製造ノ免許ヲ受ケタルモノハ此一事ノミヲ以テ自己ノ製造スル骨牌ヲ販賣スルコトヲ得ヘク是カ爲メ特ニ販賣ノ免許ヲ受クルノ必要ナカルヘキハ敢テ論ヲ俟タサル所ニシテ此場合ニ於テハ骨牌ノ販賣ハ骨牌製造ノ免許中ニ當然包含セラル、モノト謂ハサルヘカラス然レトモ骨牌製造ノ免許ヲ受ケタル者カ自己ノ製造シタル骨牌ヲ販賣スルニ非スシテ他人ノ製造シタル骨牌ヲ販賣セムトスルニハ特ニ販賣ノ免許ヲ受クルコトヲ要シ製造ノ免許ヲ受ケタルノミヲ以テ販賣ノ免許ヲ得タルモノト謂フコトヲ得ス何トナレハ骨牌製造ノ免許ハ單ニ自己ノ製造シタル骨牌ヲ販賣スルノ免許ヲ伴フニ止マリ他人ノ製造シタル骨牌ヲ販賣スルノ免許ヲ伴フモノニアラサルハ其免許ノ性質上毫モ疑ヲ容レサルヲ以テナリ而シテ骨牌稅法施行前他人ノ製造ニ係ル骨牌ヲ販賣ノ爲メニ買入レ同法施行後ニ之ヲ持越シタルモノハ同法第二十四條ニ從ヒ同法施行ノ日ヨリ七日内ニ同法第一條ニ準シ政府ニ申告スルニ於テハ同法施行ノ日ヨリ販賣ノ免許ヲ受ケタルモノト看做サル、ヲ以テ其骨牌ヲ販賣用ノ爲メニ所持スルコトヲ得ヘシト雖モ此手續ヲ爲サ

、ルニ於テハ其骨牌ハ之ヲ所持スルコトヲ得ス之ヲ廢棄スルコトヲ要スルハ第二十四條第二項ニ規定スル所ニシテ之ヲ廢棄セサルニ於テハ同第三項ニ從ヒ三百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其骨牌ハ之ヲ沒收スヘキモノトス而シテ原判文ヲ閱スルニ被告ハ骨牌稅法施行前ヨリ骨牌ノ製造及販賣ヲ營業トシ引續キ製造免許ヲ受ケタルモ別ニ販賣ノ免許ヲ受ケサリシモノニシテ同法施行前販賣ノ目的ヲ以テ買入レタル桑原福藏ノ製造ニ係ル天正骨牌二十三組ヲ同法施行後ニ持越シ之ヲ廢棄セスシテ所持シ居タル事實ナレハ原院カ被告ニ對シテ骨牌稅法第二十四條ヲ適用處斷シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ理由ナシ

○間接國稅犯則者處分法第三條ハ犯則者及ヒ其以外ノ人ニ對スル收稅官吏ノ尋問ニ付何等ノ制限條件ヲ設クルコトナシ從テ其尋問ハ一ニ犯罪搜查ノ權アル收稅官吏ノ機宜ノ處分ニ任シタルモノトス (明治三十六年七月三日)

上告趣意書ハ原院カ證據トシテ舉示シタル明治三十四年七月十七日附稅務屬太田代謹郎ノ作リタル今野丹十郎ノ尋問顛末書ハ法則ニ違背シタル無効ノ調書ナリ何トナレハ間接國稅犯則者處分法第六條ニ間稅官吏臨檢ヲ爲スニ際シ犯則者及證人ノ陳述ヲ聞クコトヲ必要トスルトキハ之ヲ尋問スルコトヲ得トアルヲ以テ臨檢ノ際ニアラサレハ該官吏ハ證人尋問ノ職權ヲ有セス然ルニ右今野丹十郎ノ調書ハ其冒頭ニ示セル如ク日附モ場所モ臨檢ニ關係ナキヲ以テ全ク法則ニ遵據セサル職權外ノ作成ナリ然ルニ原院カ此無効ノ調書ニ依リ判決シタルハ違法ナリト云フニ在リ○然レトモ明治三十三年法律第六十七號間接國稅犯則者處分法第三條ニ「收稅官吏ハ犯則事實ヲ證明スルカ爲メ必要ト認ムルトキハ犯則嫌疑者又ハ參考人ヲ尋問スルコトヲ得」トアリテ法律ハ犯則者及其以外ノ人ニ對スル收稅官吏ノ尋問ニ付キ何等ノ制限條件ヲ設ケス一ニ犯罪搜查ノ任アル收稅官吏ノ機宜ノ處分ニ任シタルモノナルコトヲ知り得ハシ而シテ被告ノ援用セル間接國稅犯則者處分法ハ明治二十三年發布ノモノニ係リ其後ニ至リ前記明治三十三年法律第六十七號ノ發布ト共ニ廢止セラレ且ツ後ノ法律ニ依リ犯罪搜查ニ關スル收稅官吏ノ權限ハ前示ノ如ク擴張セラルニ至リタルモノナリ(中略)原院カ之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ理由ナシ

○間接國稅犯則者ニ對スル告發ハ收稅官吏カ間接國稅犯則者處分法ノ規定ニ從ヒ爲スヘキモノニシテ刑事訴訟法ノ規定ニ依ルヘキ限ニアラス而シテ同法ニハ告發書ニ其作成ノ場所ヲ記載スヘキコトヲ命セサルヲ以テ其記載ナキモ不法ニ非ス

○間接國稅犯則者處分法施行規則第十二條ニハ「犯則事件ノ調査及處分ニ關スル書類ニハ每葉契印スヘシ」トノ規定アルモ無効ノ制裁ナキヲ以テ右規定ニ違背シタリトテ其書類ハ當然無効ナリト云フヲ得ス (明治三十六年九月二十二日)

辯護人高木益太郎ノ第一上告辯明書(二)ハ稅務屬森川明太郎ノ作成シタル告發書ヲ見ルニ其作成ノ場所ノ記載ナク結局無効ニシテ本件公訴ハ受理スヘカラサルモノナリ何トナレハ本件ノ如キ間接國稅犯ニアリテハ當該官吏ノ告發ヲ以テ起訴ノ要件トナスハ間接國稅犯則者處分法第十三條以下ノ規定ニ徵シテ明ナリ而シテ收稅官吏タル稅務屬ノ作成スヘキ告發書モ刑事訴訟法第二十條ニ遵由セサルヘカラサルコトハ同法第五十二條ニヨリ更ニ疑ヲ容ル、ノ餘地ナシ夫レ然リ然ラハ其告發書ニシテ無効タル以上ハ起訴ノ要件ヲ欠缺セル筋合ニシテ當然公訴不受理ヲ言渡スヘキモノナルニ原判決ノ玆ニ出テサルハ失當ナリト云フニ在レトモ○本件ノ如キ間接國稅ニ對スル告發ハ收稅官吏カ間接國稅犯則者處分法ノ規定ニ從ヒ爲スヘキモノニシテ刑事訴訟法ノ規定ニ依ルヘキ限ニアラス而シテ間接國稅犯則者處分法ニハ告發書ニ作成ノ場所ヲ記載スヘキコトヲ命セサルヲ以テ其記載ナシトテ之ヲ不法ト論スルヲ得ス」同第二上告辯明書(一)ハ稅務屬伊藤直次郎カ長根長五郎ノ供述ヲ錄取セシ顛末書ヲ見ルニ(第一)第六枚目ト七枚目トノ間ニ伊藤稅務屬ノ契印ヲ欠如セシ事跡アリ而シテ間接國稅犯則者

處分法施行規則第十二條ニ「犯則事件ノ調査及處分ニ關スル書類ニハ每葉契印スヘシ」トノ規定アルニ拘ハラス右書類ニ契印ヲ缺キタル以上ハ其無効ナルヤ論ヲ須ヒスト云フニ在レトモ○右施行規則第十二條ノ規定ハ刑事訴訟法第二十條ノ如ク無効ノ制裁アルニ非サレハ右規定ニ違背シタリトテ其書類ハ當然無効ナリト云フヘカラス故ニ其書類ノ正確ナルヤ否ヲ判斷シテ之ヲ取捨スルハ原院ノ職權ニ存スルヲ以テ本論旨ハ其理由ナシ

○葉煙草專賣法第二十一條第一項ニ「葉煙草ノ讓渡ヲ受ケタルトキ云々」トアル其讓渡ナル語辭ハ廣ク賣買交換其他所有權ヲ移轉スヘキ方法ヲ指稱シタルモノトス從テ若シ營利ノ目的ヲ以テ葉煙草ヲ買受ケタル者ヲ處罰スヘキ特別ノ規定ナカラムニハ該犯人ニ對シテモ同條項ノ規定ヲ適用スヘキモノナリト雖モ同法第二十一條ノ二ニ該犯人ヲ處罰スヘキ特別ノ規定アル以上ハ該犯人ニ對シテハ第二十一條第一項ノ規定ハ之ヲ適用スルヲ得サルモノトス（明治三十六年九月二十二日）

○葉煙草專賣法第二十一條第一項ニ「葉煙草ノ讓渡ヲ受ケタルコトヲ得サルモノナルニ他ニ賣捌ク目的ヲ以テ數ヶ所ヨリ葉煙草ヲ買受タル事實ヲ認メナカラ葉煙草專賣法第二十一條ノ二ニ問擬セス却テ同條第一項ヲ適用シタリ之カ説明ニ曰ク被告ノ所爲ハ賣捌ノ目的ヲ以テ買收シタルモノナルモ未タ賣却スルニ至ラザリシモノナレハ既ニ賣買ヲ爲シタルモノト謂フヲ得ス正ニ葉煙草ノ讓渡ヲ受ケタルコトヲ得サルモノ葉煙草ノ讓渡ヲ受ケタルモノニ該當スト抑モ葉煙草專賣法第二十一條第一項ニ所謂讓渡ヲ受ケタル者トハ賣買其他ノ方法ニヨリ葉煙草ヲ取得シタルモノヲ總稱スト雖モ免許ヲ受ケスシテ葉煙草ノ仲買ヲ爲シタル者ニ關シテハ同條ノ二（明治三十四年四月改正）ニ特別ノ規定ヲ設ケ之ヲ第一項ヨリ除外シタルニ外ナラス故ニ讓渡ヲ受ケタルコトヲ得サル者讓渡ヲ受ケタルモノト免許ヲ受ケスシテ賣買ヲ爲シタルモノトノ區別ハ營利ノ目的ヲ以テ他ニ轉賣スル意思ニ出テタルト否トニ存スルノミ苟モ讓渡ヲ受ケタルコトヲ得サル者即チ葉煙草專賣ノ免許ヲ受ケサル者カ他ニ賣捌クノ目的ヲ以テ葉煙草ヲ買收セムカ明ニ無免許賣買ノ行爲ヲ爲シタルモノニシテ之ヲ他ニ轉賣シタル事實ノ

長崎控訴院檢察長上告趣意書ハ原院ハ被告カ葉煙草ノ讓渡ヲ受ケタルコトヲ得サルモノナルニ他ニ賣捌ク目的ヲ以テ數ヶ所ヨリ葉煙草ヲ買受タル事實ヲ認メナカラ葉煙草專賣法第二十一條ノ二ニ問擬セス却テ同條第一項ヲ適用シタリ之カ説明ニ曰ク被告ノ所爲ハ賣捌ノ目的ヲ以テ買收シタルモノナルモ未タ賣却スルニ至ラザリシモノナレハ既ニ賣買ヲ爲シタルモノト謂フヲ得ス正ニ葉煙草ノ讓渡ヲ受ケタルコトヲ得サルモノ葉煙草ノ讓渡ヲ受ケタルモノニ該當スト抑モ葉煙草專賣法第二十一條第一項ニ所謂讓渡ヲ受ケタル者トハ賣買其他ノ方法ニヨリ葉煙草ヲ取得シタルモノヲ總稱スト雖モ免許ヲ受ケスシテ葉煙草ノ仲買ヲ爲シタル者ニ關シテハ同條ノ二（明治三十四年四月改正）ニ特別ノ規定ヲ設ケ之ヲ第一項ヨリ除外シタルニ外ナラス故ニ讓渡ヲ受ケタルコトヲ得サル者讓渡ヲ受ケタルモノト免許ヲ受ケスシテ賣買ヲ爲シタルモノトノ區別ハ營利ノ目的ヲ以テ他ニ轉賣スル意思ニ出テタルト否トニ存スルノミ苟モ讓渡ヲ受ケタルコトヲ得サル者即チ葉煙草專賣ノ免許ヲ受ケサル者カ他ニ賣捌クノ目的ヲ以テ葉煙草ヲ買收セムカ明ニ無免許賣買ノ行爲ヲ爲シタルモノニシテ之ヲ他ニ轉賣シタル事實ノ

有無ニ關セス當然同條ノ二ニ問擬セサルヘカラス然ルニ原院ハ同項ニ賣買ナル文字ノアルカ
 爲メニ賣ルノ行爲ト買フノ行爲ト併立スルヲ必要ナリトシ單ニ他ニ賣捌ク目的ヲ以テ買收シ
 タルノミニテハ未タ同項ノ犯罪カ成立スルニ至ラサルモノトシ同條第一項ヲ適用シタルハ法
 則ヲ不當ニ適用シタル裁判ニシテ破毀スヘキ瑕瑾アルモノト認ムト云フニ在リ○因テ按スル
 ニ葉煙草專賣法第二十一條第一項ニハ「云々葉煙草ノ讓渡ヲ受ケタル者ハ云々」トアリテ其
 讓渡ナル語辭ハ廣ク賣買交換其他所有權ヲ移轉スヘキ方法ヲ指稱スヘキ語辭ナルカ故ニ若シ
 營利ノ目的ヲ以テ葉煙草ヲ買受ケタル者ヲ處罰スヘキ特別ノ規定ナカラムニハ該犯人ニ對シ
 テモ同條項ノ規定ヲ適用セサルヘカラスト雖モ同法第二十一條ノ二ニ該犯人ヲ處罰スヘキ特
 別ノ規定アルヲ以テ該犯人ニ對シテハ第二十一條第一項ノ規定ハ之ヲ適用スルコトヲ得サル
 モノトス蓋シ第二十一條ノ二ニハ「免許ヲ受ケスシテ云々葉煙草ヲ賣買シタル者ハ云々」ト
 アルヲ以テ假令營利ノ目的ニ出テタリトスルモ葉煙草ヲ買受ケタルノミニシテ未タ他人ニ之
 ヲ賣渡サ、ル者ニ對シテハ同條項ノ規定ヲ適用スルコトヲ得サルカ如シト雖モ同條項ニ「免
 許ヲ受ケスシテ云々葉煙草ヲ賣買シタル者ハ云々」トアルハ即チ葉煙草賣買ヲ業トスル官ノ
 免許ヲ受ケスシテ營利ノ爲メ葉煙草賣買營業ノ業務ニ屬スヘキ事項ヲ爲シタル者即チ葉煙草
 ノ仲買販賣等ヲ爲シタル者ヲ處罰スルノ趣旨ニシテ同條項ニ元ト葉煙草賣買ヲ業トシタルモ
 ノトアリシヲ葉煙草賣買ヲ爲シタル者ト改正シタルハ營利ノ目的ヲ以テ葉煙草ノ賣買ニ從事
 シタル者ト雖モ其行爲カ一回ノミニナルトキハ未タ葉煙草賣買ノ業ヲ爲シタリト云メテ得サル
 ○如キ嫌アルヲ以テ尙モ營利ノ爲メ其賣買ニ從事シタルトキハ假令其行爲ハ一回ノミニナルモ

之ヲ罰スヘキモノナルコトヲ明ニスル爲メ之ヲ改正シタルノ趣旨ニ外ナラス而シテ營利ノ爲
 メニスル葉煙草賣買ノ業務ハ葉煙草ヲ他人ニ賣渡サ、レハ成立セサルモノニハアラス即チ未
 タ葉煙草ヲ他人ニ賣渡スニ至ラスト雖モ苟モ他ヘ賣捌クノ目的ヲ以テ葉煙草ヲ買受ケタルト
 キハ其行爲ハ即チ葉煙草賣買營業者ノ業務ニ屬スヘキ事項ヲ爲シタルモノナレハ葉煙草賣買
 ノ業務ヲ爲シタルモノト云ハサルヘカラサルノミナラス第二十一條ノ二ノ末段ニ「其犯罪ニ
 係ル葉煙草云々ノ現存スルトキハ之ヲ沒收シ既ニ云々消費シタルトキハ其代金ヲ追徴ス」ト
 アル所ヲ見レハ右ハ葉煙草ヲ賣渡シタルモノ、ミヲ罰スルノ趣旨ニハアラスシテ葉煙草ヲ賣
 渡シタル者ハ勿論未タ他人ニ賣渡スニ至ラスト雖モ苟モ他ヘ賣捌クノ目的ヲ以テ葉煙草ヲ買
 受ケタルモノヲモ罰スルノ趣旨ナルコトハ明ナリトス何トナレハ若シ買受ケタル葉煙草ヲ他
 人ニ賣渡サ、ル以上ハ之ヲ罰セサルモノナリトセハ未タ他人ニ賣渡サ、ス其者ノ手ニ現存シタ
 ル葉煙草ヲ沒收スルノ謂レナカルヘク又其者カ他人ニ賣渡サ、ス自ラ消費シタル葉煙草ノ代金
 ヲ追徴スルノ理由ナカルヘキヲ以テナリ是故ニ第二十一條第一項ニ所謂葉煙草ノ讓渡ヲ受ケ
 タルモノ、中ニハ賣買ニ依リ葉煙草ヲ取得シタル者ヲモ包含スルハ固ヨリ論ヲ俟タスト雖モ
 同條項ノ規定ヲ適用スルハ獨リ營利ノ目的ニアラスシテ葉煙草ヲ買受ケ又ハ其他ノ方法ニ依
 リ葉煙草ノ所有權ヲ取得シタル者ノミニ止マリ同條ノ二ニ特別ノ規定アル營利ノ爲メ葉煙草
 ヲ買受ケタル者ニ對シテハ同條第一項ノ規定ヲ適用スルノ限ニアラサルコトハ自ラ明ナリ而
 シテ原判決ノ認ムル所ニ依レハ本件ハ被告ニ於テ葉煙草ノ讓渡ヲ受クルコトヲ得サル者即チ
 葉煙草賣買ヲ業トセサル者ナルニ他ヘ賣捌ク目的ヲ以テ伊勢次郎外五名ヨリ意思連續シテ葉

煙草百二十貫三百匁ヲ買受ケタル事實ニシテ被告ハ營利ノ目的ヲ以テ葉煙草ヲ買受ケタル者ナレハ其所爲ハ葉煙草專賣法第二十一條ノ二ニ該當シ同條第一項ニ該當スヘキモノナラサルニ原院カ之ヲ同條第一項ニ問擬シタルハ即チ擬律ノ錯誤ニシテ上告ハ其理由アルモノトス

○間接國稅犯則者處分法第十四條但書ノ場合ニ於テ被告ヲ資力ナキモノト認メ通告ノ手續ヲ爲サ、リシ旨ヲ供述スルカ故ニ本件ハ明治三十三年法律第六十七號間接國稅犯則者處分法第十四條ニ依リ稅務管理局長ノ告發スヘキモノトス然ルニ本件ニ於テハ稅務屬小早川寧ノ告發ノ外稅務管理局長ノ告發ナルモノナキニ拘ハラズ本件公訴ヲ受理シタルハ不法ナリト云フニ在リ○依テ記錄ヲ查スルニ本件ノ告發書ハ松山稅務署收稅官吏稅務署稅務屬小早川寧ヨリ奈良地方裁判所檢事正ニ提起シタルモノニ係ハル而シテ此告發ハ間接國稅犯則者處分法第十三條但書ノ場合ニ該當スルモノト認メタル事蹟ナキノミナラス松山稅務署長岡元徳カ第一審廷ニ於テ證人トシテノ陳述ニ被告ハ資力ナキモノト認メ通告ヲ爲スモ履行セサルモノト認メシ故通告ヲ爲サ、リシトアルニヨレハ却テ間接國稅犯則者處分法第十四條但書ノ場合ニ該當スルモノタルコトヲ認ムルニ足ル此場合ニ於テ告發ノ權限ヲ有スル者ハ稅務管理局長若ハ稅務署長ニ限ルトハ同條及明治三十五年十月勅令第二百五十五號ノ規定スル所ナルニヨリ稅務管理局長

○間接國稅犯則者處分法第十四條但書ノ場合ニ於テ告發ヲ爲スノ職權ヲ有スル者ハ稅務管理局長若ハ稅務署長ニ限ル從テ此場合ニ於テ稅務屬ノ爲シタル告發ハ無効ナリ(明治三十六年十月二十日)

(參照) 稅務管理局長ハ犯則事件ノ調査ニ依リ犯則ノ心證ヲ得タルトキハ其理由ヲ明示シ罰金若ハ科料ニ相當スル金額沒收品ニ該當スル物品徵收金ニ相當スル金額及書類送達費用並差押物件ノ運搬保管ニ要シタル費用ヲ指定ノ場所ニ納付スヘキ旨ヲ通告スヘシ但シ犯則者ニ通告ノ旨ヲ履行スル資力ナシト認ムルトキハ直チニ告發スヘシ(舊間接國稅犯則者處分法第十四條)

間接國稅犯則者處分法ニ依リ稅務管理局長ノ行フヘキ職權ハ稅務署長之ヲ行フ(明治三十五年勅令第二百五十五號)

上告趣意第三點ハ證人岡元徳ハ公判ニ於テ被告ヲ資力ナキモノト認メ通告ノ手續ヲ爲サ、リシ旨ヲ供述スルカ故ニ本件ハ明治三十三年法律第六十七號間接國稅犯則者處分法第十四條ニ依リ稅務管理局長ノ告發スヘキモノトス然ルニ本件ニ於テハ稅務屬小早川寧ノ告發ノ外稅務管理局長ノ告發ナルモノナキニ拘ハラズ本件公訴ヲ受理シタルハ不法ナリト云フニ在リ○依テ記錄ヲ查スルニ本件ノ告發書ハ松山稅務署收稅官吏稅務署稅務屬小早川寧ヨリ奈良地方裁判所檢事正ニ提起シタルモノニ係ハル而シテ此告發ハ間接國稅犯則者處分法第十三條但書ノ場合ニ該當スルモノト認メタル事蹟ナキノミナラス松山稅務署長岡元徳カ第一審廷ニ於テ證人トシテノ陳述ニ被告ハ資力ナキモノト認メ通告ヲ爲スモ履行セサルモノト認メシ故通告ヲ爲サ、リシトアルニヨレハ却テ間接國稅犯則者處分法第十四條但書ノ場合ニ該當スルモノタルコトヲ認ムルニ足ル此場合ニ於テ告發ノ權限ヲ有スル者ハ稅務管理局長若ハ稅務署長ニ限ルトハ同條及明治三十五年十月勅令第二百五十五號ノ規定スル所ナルニヨリ稅務管理局長

又ハ稅務署長ニ非サル稅務屬小早川寧ノ提起シタル前顯告發書ハ無効ナルコト論ヲ俟タス而シテ間接國稅犯則者ニ對シテハ適法ノ告發アルニ非サレハ檢事ニ於テ公訴ヲ提起スルコトヲ得サルニ依リ本件檢事ノ公訴ハ右無効ノ告發書ニ基キ提起シタル不適法ノ公訴ナリト云ハサルヘカラス故ニ刑事訴訟法第八十六條第二項ニ從ヒ公訴不受理ノ言渡ヲ爲スヘキ筈ナルニ原院カ之ヲ受理審判シタルハ不法ニシテ破毀ヲ免レサルモノトス

○關稅署長小早川寧ノ提起シタル前顯告發書ハ無効ナルコト論ヲ俟タス而シテ間接國稅犯則者ニ對シテハ適法ノ告發アルニ非サレハ檢事ニ於テ公訴ヲ提起スルコトヲ得サルニ依リ本件檢事ノ公訴ハ右無効ノ告發書ニ基キ提起シタル不適法ノ公訴ナリト云ハサルヘカラス故ニ刑事訴訟法第八十六條第二項ニ從ヒ公訴不受理ノ言渡ヲ爲スヘキ筈ナルニ原院カ之ヲ受理審判シタルハ不法ニシテ破毀ヲ免レサルモノトス

○關稅署長小早川寧ノ提起シタル前顯告發書ハ無効ナルコト論ヲ俟タス而シテ間接國稅犯則者ニ對シテハ適法ノ告發アルニ非サレハ檢事ニ於テ公訴ヲ提起スルコトヲ得サルニ依リ本件檢事ノ公訴ハ右無効ノ告發書ニ基キ提起シタル不適法ノ公訴ナリト云ハサルヘカラス故ニ刑事訴訟法第八十六條第二項ニ從ヒ公訴不受理ノ言渡ヲ爲スヘキ筈ナルニ原院カ之ヲ受理審判シタルハ不法ニシテ破毀ヲ免レサルモノトス

○數人カ共同シテ一ノ犯罪行爲ヲ行ヒタル場合ト雖モ其各自ニ對シ別々ニ刑ヲ科スヘキモノトス從テ其犯罪ノ單一ナルカ爲メ科刑モ亦單一ナリトシ共犯者全員ヲシテ單一ノ刑ニ服從セシムヘキモノニ非ス (明治三十六年十月二十三日)

上告趣意書第二點ハ假リニ原院判決ノ如ク留吉ト共謀連稅ヲ謀リタリトスルモ留吉ト連帶シテ關稅定率ノ倍ノ罰金ニ處スヘキモノニシテ各同額罰金ニ處スヘキモノニアラス何トナレハ共謀シテ一ノ關稅連稅ヲ謀リタルモノニシテ二個ノ連稅ヲ謀リタルモノニアラサレハ若シ原院判決ノ如クセハ十數人共謀シテ一ノ連稅ヲ爲シタルトキハ幾十倍ノ罰金ヲ徵セラレテ國庫ハ以外ノ收入ヲ見ルニ至ルヘシ是豈關稅法ノ法意ナラムヤ是原判決ハ法則ヲ不當ニ適用シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ○依テ按スルニ刑法第四百條ニ「二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ス」トアルヲ以テ數人カ共同シテ一ノ犯罪行爲ヲ行ヒタル場合ト雖モ其各自ニ對シテ別々ニ其刑ヲ科スヘク其犯罪ノ單一ナルカ爲メ其科刑モ亦單一ナリトシ共犯者全員ヲシテ單一ノ刑ニ服從セシムヘキモノニアラサルヤ明ナリ之ヲ換言スレハ一ノ犯罪行爲ヲ爲シタル者ニ對シテハ單獨ニテ犯罪行爲ヲ實行シタルト他人ト共同シ之ヲ分擔實行シタルトニ論ナク常ニ其犯罪ニ對スル刑罰ノ全部ヲ科スヘキモノトス (中略) 被告ノ論旨ハ其理由ナキモノトス

○燒酎ニ水蕃菽丁幾苦鹽等ヲ混和シタル所爲ハ酒精含有飲料稅法ニ違犯ス
 ○酒精及酒精含有飲料稅法第八條ニ依リ免稅ヲ受ケタル酒精及ヒ酒精含有飲料ノ原料ト雖モ其原料ヲ以テ更ニ酒精含有飲料ヲ製造シタルトキハ其飲料ノ造石數ニ對スル造石稅ハ之ヲ免除セラレタルモノニ非ス（明治三十六年十月二十七日）

上告趣意書ノ要旨第二ハ（中略）清酒濁酒味淋白酒燒酎麥酒葡萄酒實ヲ以テ製造シタル葡萄酒ト雖モ酒精ヲ原料トナシ又ハ酒精ヲ加味シテ模造スルトキハ酒精及酒精含有飲料稅法違犯トナルヘシト雖モ單ニ水或ハ酒精ニアラサル少許ノ辛甘酸味ヲ加ヘ別種ノ酒類ト成サス清酒ハ清酒燒酎ハ燒酎ナル元質ノ物品トシテ販賣スルモ酒精含有飲料稅法ノ何レノ條文ニモ抵觸セス其現ニ腐敗酒ニ或藥品ヲ加ヘ脫酸セシメテ販賣スルモ稅務署ヨリ告發セラレタルモノ嘗テ之レアルコトナシ然ルニ原判決ハ酒精及酒精含有飲料稅法第十五條及ヒ第二條ヲ適用シテ罰金百圓二十四錢ニ處スヘキモノトナシタルハ法律上罰スヘカラサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シタル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原院ノ認メタル事實ニ依レハ本件ハ被告ニ於テ酒精含有飲料製造ノ免許ヲ得スシテ燒酎八斗ニ水四斗五升蕃菽丁幾一合餘苦鹽一合二勺位ヲ加ヘ酒精容量二十度ノ酒精ヲ含有スル飲料一石二斗五升三合ヲ製造シタル事實ニシテ被告ハ燒酎ニ水蕃菽丁幾苦鹽等ヲ混合シ酒精容量二十度ノ酒精ヲ含有セル一ノ飲料ヲ製造シタルモノナレハ被告ノ所爲カ酒精及酒精含有飲料稅法第十五條及第二條ニ該當スルヤ論ナキヲ以テ本論旨ハ上告ノ理由ナシ第三點ハ假リニ萬一燒酎ニ水及酒精ニ非サル辛甘味等ヲ加ヘ燒酎トシテ販賣シタルハ酒精及酒精含有飲料稅法違犯者トナルモノトスルモ原院ノ言渡シタル判決

○燒酎八斗ニ水四斗五升蕃菽丁幾一合苦鹽一合二勺位ヲ加ヘ一石二斗五升三合ニ對スル罰金一百圓二十四錢ト爲シタルハ不當ナリ何トナレハ酒精及酒精含有飲料稅法第八條ニ同一製造場内ニ於テ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スルカ爲メ原料トシテ使用スル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ニハ造石稅ヲ課セスト規定スルヲ以テナリ故ニ四斗五升三合ニ相當スル罰金ヲ言渡スハ當然ナレトモ一石二斗五升三合ニ對スル罰金ヲ言渡シタルハ不當ナリト云フニ在リ○因テ按スルニ酒精及酒精含有飲料稅法第八條第一項ニ前記所論ノ如ク「酒精又ハ酒精含有飲料ノ原料タル酒精若ハ酒精含有飲料ニハ造石稅ヲ課セサル旨」ノ規定アリト雖モ同條第二項ニハ「前項ノ規定ニ依ラムトスル者ハ其原料用ノ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ニ付製成ノ時石數ノ檢定ヲ受クルコトヲ要ス」トアリテ其免稅ヲ受クルニハ右檢定ヲ受クルノ手續ヲ爲サ、ルヘカラサルニ被告ニ於テ其手續ヲナシタルコトハ原判決ノ認メサル所ナルノミナラス假令其免稅ヲ受ケタルモノナリトスルモ是ヲ以テ其原料ヲ以テ製造シタル酒精含有飲料ノ造石數ニ對スル造石稅ヲ免除セラレタルモノナリト云フヲ得サルモノトス故ニ原院カ被告ニ對シ其製造シタル酒精含有飲料一石二斗五升三合ニ對スル造石稅五倍ノ罰金ヲ言渡シタルハ不當ニアラス

○検査ヲ經テ石數ノ確定シタル清酒醪ニ他ノ清酒滓ヲ混和シ醪ノ量數ヲ増加シタルニ拘ハラ
ス之カ相當醪ノ検査ヲ免レタル所爲ハ酒造稅法第二十七條ニ該當ス（明治三十六年十月三十日）
上告趣意書ハ原院認定ノ事實ハ第一審及稅務署長通告書ニ載スル所ト同一ニシテ即被告ノ
代理加藤磯治郎ハ明治三十六年一月八日ニ第四號仕込桶ノ清酒醪ヲ搾リ中前ニ分界シタル清
酒滓六升ヲ混和シナカラ相當醪ノ検査ヲ免レタルモノナリト云フニ在リ右事實ハ被告モ之ヲ
認メ敢テ爭ハサル所ナリ本件所爭ノ要件ハ分界ノ清酒滓ヲ混和シタル行爲ハ稅法第二十七條
ノ違反ニ非ス然ルニ原院カ之ヲ違反ト判決シタルハ法則ヲ不當ニ適用シタル不法ノ裁判ナリ
ト確信ス其理由由左ノ如シ（一）抑酒造稅法ニ於テ清酒醪ヲ搾ルノ前ニ之レカ石數ヲ検査量定セ
シムルハ其目的那邊ニ在ル歟畢竟スルニ醪熟成ノ後其醪ヲ搾リ中之ヲ隱匿脱漏シテ造石數ヲ
詐リ以テ脱稅ヲ企ツル不法行爲ヲ防止セムトスルニ外ナラサルナリ何者搾リ中若シ醪ノ原料
ヲ脱漏セムカ搾リ上ケタル粕ト清酒ノ數量ヲ醪ノ石數ニ對比セハ忽チ其欠減ヲ發見シ得ヘケ
レハナリ夫レ如斯稅法第二十七條ハ脱稅行爲ノ防止ヲ以テ唯一ノ目的トスルニ在リトセハ本
件ノ事實ハ其目的以外ノ事項ナルカ故ニ該制裁ヲ適用スヘキノ條理ナシトス何者原院カ混和
シタリト認メタル分界（醪ヲ搾リ以テ粕ト清酒ヲ分ツ云フ）ノ清酒滓ナルモノハ分界ノ當
時業ニ已ニ受檢ヲ經テ其石數ヲ查定セシモノナレハ查定後其清酒滓ノ石數欠減（混和等ノ爲
メ）スルモ徵稅ハ先ノ查定石數ニ基クテ以テ其混和欠減ハ寸毫モ脱稅ノ結果ヲ來サス否反
テ本件清酒滓六升ハ二重ノ課稅ヲ負擔スルノ結果ヲ生スルニ於テオヤ要スルニ脱稅ノ結果ヲ
來サス反テ二重課稅ヲ負擔スヘキ本件ノ行爲ニ對シ脱稅防止ヲ唯一ノ目的トスル稅法第二十

七條ヲ適用スヘキ條理ナキコト明々瞭々實ニ一點ノ疑團ナシトス（二）制裁ノ目的ヨリ論究
スルニ前項ノ如シ況ンヤ稅法ニ所謂清酒醪ナルモノハ粕ト清酒トヲ分界セサル已前即チ蒸米
麴米水ノ三種混同包含シタルモノニ附シタル名稱ニシテ之ト名實共ニ懸隔特別ナル清酒滓ナ
ルモノニ對シ「醪」ニ限り適用スヘキ稅法第二十七條ヲ牽強スルハ當サニ法則ヲ濫用シタル
不法ノ裁判タルヤ論ヲ俟タサル所ナリト云フニ在レトモ○酒造稅法第二十七條ニ酒類製造用
ト否トヲ問ハス其製造シタル酒母又ハ醪ノ検査ヲ免レ又ハ免レムトシタル者ハ云々トアリ而
シテ原院ノ認ムル所ニ依レハ被告ハ明治三十五年度酒造仕込第四號清酒醪搾リ中竊カニ他ノ
清酒滓五升ヲ混和シタルニ拘ハラス之カ相當醪ノ検査ヲ免レタルモノト云フニ在リテ該清酒
醪ノ石數ハ已ニ検査ヲ經テ確定シタルモノナリ然ルニ之ニ他ノ清酒滓ヲ混和スレハ直チニ醪
ト一体トナリテ彼此分別スルコト能ハサル状態トナリ之カ爲メ醪ノ量數ヲ増加スルコト勿論
ナルヲ以テ此ノ増加シタル部分ニ付テハ假令清酒滓ハ已ニ検査ヲ經タルモノナリト雖モ尙重
テ之ヲ利用シ以テ更ニ醪ヲ製造シタルモノト云ハサルヘカラス左レハ之カ相當醪ノ検査ヲ受
ケサルヘカラスナルニ其検査ヲ免レタル事實ナレハ原院カ被告ノ所爲ニ對シ酒造稅法第二十七
條ヲ適用處斷シタルハ相當ニシテ本論旨ハ其理由ナシ

○一旦貼用ノ上消印ヲ施シ印紙ノ効用ヲ了リタルモノハ再ヒ印紙トシテ使用スヘカラサル紙片タルニ過キス從テ此紙片ヲ切斷シ其斷片ヲ彼此繼合シテ新ニ印紙ヲ製造シタル所爲ハ印紙ノ偽造ナリトス (明治三十六年十一月十三日)

被告ナカ上告趣意ノ第一ハ原院ハ既ニ貼用消印アル印紙ノ斷片ヲ繼合セタル所爲ヲ目シテ印紙偽造ナリト斷定シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○一旦貼用消印ヲ施シ印紙ノ効用ヲ了リタルモノハ再ヒ印紙トシテ使用スヘカラサル紙片タルニ過キス故ニ此紙片ヲ切斷シ其斷片ヲ彼此繼合セテ新ニ印紙ヲ製造セハ之ヲ以テ印紙ノ偽造ト論スヘキハ當然ナルニヨリ論旨ハ理由ナシ

○差押ハ必スシモ所持者ヨリ占有ヲ剝奪セサレバ成立セサルモノニ非ス從テ強制處分ニ因リ其差押品ノ讓與移轉ヲ禁止スルノ目的ヲ以テ相當ノ手續ヲ行ヒタルトキハ差押ハ成立スルモノトス (明治三十六年十二月一日)

上告趣旨擴張書ハ原判決ニ於テ認定セラレタル事實ハ被告カ納稅保證物ヲ提供セサリシニ因リ稅務屬カ被告製造ノ酒類ヲ差押ヘタリト云フニアリ然ルニ差押ハ占有ヲ移付セシムル強制處分ニシテ隨テ保管ハ差押者ノ占有ヲ保持スル方法ナリ然ルニ稅務官吏ハ保證物提供前ニ在テ酒類ニ施スヘキ處分ニ付酒造稅法施行規則第二十五條ニ依ルノ外何等ノ權限ヲ有セス而シテ同條ハ單ニ製造酒類ヲ檢束スル爲メノ特別處分ニシテ固ヨリ差押ト趣ヲ異ニス然ルニ稅務官吏カ原判決ノ如キ差押手續ヲナシタリトセハ其權限ニ屬セサル無効ノ處分ナルヲ以テ被告ノ所爲ハ全然罪トナラサルニ歸着スヘシ故ニ原判決ハ違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○差押ハ必スシモ所持者ヨリ占有ヲ剝奪セサレバ成立セサルモノニアラサルコトハ國稅徵收法第二十二條第二項ニ運搬ヲナスニ困難ナル物件ヲ差押ヘタルトキハ其保管ヲ滯納者ニ命スルコトヲ得トアルト民事訴訟法第五百六十六條第二項ニ略同一ノ明文アルトニ依リ明白ナリ然ラハ差押ノ成立ハ單ニ占有ノ剝奪ニアラスシテ強制處分ニ因リ讓與移轉ヲ禁止スルノ目的ヲ以テ相當ノ手續ヲ行ヒタルトキハ差押アルモノトス而シテ酒造稅法施行規則第二十五條ノ讓與消費移轉ヲ禁スルノ目的ヲ以テ相當官吏カ同條規定ノ處分ヲ爲シタル以上ハ即チ差押處分アリタルモノナルヲ以テ原判決ガ右ノ處分ヲ差押處分ナリトシテ被告ノ行爲ニ對シ刑法第七十四條及第三百九十六條ヲ適用シタルハ相當ナレハ上告ハ其理由ナキモノトス

○犯罪ノ單一ナルヤ否ヤヲ定ムルニハ犯人ノ爲シタル法益侵害ノ單一ナルヤ否ヤヲ以テ標準トス從テ犯人ノ所爲カ數箇ノ刑名ニ觸レ又ハ數回同一ノ刑名ニ觸ル、トキハ所爲ノ單一ナルト否トヲ論セス其法律違反ノ數ニ相當スル犯罪ヲ構成スヘキハ當然ナリ(明治三十七年一月二十一日)

辯護人花井卓藏上告趣意擴張書ノ第二點ハ一所爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ル、場合ハ所謂想像上ノ數罪俱發ナリ而シテ數罪俱發ノ場合ニ刑法第百條ヲ適用スルハ實體上ノ數罪俱發ノ場合ニ限ルヘキモノニシテ想像上ノ數罪俱發ノ場合ニハ素ヨリ一罪ヲ構成スルニ過キサレハ決シテ同條ヲ適用スヘキモノニ非ス原判決認定ノ事實ニ依レハ被告ハ名尾作次郎名義ノ告訴狀ヲ偽造シ該告訴狀ヲ以テ杉山伊三郎ヲ誣告シタルモノナリト云フニ在レハ告訴狀偽造行使ノ一所爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸レシ所謂想像上ノ數罪俱發ナレハ刑法第百條ヲ適用スヘキモノニ非ス然ルニ同條ヲ適用處斷シタル原判決ハ不當ニ法則ヲ適用シタル不法アルモノト信スト云ヒ」第三點ハ原院認定ノ事實ニ依ルモ被告ハ名尾作次郎名義ノ告訴狀ヲ偽造行使シタルニ過キスシテ杉山伊三郎ニ對スル誣告ハ告訴狀偽造行使ノ結果ニ外ナラサレハ二罪ヲ構成スヘキモノニ非ス然ルニ刑法第三百五十五條ヲ適用シタル原判決ハ法則ヲ不當ニ適用シタル不法アルモノト信スト云フニ在リ○依テ按スルニ一所爲カ數個ノ刑名ニ觸ル、トキハ其所爲ノ單一ナルノ點ヨリ一罪ヲ構成スヘキヤ若ハ其所爲カ數個ノ法律違反ヲ構成スルノ點ヨリ其法律違反ノ數ニ相當スル數個ノ犯罪ヲ構成スルヤ換言スレハ犯罪ノ單一ナルヤ否ヤハ一所爲ノ單一ナルヤ否ヤニ依リテ定ムヘキヤ若ハ法律違反ノ單一ナリヤ否ヤヲ標準トスヘキヤハ學者間議論ノ一致セサル所ニシテ立法例モ亦區々ニ出ツル所ナリ而シテ或立法ニ於テハ一所爲カ

數ケノ刑名ニ觸レタル場合ニ付其中ノ尤モ重キ刑名ニ從ヒ處斷スヘキ旨ノ特別規定ヲ設ケ純然タル數罪俱發ノ場合ト區別スルモ我刑法ニハ此點ニ付キ何等ノ規定ヲ設ケサルヲ以テ其所爲ハ刑法第百條ヲ適用スヘキ數個ノ犯罪ヲ構成スルヤ若ハ初ヨリ一ノ刑律ヲ適用スヘキ單一ノ犯罪ヲ構成スヘキヤハ專ラ犯罪其モノ、觀念如何ニ依リテ定マルヘキモノトス蓋シ犯罪ハ刑罰ノ制裁ヲ付シタル有責ノ不法行爲ナルヲ以テ此點ヨリ觀察スルトキハ行爲其モノヲ以テ犯罪ノ基本トシテ犯罪ノ單一ナルヤ否ヤハ其行爲ノ單一ナルヤ否ヤヲ以テ唯一ノ標準ト爲スヘキモノト論スルコトヲ得ヘキカ如シ然レトモ法律カ不法行爲ヲ爲シタルモノニ對シ犯罪人トシテ刑罰ノ制裁ヲ付スル所以ノモノハ他ナシ其行爲カ特殊ノ法益ヲ侵害スルカ爲メニシテ其行爲ヲ爲シタル犯人ヲシテ其行爲ヨリ生シタル各個ノ法益侵害ニ對シ其責ニ任セシムルモノニ外ナラス是法律カ各個ノ法益侵害ニ對シ特ニ正條ヲ設ケ之ニ固有ナル刑罰ヲ設ケル所以ニシテ各個ノ法益侵害ハ實ニ犯罪行爲ノ基本的要素ヲ形成スルモノト謂ハサルヲ得ス故ニ犯罪ノ單一ナルヤ否ヤヲ定ムルニハ犯人ノ爲シタル法益ノ侵害ノ單一ナルヤ否ヤヲ以テ標準トスヘキ犯人ノ所爲カ數個ノ刑名ニ觸レ又ハ數回同一ノ刑名ニ觸ル、ニ於テハ其所爲ノ單一ナルト否トニ論ナク其法律違反ノ數ニ相當スル犯罪ヲ構成スヘキ筋合ナリトス之ヲ換言スルトキハ犯人カ其所爲ニ因リ法律ニ罰スル結果ヲ惹起シタルトキハ其結果ニ對シ其都度犯人トシテ責任ヲ負フヘキ結果毎ニ犯罪成立シ其結果ノ異ナルニ從ヒ犯罪モ亦異ナルノ結果ヲ生スルモノトス(中略)其基本タル所爲ハ全ク單一ニシテ被告ハ別異ノ所爲ニ依リ誣告罪ト文書偽造罪トヲ犯シタルモノニアラサルコトハ所論ノ如シト雖モ其所爲カ二ケノ刑名ニ觸ル

以上刑法第百條ヲ適用シ其中ノ尤モ重キモノニ從ヒ處斷スヘキ二個ノ犯罪ヲ構成スルハ勿論認告ハ犯罪ノ性質又ハ法律ノ規定ニ依リ文書偽造罪中ニ當然包含セラルヘキモノニハアラサルヲ以テ所論ノ如ク文書偽造罪ノ結果ナリトシテ之ヲ不問ニ付スルコトヲ得ス必ラスヤ各個ノ犯罪ニ付キ別々ニ被告ノ責任ヲ問ハサルヘカラス故ニ原院カ此主旨ニ從ヒ所論ノ如ク判示シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ理由ナシ

以上刑法第百條ヲ適用シ其中ノ尤モ重キモノニ從ヒ處斷スヘキ二個ノ犯罪ヲ構成スルハ勿論認告ハ犯罪ノ性質又ハ法律ノ規定ニ依リ文書偽造罪中ニ當然包含セラルヘキモノニハアラサルヲ以テ所論ノ如ク文書偽造罪ノ結果ナリトシテ之ヲ不問ニ付スルコトヲ得ス必ラスヤ各個ノ犯罪ニ付キ別々ニ被告ノ責任ヲ問ハサルヘカラス故ニ原院カ此主旨ニ從ヒ所論ノ如ク判示シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ理由ナシ

○酒造稅法第二十二條ノ規定ハ酒類ノ製造ヲ罪トシテ禁スルノ趣旨ニ非ス唯酒類ヲ製造スルニ當リ政府ノ免許ヲ受ケサル行爲ヲ處罰スルノ精神ニ外ナラサレハ其製造ニ用キタル器械

ノ如キハ之ヲ犯罪ノ用ニ供シタル物件ト云フヲ得ス (明治三十七年二月二日)

(註) 酒造營業人川名敬治カ酒類ノ製造ヲ爲シタル事犯ナリ

宮城控訴院檢察長川目享一上告趣意ハ原判決ハ被告カ其所有ニ係ル押收ノ第一號第二號桶ヲ使用シ酒類ヲ密造シタル事實ヲ確認シナカラ之ヲ沒收セサリシハ刑法第四十三條ヲ適用セサル不法ノ判決ト思料ス(中略)ト云フニ在リ○仍テ按スルニ酒造稅法第三十一條ニハ「此稅法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用キス」トアルノミニシテ沒收例ニ付テハ之ヲ除外スルノ明文ナキノミナラス刑法ノ總則ハ特別ノ規定ナキ限りハ總テノ法律規則ニ之ヲ適用スヘキモノナレハ政府ノ免許ヲ受ケスシテ酒類ヲ製造スル爲メ用キタル器械ハ之ヲ犯罪ノ用ニ供シタル物件トシテ刑法第四十三條第二號ニ依リ沒收スヘキモノナルカ如シト雖モ酒類ヲ製造スルハ一ノ營業ニシテ之ヲ製造スルモ別ニ公ノ秩序安寧ニ害ナキヲ以テ法律上其製造ヲ禁スルノ要ナシ唯酒類ヲ製造スル者ニ對シテハ造石稅ヲ課スルヲ以テ徵稅ノ必要上酒類ヲ製造セムトスル者ニ對シ政府ノ免許ヲ受クヘキコトヲ命シ且ツ其制裁トシテ政府ノ免許ヲ受ケスシテ酒類ヲ製造シタル者ハ之ヲ處罰スヘキ旨ヲ規定シタルモノナルコトハ舊酒造稅則ニ於テハ政府ノ免許ヲ受ケスシテ酒類ヲ製造シタル者ニ對シテハ酒類ヲ沒收シ造石稅ハ之ヲ課セサリシモノナルヲ酒造稅法ニ於テハ之ヲ改正シテ酒類ハ之ヲ沒收セス其第二十二條但書ヲ以テ之ニ造石稅ヲ課スルヲ以テ見ルモ其一斑ヲ窺フニ足レリ果シテ

然ラハ酒造稅法第二十二條ノ規定ハ納稅義務ヲ有スル營業者ニシテ其届出ヲ爲サ、ル行爲ヲ罰セル營業稅法第三十四條ノ規定ト同様酒類ノ製造ヲ罪トシテ禁スルノ趣旨ニハアラスシテ唯酒類ヲ製造スルニ當リ政府ノ免許ヲ受ケサル行爲ヲ處罰スルノ精神ニ外ナラサレハ酒類ヲ製造スルニ用キタル器械ノ如キハ刑法第四十三條第二號ニ所謂犯罪ノ用ニ供シタル物件ト云フヲ得サルモノトス加之舊酒造稅則第二十九條ニハ明ニ製造器械ヲ沒收シタリ故ニ若シ新法ニ於テモ舊法ノ如ク製造器械ヲ沒收スルノ必要アリトセハ假令刑法ノ沒收例トハ重複ニ涉ル嫌アリトスルモ之ヲ沒收スルノ明文ヲ掲ケテ以テ立法ノ趣旨ヲ明ニセサルヘカラス然ルニ新法ニ其明文ナキヲ以テ見レハ法ノ精神ハ之ヲ沒收セサルニ在ルコト自ラ明ナリ是故ニ原院カ本件押收ノ四尺桶ヲ沒收セサルハ相當ニシテ本論旨ハ上告ノ理由ナシ

○酒造稅法第二十二條ノ規定ハ酒類ノ製造ニ當リ政府ノ免許ヲ受ケサル行爲ヲ處罰スルノ精神ニ外ナラサレハ酒類ヲ製造スルニ用キタル器械ノ如キハ刑法第四十三條第二號ニ所謂犯罪ノ用ニ供シタル物件ト云フヲ得サルモノトス加之舊酒造稅則第二十九條ニハ明ニ製造器械ヲ沒收シタリ故ニ若シ新法ニ於テモ舊法ノ如ク製造器械ヲ沒收スルノ必要アリトセハ假令刑法ノ沒收例トハ重複ニ涉ル嫌アリトスルモ之ヲ沒收スルノ明文ヲ掲ケテ以テ立法ノ趣旨ヲ明ニセサルヘカラス然ルニ新法ニ其明文ナキヲ以テ見レハ法ノ精神ハ之ヲ沒收セサルニ在ルコト自ラ明ナリ是故ニ原院カ本件押收ノ四尺桶ヲ沒收セサルハ相當ニシテ本論旨ハ上告ノ理由ナシ

○免許ヲ受ケスシテ清酒ト濁酒トヲ密造シタルトキハ二個ノ無免許密造罪ヲ構成ス而シテ其同一ノ場所ニ於テ同時ニ製造シタルヤ否ヤハ一罪ト數罪トノ區別ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ (明治三十七年二月十二日)

被告兩名辯護人平塚金作上告趣意ハ原判決ノ認メタル事實ニ依レハ上告人等ハ相通謀シ酒類製造區域外ニ於テ酒類製造ノ免許ヲ受ケスシテ明治三十五年十一月ヨリ明治三十六年六月迄ノ間ニ於テ濁酒一石四斗四升及清酒二十七石七斗五升三合ヲ密造シタルモノナリト云フニ在リ左スレハ右濁酒及清酒ハ共ニ日時場所ヲ同ウシテ密造シタルモノニ係ルコト明瞭ナル事實ナレハ總テ酒造稅法第二十五條ノ所謂酒類ト稱スルモノニ包含スヘキモノト解釋スルヲ以テ相當トス故ニ同法ニ於テ各別ニ之ヲ處罰スルノ明文ナキ限リハ單一罪ヲ構成スルモノトシ處罰スヘキモノナルコトハ固ヨリ論ヲ俟タサル所ナリトス然ルニ原判決ハ之ヲ二罪トシテ各別ニ罰金ヲ科シタルハ法律ノ適用ヲ誤リタル不法ノ裁判ナリト信スト云フニ在リ○依テ按スルニ酒造稅法施行規則第一條ニヨルトキハ酒類製造ノ免許ヲ得ムトスルニハ其製造スヘキ酒類ヲ定メテ申請スヘシトアリテ免許ハ其指定シタル種類ニ付テノミ與フルモノナルニ依リ酒造稅法ノ精神ハ酒類ノ各種ニ付テ免許ヲ受クルコトヲ必要トスルニ在ルコト明白ナリトス然ラハ免許ヲ受ケスシテ種類ノ異ナリタル清酒ト濁酒トヲ密造シタルトキハ二個ノ無免許密造罪ヲ構成スルハ勿論ニシテ其同一ノ場所ニ於テ同時ニ製造シタルト否トニヨリ一罪ト數罪トノ區別ニ何等ノ關係ヲ有スルモノニアラス故ニ原院カ被告等ノ清酒ト濁酒ト密造ヲ以テ二罪トシテ各別ニ罰金ヲ言渡シタルハ相當ニシテ擬律ノ錯誤アリト云フヲ得ス

○骨牌稅法第十九條ニ謂フ本法ヲ犯シタル者トハ同條ノ前後ヲ問ハス該法律所定ノ規則ニ違反シタル者ヲ指示スルモノニシテ其所謂減輕ナル文詞ニハ刑法第八十九條第九十條ノ酌量減輕ヲモ包含ス（明治三十七年五月三日）

原院檢察事長代理檢察事國分三亥上告趣意ハ原判決ハ本件ニ付犯情憫諒スヘキモノアリト爲シ刑法第八十九條第九十條ヲ適用シ骨牌稅法第二十四條第三項ノ刑ヨリ二等ヲ減輕シ處斷シタリ是明ニ同稅法第十九條ノ「本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用キス」トノ規定ニ違背シタル不法ノ判決ニシテ當然破毀セラレヘキモノナリト思料ス例ヲ用キス」トノ規定ニ違背シタル不法ノ判決ニシテ當然破毀セラレヘキモノナリト思料スト云フニ在リ○依テ按スルニ骨牌稅法第十九條ニハ「本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用キス」トアリテ而シテ其本法ヲ犯シタルモノトハ同第十九條ノ前後ヲ問ハス同法所定ノ規則ニ違反シタル者ヲ指示シタルモノナルコトハ勿論同條ニ所謂減輕ナル文詞中ニハ刑法第八十九條第九十條ノ酌量減輕ヲモ包含スルヤ論ヲ俟タサルヲ以テ骨牌稅法第二十四條ニ違反シタル被告ニ對シテハ酌量減輕ノ例ヲ用キルヲ得サルモノトス然ルニ原院カ同第二十四條ニ違反シタル被告ニ對シ酌量減輕ヲ爲シタルハ即チ擬律ノ錯誤ニシテ原判決ハ此點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノトス

○同院對其原判決ニ對シテ上告ノ趣意ハ「原院判決ハ本件ニ付犯情憫諒スヘキモノアリト爲シ刑法第八十九條第九十條ヲ適用シ骨牌稅法第二十四條第三項ノ刑ヨリ二等ヲ減輕シ處斷シタリ是明ニ同稅法第十九條ノ「本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用キス」トノ規定ニ違背シタル不法ノ判決ニシテ當然破毀セラレヘキモノナリト思料スト云フニ在リ○依テ按スルニ骨牌稅法第十九條ニハ「本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用キス」トアリテ而シテ其本法ヲ犯シタルモノトハ同第十九條ノ前後ヲ問ハス同法所定ノ規則ニ違反シタル者ヲ指示シタルモノナルコトハ勿論同條ニ所謂減輕ナル文詞中ニハ刑法第八十九條第九十條ノ酌量減輕ヲモ包含スルヤ論ヲ俟タサルヲ以テ骨牌稅法第二十四條ニ違反シタル被告ニ對シテハ酌量減輕ノ例ヲ用キルヲ得サルモノトス然ルニ原院カ同第二十四條ニ違反シタル被告ニ對シ酌量減輕ヲ爲シタルハ即チ擬律ノ錯誤ニシテ原判決ハ此點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノトス

○臨檢調書ハ檢證ノ場所ニ於テ直チニ之ヲ作成スヘシトノ規定ナケレハ現場ニ於テ作成スルト他ノ場所ニ於テ作成スルトハ一ニ當時ノ便宜ニ依ルコトヲ得（明治三十七年五月二十七日）

被告四名辯護人高木益太郎辯明書四ハ若シ檢證調書ヲ檢證ノ場所以外ニ於テ作成スルヲ得ヘシトセムカ或ハ被告ニ利益不利益ノ景狀ヲ遺脱シ又ハ檢證ノ實況ト齟齬スル記載ヲ爲ス虞アレハナリ故ニ該調書ハ必ス檢證ノ現場ニ於テ之ヲ作成スルコトヲ要ス此法則ハ常ニ學者ノ認メタルニ止ラス御院明治三十七年第二十六號同年三月十五日言渡ノ毆打致死上告事件ニ付「抑モ檢證調書ハ現場ノ模様ヲ錄取シ現場ニ於テ之ヲ作り又現場ニ於テ立會人ニ讀聞署名捺印セシメサルヘカラサレハナリ」トノ判示ニ徵スルモ正當ノ解釋タルコト疑ヲ容レス然ルニ本件豫審判事ノ檢證調書ヲ閱スルニ兇行ノ現場タル大寺家ニ於テ檢證ヲ了シタル旨（同調書中「茲ニ於テ現場ノ檢證ヲ了シ」トノ記載論據）記載アルニ不拘同所ニ於テ調書ヲ完成セス現場以外大阪府西警察署ニ於テ之ヲ調製シタルハ不適法ノ舉措ニシテ即チ該調書ハ無効ノ書類ナリト云ハサルヲ得ス故ニ之ヲ罪證ニ供セシ原裁判ハ採證ノ法則ニ違反セリト云フニ在リ○然レトモ臨檢調書ハ上告所論ノ如ク檢證場所ノ景狀ヲ錄取スヘキモノナレトモ其場所ニ於テ直チニ調書ヲ作成スヘキノ規定アルコトナシ現場ニ於テ作成スルト他ノ場所ニ於テ作成スルトハ一ニ當時ノ便宜ニ依ルヲ得ヘシ故ニ本件檢證場所ハ兇行ノ現場タル大寺家ニシテ其調書ハ大阪府西警察署ニ於テ作成シタリトスルモ不法アルコトナシ况ンヤ本件ノ臨檢調書ハ檢證ノ現場ニ於テ其關係部分ヲ作成シ引續キ警察署ニ於テ之ヲ完成シタルモノナルニ於テオヤ本論旨ハ其理由ナシ

○免許ヲ受ケスシテ酒精ヲ含有スル一ノ飲料ヲ製造シタル以上ハ其原料ノ燒酎ナルト酒精ナルト其他ノ物品ナルトヲ問ハス酒精及酒精含有飲料稅法第十五條第二條ノ犯罪ヲ構成ス
 ○收稅官吏カ酒精及酒精含有飲料稅法第十四條ニ依リ稅務監督局技手ニ鑑定ヲ爲サシムルハ不法ニ非ス (明治三十七年五月二十四日)

被告ノ上告趣意第一點ハ原院カ認メタル本案ノ事實ハ被告ハ泡盛ト稱スル燒酎三斗八升餘ニ雙目糖(砂糖)一貫五百匁ノ割合ヲ以テ混和シタル酒精含有ノ飲料合計百四石五斗三升五合ヲ製造シタルト云フニ在リテ原院ハ之ヲ酒精及酒精含有飲料稅法ニ違犯セルモノトナシ同法第十五條ヲ適用シ處罰シタルモ按スルニ泡盛ハ原院カ認ムル如ク燒酎ノ一種ニシテ酒精及酒精含有飲料稅法第四條ニハ……燒酎ニハ……本法ヲ適用セストアリテ燒酎ハ同法ノ適用ヲ受クヘキモノニ非サルコトヲ明示セルノミナラス同法ノ沿革ヲ考フルニ明治二十九年三月公布ノ酒造稅法ニ依レハ其第一條ニ此稅法ニ於テ酒類ト稱スルハ清酒濁酒白酒味淋燒酎酒精ノ六種トストアリテ酒精ヲ酒類ノ内ニ加ヘ同一ノ酒造稅法ヲ以テ支配セシモ明治三十四年三月ニ至リ酒造稅法第一條ヲ改正シテ酒精ヲ酒類ノ内ヨリ除去シ同時ニ之ニ代ルヘキ現行酒精及酒精含有飲料稅法ヲ制定發布シタル所ヨリ視レハ同法ハ專ラ酒精ニ關スル規定ナルコトヲ推知シ得ヘク隨テ同法ニ所謂酒精ヲ含有スル飲料トハ酒精ト他ノ酒類又ハ其他ノ物品ヲ混和製造シタル飲料ヲ指示セルモノト解釋セサルヲ得ス故ニ被告カ酒精ニアラサル泡盛即チ燒酎ニ砂糖ヲ混シ飲料ヲ製造スルモ同法ニ抵觸スル理由ナシ然ルヲ原院カ同法第十五條ニ該當スルモノト爲シ罰金ニ處シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云ヒ」其第二點ハ假ニ酒精及酒精含有飲料稅

法ヲ汎博ニ解釋シ所謂酒精ヲ含有スル飲料トハ酒精ト他ノ酒類又ハ其他ノ物品トヲ混和セルモノニ限ルヘキニ非スシテ酒類ト他ノ酒類又ハ物品トヲ混和スル場合ヲ包含スルモノナリト爲スモ本案ノ如キ燒酎ニ砂糖ヲ混和セルニ過キサレ極メテ單純ナル場合ハ敢テ同法ノ支配スル所ニアラサルヘシ何トナレハ同法ノ酒精ヲ含有スル飲料トハ一ノ酒類ニ他ノ酒類又ハ其他ノ物品ヲ混和セル爲メ其酒類固有ノ性質ヲ變更シ全然特殊ノ飲料ト認メ得ヘキ程度ニ達シタルモノナラサルヘカラス然ルニ本案ハ單ニ泡盛ト稱スル燒酎ニ砂糖ヲ加ヘ之ニ甘味ヲ帶ヒシメタルニ止リ其物ノ性質ハ少シモ變スルコトナク依然タル泡盛ニ過キサレハナリ若シ之ニ反シ本案ノ場合ヲモ尙ホ同法ニ依リ處分スヘキモノトセムカ例ヘハ酒類販賣商カ清酒ニ水ヲ混和シ又ハ甲者製造ノ酒類ニ乙者製造ノ酒類ヲ混和スルモ尙ホ同法ニ問ハサルヲ得ス吾人カ晚酌ノ燒酎ニ偶々砂糖ヲ混シテ之ヲ傾ケハ直ニ同法ニ依リ處罰セサルヘカラサルニ至ラム豈是レ立法ノ精神ナラムヤ殊ニ燒酎其他ノ酒類ニハ往々其製造原料ニ特殊ノ物品ヲ用キ異味又ハ着色ヲ爲スコトアリ例ヘハ(一)泡盛ノ如キ宮古島ニ産スル粟ヲ煎リテ之ニ浸シ以テ茶色の着色ヲ爲シ(二)沖繩及鹿兒島縣大島ニ於テハ燒酎ヲ製造スルニ甘味ヲ帶ヒシムル爲メ砂糖又ハ甘藷ヲ混シテ醪ヲ造ルコトアリ(三)熊本地方ニ行ハル、白酒ノ如キモ亦其原料ニ普通用キサル砂糖ヲ混和シテ甘味ヲ増サシムルコトアリ然レトモ此等ノ場合ニ於テ從來一モ同法ノ違犯者トシテ處罰セラレタルヲ聞カス之ニ依リテ觀ルモ本案ノ事實カ同法ノ問擬スヘキ所ニアラサルヤ明ナリト云フニ在レトモ○原判決ノ認メタル事實ニ依レハ本件ハ被告ニ於テ酒精含有製造ノ免許ヲ得スシテ燒酎三斗八升餘ニ雙目糖一貫五百匁ノ割合ヲ以テ混和シ原容

量百分中純酒精容量二十九ヲ有スル酒精含有飲料百四石五斗三升五合ヲ製造シタルモノニシテ被告ハ燒酎ト雙目糖トヲ混和シ酒精ヲ含有スル一ノ飲料ヲ製造シタルモノナリ而シテ右ノ如ク酒精ヲ含有スル一ノ飲料ヲ製造シタル以上ハ其原料カ燒酎ナルト酒精ナルト其他ノ物品ナルトヲ問ハス酒精及酒精含有飲料稅法第十五條第二條ノ犯罪ヲ構成スルハ勿論同法第四條ニハ「清酒濁酒味淋燒酎云々ニハ本法ヲ適用セストアリト雖モ右ハ製造人カ製造シタルモノカ清酒濁酒白酒味淋燒酎等ノ場合ニ於テハ同法ノ規定ヲ適用セストノ趣旨ニシテ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル爲メ清酒濁酒白酒味淋燒酎ヲ用キタル場合ニ於テハ同法ノ規定ヲ適用セストノ趣旨ナラサルコトハ明白ナレハ清酒濁酒白酒味淋燒酎等ヲ以テ製造シタル飲料ニシテ苟モ酒精ヲ含有スル以上ハ同法ノ規定ニ從フヘキハ當然ノコトナルヲ以テ右論旨ハ凡テ上告ノ理由ナシ」辯護人高木益太郎辯明書ノ一七）本件記録中横濱稅務監督局技手日根野弘勝ノ鑑定書ナルモノハ固ヨリ刑事訴訟法ノ規定セシ鑑定人ニ關スル方式ヲ踐行シテ作成シタル書類ニ非ス又間接國稅犯則者處分法ノ規定ニ徵スルモ監督局技手ニ右等ノ鑑定ヲ爲シ得ルコトヲ認容セシ法條アルヲ見ス左レハ右書類ハ法則ニ準據シテ成立シタルモノニアラサレハ裁判上ノ證據ト認ムヘカラサルモノナルニ之ヲ判斷ノ資料ニ供セシ原裁判ハ採證ノ法則ニ違反セリト云フニ在レトモ○酒精及酒精含有飲料稅法第十五條ニ「收稅官吏ハ命令ノ規定ニ依リ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ所持ニ係ル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料其製造出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及其製造又ハ販賣上必要ナル建築物器械材料其他ノ物品ヲ検査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得」トアルヲ以テ横濱稅務

署收稅官吏ハ此規定ニ依リ其監督上鑑定ヲ爲スヲ必要ナリトシテ日根野弘勝ヲシテ之ヲ爲サシメタルモノナルコトヲ認メ得ヘク從テ同人ノ鑑定書ハ無効タルヘキ謂ハレナキヲ以テ本論旨ハ上告ノ理由トナラス

○收稅官吏ハ此規定ニ依リ其監督上鑑定ヲ爲スヲ必要ナリトシテ日根野弘勝ヲシテ之ヲ爲サシメタルモノナルコトヲ認メ得ヘク從テ同人ノ鑑定書ハ無効タルヘキ謂ハレナキヲ以テ本論旨ハ上告ノ理由トナラス

○仲買人カ取引所ニ於テ定期取引ヲ爲スハ自己ノ名義自己ノ責任ヲ以テスルモノナレハ假令他人ノ注文ヲ受ケテ賣付又ハ買付ケタルトキト雖モ取引所ニ對シ賣買ヲ計算スルニ當リ日仕舞轉賣若ハ買戻ノ方法ニ依テ帳簿上其賣買米ヲ相殺スルモ違法ニ非ス(明治三十七年五月三十一日)上告理由第一點ハ取引所ノ仲買人ハ顧客ノ注文ニ應シ賣建若ハ買建ヲ爲シタルトキハ必スヤ之ヲ取引所ニ提出シ保存シ置カサルヘカラス然ルニ原院ハ上告人カ賣建ヲナシタル分ニ付他ニ買建ヲナシタルモノアルヲ以テ之ト相殺シ取引所市場ニ保存セサルモ差支ナシトシ上告人ノ請求ヲ排斥セラレタルハ取引所法ヲ不當ニ適用シタル違法ノ判決ナリト云ヒ其第五點ハ原院ノ判決ハ日仕舞ナル方法ハ取引所カ同一ノ契約者ニ對シ轉賣買戻ニヨリ爲シ得ヘキ方法ニヨリ相殺シ得ヘシトノ規定ヲ誤解シ本件事實ノ如ク仲買人カ甲顧客ノ賣建例セハ百石アリシトキ乙客ニ百石ノ買アリシトキハ仲買人ニ於テ共ニ相殺シ取引所ニハ賣買ナキ如ク爲シ得ルモノトセラレタルハ法律ニ違反スル違法ノ判決ナリト云フニ在リ○然レトモ仲買人カ取引所ニテ定期取引ヲ爲スハ自己ノ名義自己ノ責任ヲ以テ爲スモノナルニ因リ假令他人ノ注文ヲ受ケテ賣付又ハ買付タルトキト雖モ取引所トノ間ニ於テ賣買ヲ計算スルニ當リテハ日仕舞轉賣若ハ買戻ノ方法ニ依リ帳簿上其賣買米ヲ相殺スルモ違法ニアラサルハ本院ノ判例トスル所ナリ又仲買人カ其賣買ヲ取引所ニ提出セス手許限ニテ之ヲ相殺スルハ上告人論旨ノ如ク法律ノ許サ、ル所ナリ然リ而シテ原院カ仲買人ハ其賣買ヲ日仕舞轉賣買戻ノ方法ニ依リ相殺スルモ差支ナシトシタルハ取引所ニ於ケル計算上ノ事ニシテ其手許限ノ相殺ノ事ニ非サルハ判旨ニ依リテ明ナリ然レハ本論旨ハ判決ノ趣旨ニ副ハサルモノニシテ上告ノ理由トナラス

○砂糖製造業者カ其製造ノ原料ヲ保税倉庫ヨリ引取ルニ當リ砂糖消費税法第十一條ノ一第二項ニ從ヒ擔保ヲ提供シタリトスルモ其製品ヲ他ニ引渡スニハ同法第七條ノ規定ニ據ラサルヘカラス故ニ消費稅納付前ニ於テ製品ヲ他ニ引渡シタル事實ヲ認メ乍ラ其製造ノ原料引取ニ付キ提供セシ擔保アルカ爲メ同第七條ニ所謂擔保提供濟ナリトシテ其所爲罪トナラスト判決シタルハ擬律錯誤ノ不法アルモノトス(明治三十七年五月三十一日)

大阪控訴院檢察長倉富勇三郎上告趣意書ハ原判決ハ被告和助ハ氷砂糖製造業者ニシテ雇人灰野由平ハ其業務ニ付キ消費稅納付前被告和助ノ製造ニ係ル氷砂糖ヲ他ニ引渡シタル事實ヲ確認シタルニ拘ハラヌ本案被告事件ハ罪ト爲ラスト判定シタリ其理由ハ氷砂糖ノ原料ニ供シタル砂糖ハ税法第十一條ノ一第二項ニ依リ保税倉庫ヨリ引取ノ際其税金ニ相當スル擔保ヲ提供シタルモノナレハ氷砂糖ノ引渡カ消費稅納付前ニ在リトスルモ擔保提供後ニ係ルヲ以テ税法第七條ノ違犯ト爲ラスト云フニ在リ而シテ原判決ハ更ニ理由ヲ說明シ前示第七條ノ規定ハ專ラ通稅ヲ豫防スルノ旨意ニ出ルコト明瞭ナルヲ以テ其擔保ハ消費ノ爲メニ引取ラル、場合(第四條)ニ提供セラレタルモノニ係ルト將タ砂糖糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ引取ラル、場合(第十一條ノ一)ニ提供セラレタルモノニ係ルト問ハス二者共ニ之ヲ包含スト解釋スルヲ妥當トスト論斷シタリ是レ實ニ税法ノ解釋ヲ誤リタルモノト謂フニ憚ラス何トナレハ第十一條ノ一ニ依ル擔保ハ全然第四條ニ依ル擔保ト別殊ノモノニ屬シ而シテ第七條ノ擔保ハ第四條ノ擔保ヲ指シ第十一條ノ一ノ擔保ヲ包含セザレハナリ蓋シ第十一條ノ一ニ規定スル擔保ハ其目的素ト無稅ナル原料ノ砂糖又ハ糖蜜ヲ引取後ニ於テ砂糖糖水又ハ酒精製造以外ニ費消

シ而モ其消費稅ヲ通ル、コトヲ防止スル爲メニ原料引取ノ日ヨリ六ヶ月以内ニ於テ製造ノ用ニ供セサルトキハ消費シタルモノト看做シ之ニ課スヘキ消費稅ニ充當セムトスルニ在ルヤ其擔保額カ原料ノ斤量品位ニ相當スル消費稅額ヲ以テ足ルニ徵スレハ自ラ釋然タルモノアリ且原料引取ノ際提供スル擔保ハ製造品ニ對スル消費稅ノ擔保ニ充ツルノ趣旨ニ非サルコトハ該擔保カ原料ノ税金ニ相當スルヲ觀ルモ亦明ナリ何トナレハ原料ト製造品トハ自ラ其斤量品位ニ異動アリ從テ其稅額ニ異同アレハナリ故ニ第十一條ノ一ノ所謂擔保ナルモノハ直接ニ消費稅ノ擔保ヲ目的トスル第四條ノ擔保ニ該當セサルヤ殆ト論争ノ餘地ヲ存セス而シテ第七條ハ第四條ニ胚胎スルヲ以テ前示二條中ノ擔保ハ同一意義ヲ有スルモノト謂ハサルヘカラス抑モ消費稅ハ製造場稅關又ハ保稅倉庫ヨリ砂糖糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルトキ引取人ニ於テ之ヲ納付スヘク若納付ニ付六ヶ月以内ノ猶豫ヲ得ムトスルニハ相當ノ擔保ヲ提供スヘキコトハ第四條ノ規定スル所ナリ故ニ消費稅納付前又ハ擔保提供前ニ於テ砂糖等ノ引渡又ハ引取ヲ爲スコトヲ得ルトスレハ其斤量品位ヲ査定スルコトヲ得テ從テ消費稅額又ハ其擔保額ヲ確定スルコトヲ得ス爲メニ通稅ノ虞渺カラサレハ稅法上消費稅納付前又ハ擔保提供前ニ於ケル引渡又ハ引取ハ當然禁止スヘキモノニシテ第六條及第七條ノ規定存スル所以ナリ而シテ第七條ハ砂糖糖蜜又ハ糖水ノ製造者ニ對スル禁令ニシテ此製造中ニハ原料トシテ砂糖又ハ糖蜜ヲ他ヨリ引取リ砂糖又ハ糖水ヲ製造スル者ヲ包含スルコト疑ヲ容レス故ニ該製造者ハ製造品ノ斤量品位ニ付キ收稅官吏ノ査定ヲ受ケ引取人カ之ニ相當スル消費稅ヲ納付シ若クハ納稅ノ擔保ヲ提供シタル後ニ非サレハ製造品ヲ引渡スコトヲ得サルナリ斯クノ如ク第四條及ヒ第七條ノ擔保ハ消

費稅納付ノ猶豫ヲ得ル爲メニ提供スヘク且直接ニ消費稅ノ擔保タルモノニシテ前ニ論シタル第十一條ノ一ニ規定スル原料引取ノ擔保ト全ク其性質及提供ノ原因ヲ異ニスルノミナラス第十一條ノ一ノ擔保ハ製造完了後ニ於テハ製造品ノ消費稅納付前ト雖モ相當ノ手續ヲ經テ解除セラル、コトヲ得ルニ反シテ第四條及第七條ノ擔保ハ消費稅納付前ニ在テハ解除セラル、コトヲ得サルナリ故ニ二者均シク其名ヲ擔保ト謂フト雖モ其實ハ同シカラス故ニ彼此混同スルコトヲ得サルヤ復タ辯ヲ俟タス是原判決ヲ以テ稅法ノ解釋ヲ誤リタルモノト謂フ所以ナリ又原判決ハ理由ノ説明トシテ製造ノ原料トシテ引取ラレタル砂糖ニシテ既ニ其税金ニ相當スル擔保ヲ提供シアル以上ハ之ヲ原料トシテ製造シタル水砂糖ニ付テハ假令消費稅納付前之ヲ他ニ引渡シタル行爲アリトスルモ提供シアル擔保ヲ以テ消費稅ニ充當スルコトヲ得ヘケレハ通稅ノ虞ナキハ勿論毫モ法益侵害ノ點ナシト斷定シタリ是レ亦失當ノ見解タルヲ免レス原料ニ對スル消費稅ト製造品ニ對スル消費稅トハ其稅率同一ナラス第一種(百斤ニ付税金一圓)第二種(百斤ニ付税金一圓六十錢)又ハ第三種(百斤ニ付税金二圓二十錢)ノ砂糖ヲ以テ第四種(百斤ニ付税金二圓八十錢)ノ砂糖(水砂糖ヲ含ム)ヲ製造シ第一種ニ屬スル糖蜜ヲ以テ第三種ニ屬スル糖水ヲ製造スル場合ニ於テ製造ノ結果製造品ハ原料ニ比シテ斤量ニ於テ多少ノ減少ヲ生スルモ品等ヲ進メ從テ稅率ヲ昂ルヲ以テ稅額ニ於テ多大ノ増加ヲ來スヘシ是ニ於テ原料ノ擔保ハ製造品ノ擔保トシテ不足ヲ告クルハ當然ナリ然ラハ製造品ヲ引渡スニ際シ原料引取ノ擔保ヲ以テ製造品ノ消費稅ニ對スル擔保ニ充當スルコトヲ得ルモノトスレハ通稅ノ虞アルコト多言ヲ要セス此ニ由テ之ヲ觀レハ第七條ノ擔保中ニハ第十一條ノ一ノ擔保ヲ包含

セサルコト益々明確ナリト謂フヘシ要スルニ原判決ハ税法第七條ノ擔保ハ第十一條ノ一ノ擔保ヲモ包含スルモノナリト解釋シ從テ本件ニ付擔保提供アルモノト認メ第一審裁判所カ税法第七條第十二條第三條第十七條ヲ適用處斷シタル判決ヲ取消シ被告人ニ對シテ無罪ヲ言渡シタルハ税法ノ適用ヲ誤リタル違法ノ判決ニシテ破毀ヲ免レサルモノト思料スト云フニ在リ○依テ審按スルニ砂糖消費税法ニ依リ消費稅ヲ課スルハ内地消費ノ砂糖糖蜜糖水ニシテ而シテ其消費稅及擔保ハ砂糖糖蜜糖水ヲ製造場稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ル者ニ於テ納付スヘキモノナルコトハ税法第一條二條四條稅法施行規則等ニヨリ明ナルモ砂糖糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ製造業者カ砂糖及糖蜜ヲ使用スル場合ニハ消費稅ヲ課スヘキモノニアラサルヲ以テ此等原料ニ付テハ税法第十一條ノ一ノ一項ニヨリ政府ノ承認ヲ受ケ無稅ニテ引取ルコトヲ許スト雖モ若シ無條件ニテ引取ラシムルトキハ引取者カ製造ノ原料トシテ之ヲ使用セサリシ場合ニ於テ税法第十一條ノ一ノ三項ニヨリ課稅品トシテ消費稅ヲ徵收スルニ當リ困難ヲ生スルヲ以テ同條第二項ハ此場合ヲ慮リ原料ノ引取者ニ命ジ擔保ヲ供セシムルコトヲ得ルモノト定メタリ故ニ第十一條ノ一ノ二項ニ據ルヘキ擔保ノ供出者ハ製造者タル引取人其人ニシテ而シテ其擔保ノ目的ハ無稅ノ原料品タル砂糖糖蜜ニ付キ將來課稅ノ必要生スルコトアルヘキヲ豫想シ未來ノ逋稅ヲ豫防スルニ存スルモノトス然ルニ税法第七條ハ砂糖糖蜜又ハ糖水ノ製造業者カ其製造品ヲ他ニ引渡スニハ消費稅ノ納付濟ナルコト又ハ其稅額ニ相當スヘキ擔保ノ提供濟ナルコトヲ必要トシ消費稅納付前又ハ擔保ノ提供前ニ於ケル製品ノ引渡ヲ禁シ以テ逋稅ヲ防クニ在ルヲ以テ此場合ニ於ケル擔保提供ノ義務アル者ハ引渡人タル製造業者其人ニアラス

シテ製品ヲ引取ル者ナリトス且其擔保ノ目的ハ當然納付スヘキ消費稅ニ付キ六ヶ月間ノ猶豫ヲ得ムトスルニアリテ税法第十一條ノ一ノ第二項ニ於ケル納稅義務ノ未タ生セサル場合ニ於ケルモノトハ全然相異ナルモノトス殊ニ税法第三條ニハ第一種乃至第四種ニ至ル品質差別ニヨリ各相異ナリタル稅率ノ定メアルヲ以テ第十一條ノ一ノ二項ニ依ル製造ノ原料品ニ對スル擔保ハ之ヲ以テ製出シタル製品ニ對スル稅額ノ擔保トシテハ不足ヲ生スルコトアルヘキハ勿論ニシテ到底逋稅ヲ避ケ得ヘカラサルニ因リ原料タル砂糖糖蜜ニ付一旦擔保ヲ提供シタル製造業者ハ第七條ノ規定ニ從ハス隨意ニ其製品ノ引渡シヲ爲シ得ヘキモノト云フヲ得サルハ勿論ナリトス已ニ然ラハ氷砂糖製造業者タル被告佐藤利助カ其製造ノ原料ヲ保稅倉庫ヨリ引取ルニ當リ税法第十一條ノ一ノ第二項ニヨリ擔保ヲ提供シタルトスルモ其製品タル氷砂糖ヲ他ニ引渡スニハ税法第七條ノ規定ニ從ハサルヘカラサルコト明瞭ナルニ拘ハラヌ原院カ被告利助ノ雇人灰野由平ニ於テ製造ニ係ル第四種氷砂糖五十斤入五十函斤數二千五百斤ヲ米村金助一七函斤數八百五十斤ヲ木本政次郎ニ同四十斤ヲ住所氏名不詳ノ者ニ何レモ消費稅納付前ニ同引渡シタル事實ヲ認メナカラ佐藤利助カ製造ノ原料品引取ニ付キ提供シタル擔保アルカ爲メ第七條ノ所謂擔保提供濟ナリトシテ其所爲罪トナラスト判決シタルハ擬律ニ錯誤アル不法ノ判決ニシテ檢事長ノ上告論旨ハ全然其理由アリトス

○稅務官吏カ酒造檢査ヲ爲スヘキ時ニ關シテハ法律上別段ノ制限ナキヲ以テ夜間ニ之ヲ爲スモ不法ニ非ス (明治三十七年六月三日)

被告兩名上告趣意ハ原判決ヲ閱スルニ被告人ニ職務妨害ノ行爲アルコトヲ認定セラレタリ然レトモ夜間ニ在テ強制的ニ檢査ヲ爲シ若ハ犯罪檢舉ノ爲メ家宅ヲ搜索セムトスルニハ必ス日没前ナラサルヘカラス然ルニ原判決中證憑トシテ引用セラレタル被告助松ノ豫審調書ニ依ルモ夜間ノ檢査ハ之ヲ拒ム旨明言シアルニモ拘ハラス強テ之カ檢査ヲ行ハムトシタルモノナルコトノ記載アリ果シテ然ラハ假令原判決中ニ認メラレタルカ如キ暴行ノ事實アリトスルモ家主不承諾ノ下ニ強テ檢査ヲ行ハムトシタル不法アルニ依リ決シテ如斯場合ニ官吏職務執行妨害ノ罪ノ成立スヘキモノニアラス即チ原判決ハ不法タルヲ免レスト云フニ在リ○然レトモ稅務官吏カ酒造檢査ヲ爲スヘキ時ニ關シテ法律上別段ノ制限ナキヲ以テ夜間ニ之ヲ爲スモ不法ト云フヲ得ス而シテ原判決ニ依レハ被告等ハ暴行ヲ以テ檢査官吏ノ職務執行ニ抗拒シタル事實ナレハ原院カ刑法第三百九條ヲ適用シテ被告等ヲ處罰シタルハ相當ニシテ本論旨ハ理由ナシ

○保證契約ハ必スシモ結約當時ニ於テ債務ノ存在スルコトヲ要セス未來ノ債務ト雖モ之ヲ保證シ得ルハ勿論ニシテ此場合ニ在リテハ後日主タル債務成立スルトキハ保證債務モ亦其効力ヲ發生スルモノトス (治三十七年六月七日)

上告理由第一點ハ原判決ハ保證債務ノ法則ヲ不法ニ適用シタルモノナリ抑モ保證トハ主債務者カ其債務ヲ履行セサル場合ニ於テ其履行ヲ爲ス責任アルモノニシテ其負擔ハ如何ナル場合ニ於テモ主債務ヨリ重カルヘキモノニ非ス即主債務存セスシテ從タル保證債務ノ存在ヲ認ムルコトヲ得サルハ固ヨリ其所ナリトス而シテ原判決ハ上告人ハ明治三十三年度ニ於テ未タ存在セス若ハ存否未定ナル三十五年度ニ於ケル清酒造石稅納付ノ保證ヲ爲シタルコトヲ認メナカラ被上告人請求ノ如ク其履行ヲ命シタルハ法律ニ違背シタル不法アリト云フニ在リ○按スルニ保證債務カ主タル債務ニ對スル從タル債務ニシテ主債務存在セザレハ從タル保證債務モ亦存在セサルコトハ上告人所論ノ如シト雖モ保證契約ハ必スシモ結約當時ニ於テ債務ノ存在スルヲ要セス故ニ未來ノ債務ヲ保證スルコトヲ得ルハ勿論ニシテ此場合後日主債務ノ發生スルトキハ保證債務モ亦從テ其効力ヲ發生スルカ故主債務者カ履行ヲ缺クニ於テハ保證債務者ニ履行ノ責任アルハ當然ナリ (下略)

○葉煙草專賣法第三條ニ依リ葉煙草ヲ乾燥シ又ハ之ヲ政府ニ納付スルハ皆葉煙草耕作人ノ業務ニ屬ス故ニ若シ其間ニ於テ代理人家族同居者又ハ雇人中之ヲ他ニ讓渡シ又ハ消費シタルアルトキハ耕作人ハ其責罰ヲ免ル、コトヲ得ス (明治三十七年六月七日)

長崎控訴院檢察事長代理檢察事宮腰信次郎上告趣意ハ長崎控訴院ノ認定シタル事實ニ依レハ被告入ハ葉煙草耕作人ニシテ其耕作シタル葉煙草ノ内一貫三百五十七匁ヲ被告人ノ家族タル衛藤今朝太郎ニ於テ消費シタル事實ナリ葉煙草專賣法ヲ按スルニ第三條ニ葉煙草ヲ耕作スル者ハ乾燥ノ後總テ其葉煙草ヲ政府ニ納付スヘシ之ヲ他ニ讓渡シ又ハ消費スルコトヲ得ストアリ第二十一條ニ葉煙草ヲ耕作スル者政府ニ納付スヘキ葉煙草ヲ他ニ讓渡シ若ハ消費シタルトキ云々八十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處シ云々トアリテ耕作人自ラ耕作シタル葉煙草ヲ政府ニ納付セスシテ之ヲ消費シタルトキハ前示ノ法條ニ照シ處斷スヘキコト毫モ疑ナキ所ナリ而シテ第二十八條ニ葉煙草ヲ耕作スル者ハ其代理人家族同居者雇人ニシテ其業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免ル、コトヲ得ストアルヲ以テ本件被告ノ家族ニ於テ戶主タル被告ノ承諾ナクシテ消費シタルトキト雖モ尙ホ其責ヲ負ハサルヘカラス然ルニ當院カ今朝太郎ノ所爲ハ葉煙草耕作人タル被告ノ業務ニ關シテ犯シタルモノニアラサルヲ以テ罪トナラスト判決シタルハ法律ヲ誤解シタル不法ノ判決ナリト思料ス抑モ今朝太郎カ其家長タル被告ニ於テ耕作シタル葉煙草ヲ消費シタル行爲カ業務ニ關スル犯罪ナリヤ否ヤヲ知ラムト欲セハ宜シク先ツ耕作人ノ業務ハ何時ニ始リ何時ニ終ルヤヲ究メサルヘカラス而シテ耕作人ハ製造人ノ如ク商行爲ヲ爲スモノニアラサルヲ以テ其業務ハ甚タ單純ナ

ルモノニシテ前示第三條ニ依レハ耕作人ハ指定ノ場所ニ指定ノ煙草ヲ耕作シ之ヲ乾燥シタル後其葉煙草ヲ政府ニ納付スルノ外ナキヲ以テ其業務ハ播種ニ始リ納付ニ終ルモノトナサ、ルヘカラス故ニ耕作人自身又ハ其家族カ葉煙草ヲ政府ニ納付スヘカラス行爲ヲ爲シタルトキハ其業務ニ關スル犯罪ナルコト論ヲ俟タス消費ハ業務ニ關セストノ見解ハ其消費ノ爲メニ政府ニ納付スル能ハサルニ至ラシメタルモノナルコトヲ忘却シタル誤謬ヲ免レサルモノナリト云フニ在リ○因テ按スルニ葉煙草專賣法第三條ノ規定ニ依レハ葉煙草耕作人ハ自己カ耕作シタル葉煙草ヲ乾燥シテ總テ之ヲ政府ニ納付スヘキ義務ヲ負擔シ擅ニ之ヲ他ニ讓渡シ又ハ消費スルコトヲ得ス而シテ右葉煙草ヲ乾燥シ又ハ之ヲ政府ニ納付スルハ皆之レ葉煙草耕作人ノ業務ニ屬スルヲ以テ若シ夫レ其間ニ於テ其代理人家族同居者又ハ雇人ニシテ之ヲ他ニ讓渡シ又ハ消費シタル者アルトキハ耕作人ハ勿論第二十八條ノ規定ニ依リ其責罰ヲ免ル、コト能ハス然ルニ原院ニ於テ被告ノ家族タル衛藤今朝太郎カ被告ノ耕作シタル葉煙草ヲ擅ニ消費シタル事實即チ自己ノ吸飲用ノ爲メ他人ヲシテ刻煙草ニ製造セシメタル事實ヲ認メナカラ這ハ被告ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルモノニ非ストシ無罪ヲ言渡シタルハ本論旨ニ述フルカ如ク擬律錯誤ノ裁判ニシテ破毀ヲ免レス

○酒類製造者ニ課スヘキ造石稅ノ稅率ハ明治三十七年法律第三號非常特別稅法ニ依リ改正セラレタルヲ以テ其改正前ニ係ル犯罪ニシテ造石稅ヲ標準トシ罰金刑ニ處スヘキ場合ニ在リテハ必スヤ刑法第三條第二項ノ規定ニ從ヒ新舊ノ法則ヲ比照シ輕キニ從テ處斷セサルヘカラス (明治三十七年六月十七日)

(參照) 法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスコトテ得ス若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス (舊刑法第三條)

上告趣意ハ抑モ本件事實ハ第一被告カ酒類製造ノ免許ヲ受ケ酒類製造中意思ヲ繼續シテ明治三十六年九月十日頃同月二十日頃及ヒ同月二十四五日頃都合三回ニ免許場外ナル自宅床下ニ自己所有ノ甕六個ヲ埋メ其中ニ一回毎ニ蒸米一石七斗麴米五斗汲水一石七斗宛ヲ以テ清酒ノ原料タル醪ヲ製造シ第二右醪ヲ同年九月二十二日同月二十七日二十八日ノ三回ニ被告ノ免許ヲ受ケシ製造場内ニ運搬上槽シ以テ清酒九石一斗一升ヲ製造スルニ當リ其筋ノ査定ヲ免レタリト云フニ在リ原院ハ右ノ事實ヲ認メ酒造稅法第二條第二十四條ニ該當スルモノトシテ被告ニ罰金百圓ト六百八十三圓二十五錢ニ處セラレタルモ是明治三十七年四月十九日言渡サレタルモノニシテ其以前既ニ同年法律第三號第一條第二條ニ依リ酒造稅法第四條第一項第一種ノ造石稅ヲ改正セラレタルヲ以テ本件ハ之ヲ新法ニ照セハ以上列記ノ法條ニ該當スルニ依リ刑法第二條 (三條ノ誤謬ナラム) ニ則リ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷スヘキ筈ナルニ單ニ舊法ノミヲ適用處斷シタルハ法律ノ適用ヲ誤リタル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ○因テ按スルニ酒類製造者ニ課スヘキ造石稅ノ稅率ハ明治三十七年法律第三號非常特別稅法ニ依リ改

正セラレタルヲ以テ其改正前ニ係ル犯罪ニシテ造石稅ヲ標準トシ罰金刑ニ處スヘキ場合ニ於テハ必スヤ刑法第三條第二項ノ規定ニ從ヒ新舊ノ法則ヲ比照シ輕キニ從テ處斷セサルヘカラス然ルニ原院ニ於テ本件被告ノ第二ノ所爲即チ被告カ不正ノ手段ヲ以テ造石數ノ査定ヲ免レタル所爲ニ付被告ニ罰金ヲ言渡スニ當リ新舊ノ法ヲ比照セ直チニ酒造稅法第二十四條ヲ適用シ改正前ノ稅率ヲ標準トシ造石稅五倍ノ罰金ニ處シタルハ即チ上告人所論ノ如ク擬律錯誤ノ裁判ニシテ本論旨ハ此第二ノ所爲ニ付理由アリ然レトモ第一ノ所爲即チ免許ヲ受ケタル製造場外ニ於テ醪ヲ密造シタル所爲ハ造石稅ノ多寡如何ニ拘ハラヌ酒造稅法第二十二條ニ依リ金五十圓以上五千圓以下ノ罰金ニ處スヘキモノナレハ本論旨ハ此第一ノ所爲ニ付テハ上告適法ノ理由トナラス

○酒類ノ製造販賣ヲ業ト爲サル者ノ家族雇人等カ酒造稅法ニ違反シタル場合ハ同法第三十二條ノ規定ニ該當セザレハ實際違反行爲ヲ爲シタル者ヲシテ刑罰ノ責任ヲ受ケシムヘキハ當然ナリ (明治三十七年六月十七日)

上告趣意ハ酒造稅法第三十二條ノ規定ノ趣旨ニ依レハ酒造稅法違反ノ責罰ハ實際ノ違反者ハ何人タルヲ問ハス戸主金子喜兵衛ニ於テ負擔スヘク家族タル上告人カ處罰セラレヘキ理由ナシ而シテ原判決ハ戸主ハ喜兵衛ニシテ上告人ハ其家族タルヲ認メナカラ上告人カ實際ノ醸造者ナリトノ理由ノ下ニ上告人ヲ罰セラレタルハ不法ノ判決ナリト云フニ在リ○然レトモ酒造稅法第三十二條ハ免許ヲ受ケ酒類ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ代理人戸主家族同居者雇人其他ノ從業者カ業務ニ關シ稅法違反ノ所爲アル場合ニ其製造業者販賣者ヲ責任者トシテ處罰スヘキ旨ヲ規定シタルモノナレハ酒類ノ製造販賣ヲ業トセサル者ノ家族雇人等カ酒造稅法ニ違反シタル場合ハ該條ノ規定ニ該當セザルニヨリ實際違反行爲ヲ爲シタル者ヲ以テ刑罰ノ責任ヲ受ケシムヘキハ當然ナリ本件被告家ノ戸主ハ實父鈴木喜兵衛ナルコトハ判文後段ノ説明ニヨリ明ナレトモ被告家ニハ被告ヲ初トシ何人モ酒類製造ノ免許ヲ受ケ居ル者ナキコトモ亦原院ノ判示ニヨリ明ナルヲ以テ原院カ被告ニ濁酒密造ノ所爲アリト認メ酒造稅法第二十二條ヲ適用シ被告ヲ處罰シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ其理由ナシ

○酒精及酒精含有飲料稅法第二條ニ依レハ如何ニ低度ナルモ既ニ酒精分ヲ含有スルモノタル以上ハ必ス一石ニ付十六圓ノ割合ヲ以テ造石稅ヲ課スヘキモノトス而シテ該金額ハ法律上一定セル最下額ノ造石稅ナルカ故ニ此ノ稅額ヲ超エサルヘキ場合ニハ判決ニ酒精分ノ一定ノ度數ヲ示スノ要ナシ (明治三十七年八月二十三日參照)

○純酒精ノ容量幾個ト云フト酒精分何度ト云フトハ元來同一ノコトナルモ酒精及酒精含有飲料稅法並ニ酒造稅法ノ解釋上前者ニハ容量トアルヲ以テ之ニ對シ幾個トシテ其數ヲ現ハシ後者ニハ酒精分トアルヲ以テ何度トシテ其度數ヲ現ハシタルモノニ外ナラス (明治三十七年六月二十日) 辯護人本田恒虎上告趣意辯明書第三點第二ノ犯罪ノ目的タル酒精含有飲料物カ若干ノ純酒精ヲ含有スルヤヲ定ムルハ罰金額ヲ算出スル上ニ於テ必要ナル事項タルハ酒精及酒精含有飲料稅法第二條ニ依リ明瞭ナリ果シテ然ラハ被告まちカ製造シタル酒精含有飲料物カ一石ニ付若干ノ純酒精ヲ包含スルヤヲ認定セサルヘカラス然ルニ原判決カ遂ニ若干ノ純酒精ヲ含有セシヤヲ明ニセサリシハ犯罪事實ヲ明示セサルノ違法アリト謂ハサルハカラス或ハ云ハム原判決ニ「酒精分二十度以下ノ酒精含有飲料二石一斗五升ヲ製造シタリ」トノ文字ハ明ニ含有酒精ノ量ヲ示シタルモノナラムト果シテ然ラハ第四點原判決ハ理由不備ノ違法アリ抑モ純酒精ノ何物タルヤハ同法第三條ニ明記シアルカ如ク自ラ酒精分ナル文字ト別箇ノ意義ヲ有ス加之同法中酒精分ナル文字ヲ使用シタル所ナキヲ以テ若シ純酒精ノ容量一箇ト酒精分一度ト同様ナリトセハ之カ關係ヲ説明セサルヘカラス故ニ原判決ハ漫然酒精分二十度以下云々ト判示シ其他ニ及ハサルヲ以テ之ヲ以テ直チニ同法第三條第二條ニ從テ酒精含有飲料物ニ包含セラレ

、純酒精ノ容量ノ何個ナルヤヲ明示シタルモノト認ムル能ハス故ニ若シ原判決カ數個ノ文字ニ依テ純酒精ノ容量ヲ示サムトシタルモノナリトセムカ結局理由不備ノ違法アリトシテ批難セサルヲ得ス加之若シ原判決カ酒精分二十度以下云々ノ文字ヲ以テ被告まぢノ製造シタル酒精含有飲料物ニ包含セル純酒精ノ容量ヲ示シタルモノト認ムルコトヲ得ヘキモノトセムカ第五點原判決ハ證據ノ明示ヲ欠キタル違法アリ何トナレハ原判決ノ採用シタル證據中酒精分二十度以下ナリシヤ否ヲ決スルニ足ルヘキモノ、存在セサルハ判決文ニ依テ明瞭ナレハナリト云フニ在レトモ〇酒精及酒精含有飲料稅法第二條ニ依レハ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スルトキハ一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量一箇毎ニ金七十五錢ノ割合ヲ以テ其石數ニ應シテ造石稅ヲ課ス但一石ニ付金十六圓ノ割合ヲ下ルコトヲ得ストアルヲ以テ如何ニ低度ナル酒精分タルニモセヨ既ニ酒精分ヲ含有スルモノタル以上ハ法律ハ常ニ必ス一石ニ付十六圓ノ割合ナル造石稅ヲ課スヘキコト、シテ此金十六圓ハ法律上一定セル最下額ノ造石稅ナレハ此ノ造石稅額ヲ超エサルヘキ場合ニハ酒精分ノ一定ノ度數ヲ示スノ必要ナシ今原判決ノ事實理由ト其主文中まぢニ對シ言渡シタル罰金額ノ計算等ヨリ之ヲ按スルニ原院ハ酒精分ノ度カ一石ニ付金十六圓ノ割合ナル造石稅ヲ要スルモノヨリハ猶低度ナル酒精分ヲ有セシモノト認メタルモノナルコト其算數上明白ナレハ前顯說示ノ理由ニヨリ特ニ酒精分ノ幾度ナリシヤヲ明示スルノ必要ナシ唯夫レ酒精分何度以下トシテ即チ一石ニ付十六圓ノ割合ナル造石稅ヨリ上ルコトナキ所以ヲ示セハ即チ足ルヘケレハ原院カ第二ノ事實理由中酒精分二十度以下トシテ別ニ一定ノ度數ヲ示サ、リシハ不當ニ非ス何トナレハ酒精分二十度以下タル上ハ如

何ナル度數タルヲ問ハス其造石稅ハ法律上金十六圓ヨリ上ルコトナケレハナリ又其所謂純酒精ノ容量幾箇ト云フト酒精分何度ト云フトハ元來同一ノコトナルモ酒造稅法及酒精及酒精含有飲料稅法ノ解釋上前者ハ容量ト云ヘルヲ以テ之ニ對シ幾箇トシテ其數ヲ現ハシ後者ハ酒精分ト云ヘルヲ以テ何度トシテ其度數ヲ現ハシタルニ外ナラサレハ原院カ第二事實理由ノ部ニ酒精分二十度以下云々ト說示シタルハ違法ニアラス要スルニ本論旨ハ總テ上告ノ理由トナラス

○原院カ第三十次裁示ニ依テ被告マぢノ製造シタル酒精含有飲料物ニ包含セル純酒精ノ容量ヲ示シタルモノト認ムルコトヲ得ヘキモノトセムカ第五點原判決ハ證據ノ明示ヲ欠キタル違法アリ何トナレハ原判決ノ採用シタル證據中酒精分二十度以下ナリシヤ否ヲ決スルニ足ルヘキモノ、存在セサルハ判決文ニ依テ明瞭ナレハナリト云フニ在レトモ〇酒精及酒精含有飲料稅法第二條ニ依レハ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スルトキハ一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量一箇毎ニ金七十五錢ノ割合ヲ以テ其石數ニ應シテ造石稅ヲ課ス但一石ニ付金十六圓ノ割合ヲ下ルコトヲ得ストアルヲ以テ如何ニ低度ナル酒精分タルニモセヨ既ニ酒精分ヲ含有スルモノタル以上ハ法律ハ常ニ必ス一石ニ付十六圓ノ割合ナル造石稅ヲ課スヘキコト、シテ此金十六圓ハ法律上一定セル最下額ノ造石稅ナレハ此ノ造石稅額ヲ超エサルヘキ場合ニハ酒精分ノ一定ノ度數ヲ示スノ必要ナシ今原判決ノ事實理由ト其主文中まぢニ對シ言渡シタル罰金額ノ計算等ヨリ之ヲ按スルニ原院ハ酒精分ノ度カ一石ニ付金十六圓ノ割合ナル造石稅ヲ要スルモノヨリハ猶低度ナル酒精分ヲ有セシモノト認メタルモノナルコト其算數上明白ナレハ前顯說示ノ理由ニヨリ特ニ酒精分ノ幾度ナリシヤヲ明示スルノ必要ナシ唯夫レ酒精分何度以下トシテ即チ一石ニ付十六圓ノ割合ナル造石稅ヨリ上ルコトナキ所以ヲ示セハ即チ足ルヘケレハ原院カ第二ノ事實理由中酒精分二十度以下トシテ別ニ一定ノ度數ヲ示サ、リシハ不當ニ非ス何トナレハ酒精分二十度以下タル上ハ如

○刑法第三百三十九條ニ所謂暴行ハ必スシモ官吏ノ身体ニ對シ直接ニ之ヲ加フルコトヲ要セス
 苟モ官吏カ職務ヲ執行スルニ當リ暴行ヲ以テ之ニ抗拒シタルトキハ直接タルト間接タルト
 ニ論ナク同條ノ犯罪ヲ構成ス (明治三十七年七月五日)

被告甚右衛門上告趣意書第一點ハ官吏ノ職務執行抗拒罪ノ成立ニハ暴行若ハ脅迫ノ行爲アルコトヲ要スルハ刑法第三百三十九條ノ明示スル所ナリ第二審判決書ヲ閱スルニ(德利ノ内容物ニ付訊問スル際同稅務屬ノ職務執行ヲ妨害セムコトヲ通謀シ被告甚右衛門ハ其内容物ノ氣ヲ嗅クカ如キ体ヲ裝ヒ寺岡稅務屬ニ近接シ卒然雙手ヲ以テ同稅務屬ノ所持セル德利ヲ緊握シテ之ヲ奪取ラムトスルヤ被告甚藏ハ其機ニ乘シ傍ヨリ突進シ遂ニ該德利ヲ奪取リ直ニ之ヲ其近傍ニ在リシ石ニ擲チテ破碎シ以テ右稅務屬ノ職務執行ニ抗拒シタルモノナリ)トアリテ其職務執行ニ抗拒シタルコトハ明記シアルモ暴行若ハ脅迫アリシコトノ明記ナシ故ニ第二審裁判官ハ上告人等ノ行爲ヲ暴行ト認メシモノナルヤ脅迫ト認メシモノナルヤ又暴行ニモ脅迫ニモアラサルモ妨害ノ行爲ト認メシモノナルヤ之ヲ知ルコト能ハス之レ犯罪ニ必要ノ事實ノ判定ヲ明示セサルモノナリ如斯法律適用ノ基礎タルヘキ必要ノ事實認定ヲ示サ、ル爲メ第二審裁判官ノ適用シタル法律ノ適否ヲ知ル事能ハス之レ全ク裁判ニ理由ヲ付セサルニ坐セサルヘカラス或ハ云ハム暴行若ハ脅迫アリシコトノ明文ナキモ德利ヲ奪取リ之ヲ破碎シタル事實ヲ揭擧シアレハ之ヲ以テ足レリト然レトモ同一ノ言語動作ト雖モ其場所其位置其境遇其後ノ模様等ニ依リ暴行脅迫トナル場合ト否ラサル場合アルモノニシテ一定ノ言語動作ハ必ス毎ニ暴行若ハ脅迫トナルモノニアラサレハ或ル言語動作ノミヲ列記スルモ其暴行脅迫タルト否トヲ

知ルコト能ハス故ニ暴行脅迫カ必要事實ナルトキハ或ル言語動作ニ對シ其暴行若ハ脅迫タルト否トヲ判定セサルヘカラサルナリ(中略)即チ知ル官吏ノ身体ニ苦痛ヲ與ヘス自由ヲ失ハシメス若ハ恐怖心ヲ起サシメサル行爲ハ之ヲ暴行脅迫ト云フコト能ハサルコトヲ故ニ第二審判決ハ擬律ノ錯誤ニ非サレハ不當ニ法則ヲ適用シタル違法ノ裁判ト思料スト云フニ在リ○因テ按スルニ刑法第三百三十九條ニ所謂暴行ハ必スシモ官吏ノ身体ニ對シ直接ニ之ヲ加フルコトヲ要セス官吏其職務ヲ執行スルニ當リ苟モ暴行ヲ以テ其官吏ニ抗拒シタルトキハ直接タルト間接タルトヲ問ハス官吏ノ職務執行妨害罪ヲ構成ス故ニ原判決ニ認ムル如ク被告兩名共謀ノ上寺岡稅務屬ノ職務執行ヲ妨害スル爲メ同人カ其職務上被告方ノ德利ヲ取上ケ其内容物ニ付訊問スル際腕力ヲ以テ之ヲ奪取リ剩ヘ之ヲ破碎シテ其職務執行ヲ妨害シタル以上ハ暴行ヲ以テ其職務執行ヲ妨害シタルモノナルヲ以テ其罪ヲ構成スルコト論ヲ俟タス本論旨ハ何レモ理由ナシ

○本論旨ハ何レモ理由ナシ
 ○被告兩名共謀ノ上寺岡稅務屬ノ職務執行ヲ妨害スル爲メ同人カ其職務上被告方ノ德利ヲ取上ケ其内容物ニ付訊問スル際腕力ヲ以テ之ヲ奪取リ剩ヘ之ヲ破碎シテ其職務執行ヲ妨害シタル以上ハ暴行ヲ以テ其職務執行ヲ妨害シタルモノナルヲ以テ其罪ヲ構成スルコト論ヲ俟タス本論旨ハ何レモ理由ナシ

○醪ノ上澄ヲ酌ミ取リタル所爲ハ清酒ヲ製造シタルモノトス
○酢製造者ノ雇人カ酒造稅法ヲ犯シタル場合ハ其業務ニ關シテ爲シタルモノト云フヲ得ス
○尋問顛末書ニ收稅官吏數名ノ署名捺印アル以上ハ共同シテ尋問及調書ノ作成ヲ爲シタルモノト云フヘク從テ調書作成ニ付テノ責任モ亦共同ノ責任タルコト當然ニシテ別段法律ノ禁スル所ニアラス (明治三十七年八月二十六日)

被告兩名上告趣意書ハ(一)凡ソ酢ヲ製造スルハ猶清酒ヲ製造スルト全ク相同シキモノニシテ其醪トナスニ於テ毫モ異ル所ナシ而シテ醪ノ熟成後其方法ノ如何ヲ問ハス粕ト汁トヲ分離スルニ於ケルモ亦相同シ只僅カニ粕ト汁トノ分離後ニ於テ酢ハ之ニ種酢ト稱スル精成酢ヲ混和シ又ハ自然ノ酸敗ニ任セ始メテ精成酢トナルモノナリ(中略)假令上告人等カ意アリテ其上澄ヲ酌取タルニモセヨ更ニ之ヲ清酒トナスヘキ加工ヲ爲サ、ルニ於テハ清酒ト云フ能ハサルノミナラス依然醪タル實質ニ於テ變化ナク之レ酢製造作業トシテノ當然行爲内ニ屬スルヲ以テ其意思ノ如何ヲ以テ直ニ酢タル範圍ヲ脱シタリト云フ能ハサレハナリ要之上告人等カ醪ノ上澄ヲ汲取リタル事實ヲ以テ直チニ清酒ヲ製造シタリト認メ更ニ清酒タル加工ヲ爲シタリヤ否ヲ説明セサリシハ理由ヲ付セサル不當ノ判決ナリト信スト云フニ在レトモ○原判決ヲ閱スルニ被告兩名ハ共謀ノ上酒類製造ノ免許ヲ受ケスシテ云々醪仕込第一號ヨリ第十號ニ至ル醪上澄ヲ漸次ニ酌取リ清酒二十二石三合ヲ製造シタルモノナリトアリテ本件被告等ノ犯罪事實ノ理由ハ右等ノ文詞ニテ完全明瞭ニ説示セラレタルモノナレハ結局原判決中所論ノ如ク理由ヲ附セサル不法ノ廉アルコトナキヲ以テ論旨ハ其理由ナシ(二)上告人等ハ酢製造業タ

ル下方銑之助(醪製造ノ免許ヲ受ケ居ルモノ)ノ雇人ニシテ下方銑之助カ酢ノ製造用タル醪ノ上澄ヲ酌取リタルコト又其目的カ自己ノ利益ノ爲メニナサ、リシコトハ原判決ノ理由及證據ニ依テ知ルヘシ酒造稅法第三十三條同法第三十二條ニ依レハ右等ノ行爲ハ假令雇主ニシテ其情ヲ知ラサリシニモセヨ猶雇主ノ責任ニ歸スヘキ筋合ナルニ付宜シク同法ヲ適用スヘキ筈ナルニ之ヲ不問ニ付シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○酒類製造人ノ雇人等ニシテ酒造稅法ニ違反シタルトキ製造人其者カ刑罰ノ責任ヲ受クルハ雇人等カ其業務ニ關シテ該稅法ニ違反シタル場合ニ限ルコトハ同法第三十二條ノ規定ニ照シ明瞭ナリトス然ルニ原判決ヲ見ルニ兩名ハ共謀ノ上酒類製造ノ免許ヲ受ケスシテ云々清酒二十二石三合ヲ製造シタルモノナリトアリテ即チ原院ハ被告等ニ於テ雇主下方銑之助ノ營業以外ニ出テ自己ノ爲メニ右清酒ヲ製造シテ犯則ノ所爲ニ及ヒタル事實ト認メタルモノナルコト明ナレハ此場合ニハ酒類製造人ノ雇人ト雖モ普通犯則者ト毫モ異ナラサルヲ以テ其犯則ニ原因スル責任ハ雇主ニ歸スヘキモノニアラスシテ犯則者自身ニ歸スヘキモノナルコト前記法條ノ精神ヨリ推シテ寔ニ明瞭ナレハ原院カ本件ニ付所論ノ法條ヲ適用セスシテ被告等ニ對シ同法第二條及第二十二條第一項ヲ適用處斷シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ其理由ナシ辯護人高木益太郎辯明書ハ一、(前略)本件被告星野鯨次郎及ヒ伊藤甚五郎ニ對スル收稅官吏ノ尋問調書ヲ査閱スルニ收稅官吏今井國太郎平塚竹次郎安東勇三郎ノ署名捺印アリト雖モ何人カ尋問ヲ爲シタルカ若クハ共同シテ尋問ヲ爲シタルカ否及何人カ調書ヲ作成シタルカ換言スレハ調書作成ニ付責任ヲ負フヘキ者ハ何人ナルヤヲ知ルニ由ナキノミナラス立會人無ク從テ立會人ノ署名捺印ヲ欠缺シタル尋問調書

ニシテ前掲國稅犯則者處分法第十條ニ違犯スル違法ノ調書ナルニモ不拘原審ニ於テ之ヲ採テ
 斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○所論ノ尋問調書ニ收稅官吏數名
 ノ署名捺印アル以上ハ是レ即チ右等署名ノ收稅官吏共同ニテ尋問及調書ノ作成ヲ爲シタルモ
 ノト云フヘク從テ調書作成ニ付テノ責任モ亦共同ノ責任タルコト當然ニシテ而シテ斯ク共同
 ニテ尋問シ並ニ調書ヲ作成スルコトハ法律ノ禁スル所ニアラサルコトハ此點ニ關スル法條タ
 ル間接國稅犯則者處分法第十條中收稅官吏ノ人員ニ付何等制限ヲナシタル廉ナキニ依リテ見
 ルモ明ナレハ右尋問調書ニ對スル此點ノ論旨ハ其理由ナシ

○收稅官吏カ間接國稅犯則者處分法第十三條但書ノ事由アリトシテ告發ヲ爲シタル場合ニ其
 書面上右ノ規定ニ依據セシモノナルコトヲ見ルニ足ルヘキトキハ其告發ハ有効ナリトス而
 シテ該官吏ノ認定シタル事由ハ必スシモ一々之ヲ明示スルノ要ナシ

○酒類販賣者ノ雇人カ主人ノ爲メニ濁酒ヲ密造シタル所爲ハ其販賣ノ業務ニ關シテ犯シタル
 所爲ト謂フコトヲ得サルモノトス (明治三十七年八月二十三日)

被告共辯護人卜部喜太郎高橋安爾上告趣意辯明書ハ「第一點酒造稅法違犯事件ニ付テハ間
 接國稅犯則者處分法第十三條但書ノ各號ニ該當スル場合ノ外所轄稅務署長ニ非サレハ告發ヲ
 爲スノ權限ナキハ同法及明治三十五年十月勅令第二百五十五號ノ明定スル所ナリ而シテ犯則
 事件カ間接國稅犯則者處分法第十三條但書ノ場合ニ該當スルヤ否ノ事實理由ニ至リテハ收稅
 官吏ノ認定ニ一任スヘキハ相當ナリト雖モ收稅官吏カ同法第十三條但書ノ場合ニ該當スルモ
 ノト認メテ自ラ告發ヲ爲スニ其告發書中ニ事件カ但書ノ第一號乃至第三號ノ何レニ該當スル
 コト及其但書ニ該當スヘキ例外ノ場合ト認メタル事實理由ヲ明示セサルヘカラス然ラサレハ
 第十四條ノ本則ハ常ニ橫暴ナル收稅官吏ノ爲ニ破ラレテ其適用ヲ見サルニ至ルヘク遂ニ本則
 ト例外トノ法ノ規定ヲ顛倒スルノ奇觀ヲ呈スヘキナリ竊テ本件收稅官吏ノ告發書ヲ閱スルニ
 明治三十六年五月十二日附收稅官吏稅務屬石神賴介外三名ノ差出シタル書面ニハ單ニ「以上
 間接國稅犯則者處分法第十三條ニ依リ稅務署長ニ報告スヘキノ處證據埋滅ノ恐アルニ付同條
 但書ニ依リ云々及告發候也トアリ又明治三十六年六月十二日附收稅官吏石神賴介外二名ノ告
 發書ニハ「以上間接國稅犯則者處分法第十三條但書ニ依リ云々及告發候也」トノミアリ同法

第十三條但書ノ各號ニ該當スヘキ事實理由ハ毫モ示シタルモノナシ然レハ該告發書ニテハ果シテ收稅官吏カ例外ノ場合トシテ直ニ告發ヲ爲シ得ル事件ナルヤ否ヲ知ルニ由ナク右二通ノ告發書ハ間接國稅犯則者處分法第十三條但書ニ依レル適法ノ告發ト謂フヘカラス斯ク論シ來レハ本件ニ關シテハ法律ノ規定ニ依レル適法ノ告發ナキコト極メテ明白ナリ酒造稅法違反事件ニ付テハ適法ナル告發ヲ待ツニ非サレハ公訴ヲ提供スルコトヲ許サルハ法ノ命スル所ナレハ本件收稅官吏ノ告發ニシテ既ニ適法ナラストスレハ檢事ノ公訴モ亦適法ナラサルコト言フ俟タス原院カ斯ル不適法ナル公訴ヲ受理シテ本案ノ判決ヲ爲シタルハ違法ノ處置ナリト云フニ在リ○然レトモ間接國稅犯則者處分法第十三條但書ノ規定ハ必要ノ場合ニ於テ收稅官吏ニ直接ニ告發ヲ爲スノ權ヲ與ヘ以テ收稅ノ處分ヲ爲サシムルノ目的ニ出ツルモノナレハ其該條但書ニ規定スル特別ノ事由存スルヤ否ヤノ點ハ固ヨリ當該收稅官吏ノ認定權ニ一任スルヲ以テ收稅官吏カ該條但書ノ事由アリトシテ告發ヲ爲シ而シテ其告發ハ右但書ノ規定ニ依リタルモノナルコトヲ見ルニ足ルヘキ場合ニハ其告發ハ有効ニシテ必スシモ收稅官吏カ一々其認定シタル事由ヲ告發書ニ明示スルヲ要スルモノニ非ス而シテ本件告發書ニハ何レモ間接國稅犯則者處分法第十三條但書ニ依リ告發スル旨ノ記載アリテ收稅官吏石神賴介等カ該條但書規定ノ事由アリト認定シ緊急ノ必要アリトシテ告發シタルコト明ナルヲ以テ右ノ告發ハ有効ニシテ隨テ當該檢事カ之ニ基キ公訴ヲ提起シタルハ適法ナルノミナラス原院カ右告發書ヲ斷罪ノ證據トシテ採用シタルハ毫モ違法ニアラス第一、二點論旨ハ其理由ナシ」第三點星野源太郎ニ對スル原院判決ノ第一ノ事實認定ニ依レハ被告源太郎ハ酒類販賣業者タル小谷義太郎方

ニ同居シ義太郎ノ酒類販賣業ニ從事中義太郎方ニ於テ無免許ニテ濁酒ヲ製造シタリト云フニ在リ而シテ其所爲ハ義太郎ノ爲メニ之ヲ行ヒ製造ノ濁酒ハ悉ク義太郎ノ計算ヲ以テ販賣シタルコト原院カ第一ノ事實ヲ認定シタル證據ノ說明ニ依リテ明白ナリ然レハ假ニ原院判決ノ如キ事實アリトスルモ酒造稅法第三十二條ヲ適用シテ處分スヘク同法第二十二條ノミヲ適用シテ被告源太郎ヲ處罰シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在リ○然レトモ酒造稅法第三十二條ハ酒類製造業者ノ代理人戶主家族同居者雇人其他ノ從業者又ハ酒類販賣業者ノ代理人戶主家族同居者雇人從業者等カ各其業務ニ關シ稅法違反ノ所爲アル場合ニ其責任者ヲ定メタルモノナルヲ以テ其製造若ハ販賣ノ業務ニ關シテ違犯ノ所爲アルニアラスンハ其營業主ニ責任ヲ負ハシムル能ハサルモノトス而シテ酒類ヲ製造スルコトハ之ヲ販賣スル業務ニ關係スルモノニアラサルニヨリ義太郎ノ販賣業務ヲ擔任中ニ於テ被告源太郎カ濁酒ヲ密造シタル所爲ハ販賣ノ業務ニ關シ犯シタル所爲ニ非スシテ單純ナル稅法第二十二條ノ違犯行為ナルヲ以テ稅法第三十二條ニ依リ營業主ニ責任ヲ負ハスヘキモノニ非ス故ニ原院カ被告源太郎ノ第一ノ所爲ニ對シ稅法第二十二條ヲ適用シタルハ相當ニシテ原院判決ハ論旨ノ如キ擬律ノ錯誤ナシトス

○苟モ免許ヲ受ケスシテ酒母又ハ醱ヲ製造スルモノハ酒類製造中其酒母醱又ハ酒類ノ如何ナル程度ニアルヲ問ハス發覺シタル製造中ノ程度ニ從ヒ處斷スルノ法意ナリトス(明治三十七年八月二十九日)

辯護人阿曾沼恒齋上告辯明書ノ第一點ハ原判決ハ酒造稅法ヲ不當ニ適用シタル違法アリ其故ハ(一)同法第二條第二十二條ハ酒類製造ヲ爲サルモノニ適用スヘキモノニ非サルハ同法第二十三條ニ照シ論ヲ俟タサル所ナリ然ルニ被告ノ如キ酒類製造者ニ非サル者ニ同法第二條第二十二條ヲ適用セラレタルハナリ(二)同法第二十二條ノ精神ハ酒類ニ非スト雖モ酒母又ハ醱ヲ製造スルニ止マル者ニ適用スヘキモノニシテ酒類ヲ製造スル豫備ノ行爲タル場合ニ適用スルノ限リニ非ス然ルニ原院カ被告ノ意思ハ酒類ノ製造ニ在ルヤ否ヤヲ定メスシテ同條ヲ適用セラレタルハ不法ナリ(三)同法第二十二條ハ酒母ト醱ヲ同時又ハ意思繼續シテ製造シタル場合(本被告事件ノ場合)ニハ一罪トシテ處罰スヘキモノナルニ原院カ別々ニ處斷セラレタルハ不當ナリト云ヒ」第二點ハ原院ハ本件ノ酒母及醱ノ密造ヲ二罪トシテ處斷セラレタルトモ畢竟酒母ハ醱ノ原料ニ過キス差押當時酒母トシテ存在セシハ時期ノ然ラシムル所ナリ蓋シ醱ハ酒母ヨリ成ルコトハ原院モ認メラレタル事ハ相被告源太郎ノ訊問調書中「並ニ醱ハ昨年舊二月五日頃蒸米二斗麴一斗二升水三斗六升ニテ酒母ヲ作り其後二月二十四日蒸米麴及水ニテ初添シ其後云々」ノ部ヲ援用セラレシニヨリ明瞭ナリ左スレハ酒母ハ性質醱ノ半製品ナリ被告ノ意思繼續(製造年月同シキヨリ推測スルモ然リ)ノ場合ハ特ニ然リトス然ルニ原院カ酒母ト醱トノ製造ヲ別箇獨立ノ犯罪トセシハ酒造稅法違反ヲ免レサルナリト云フニ在リ○然レトモ酒造稅法第二十三條ハ同法第二十一條ノ犯罪行爲即チ酒類ヲ製造セサル者ノ製造シ

タル醱ニ付讓渡其他ノ行爲アリタルトキ之ヲ罰スルカ爲メノ法條ニシテ本件ノ如ク免許ヲ受ケスシテ酒母又ハ醱ヲ製造シタル場合ニ適用スヘキモノニアラス而シテ同法第二十二條ハ酒類ヲ製造スル者ト製造セサル者トヲ區別セサルノミナラス酒類ヲ製造セサル者カ免許ヲ受ケスシテ酒母醱又ハ酒類ヲ製造シタル場合ハ同法條ヲ措テ他ニ之ヲ處斷スヘキ法條アラサルヲ以テ同法條ハ免許ヲ受ケスシテ酒母醱又ハ酒類ヲ製造シタルトキハ其酒類ヲ製造スル者ノ所爲ニ出タルト酒類ヲ製造セサル者ノ所爲ニ出タルトヲ論セス共ニ適用スヘキ法條ナリト解セサルヘカラス故ニ原判決カ本件ノ事實ニ對シ同法第二條第二十二條ヲ適用シタルハ相當ニシテ其第一ハ理由ナシ又同第二十二條ヲ按スルニ同條ハ酒母又ハ醱ヲ製造スルモノハ其目的單ニ酒母又ハ醱ヲ製造スルニ止マルモノト進ンテ酒類ヲ製造セムトスルニアルモノトヲ區別セサルカ故ニ酒類製造中其酒母醱又ハ酒類ノ如何ナル程度ニアルヲ問ハス發覺シタル製造中ノ程度ニ從ヒ處斷スルノ法意ナリト解スヘキヲ以テ免許ヲ受ケスシテ酒母又ハ醱ヲ製造シタル事實ヲ認メタル以上ハ直チニ同法條ヲ適用シ得ヘク其目的ノ更ニ進テ酒類ヲ製造スルニ在ルヤ否ヲ確定スルノ要ナシトス故ニ其第二ハ理由ナシ又同第二十二條ハ前段説明スル如ク發覺シタル製造ノ程度ニ從ヒ適用スヘキモノナルカ故ニ醱ノ製造ニ對シ同條ヲ適用スルニ當リ其製造經過ノ初メニ溯リ更ニ酒母ノ製造ニ對シテ同條ヲ適用スヘカラサルハ誠ニ上告論旨ノ如シト雖モ原判決カ認メタル事實ニ據レハ上告申立人カ免許ヲ受ケスシテ製造シタル酒母及醱ハ其製造ノ時ト場所ヲ異ニシテ全ク別箇ノ製造ニ係ルモノナレハ同一製造ノモノトシテ一罪ニ論スルヲ得ス故ニ其第三モ亦理由ナシ

○膠ヲ差押ヘテ封印ヲ施シタルトキハ其容器モ亦封印ノ一部ヲ成スモノトス從テ容器自体ニ孔穴ヲ穿チ之ヲ破壞シタル以上ハ假令其封印ノ紙片ニハ何等破壞除去ノ所爲ナキモ刑法第百七十四條ノ犯罪ヲ構成ス (明治三十七年九月八日)(明治三十七年十二月一日)

上告趣意擴張書第一點原審ニ於テ被告三名共謀シ權七ニ對スル罪證ヲ湮滅セシムル爲メ同日ヨリ同三十七年一月二十四日迄ノ間ニ於テ右二個ノ酒樽ニ各一箇ノ孔穴ヲ穿チ其中ニ醋酸ヲ注入シタルモノト認定シ刑法第百七十四條ヲ適用シタルモ封印破壞罪ハ封印其物ニ物質的損害ヲ與ヘ是カ効用ヲ失ハシメタル場合ニ於テ始メテ成立スヘキ犯罪タルヲ無視シタル不法アルモノナリ本件ノ如キハ封印其物ニハ異狀無キノミナラス在中ノ膠自体亦變質セサル場合ナルヲ以テ元ヨリ犯罪ノ成立スヘキモノニアラサルナリト云フニ在リ○因テ按スルニ刑法第百七十四條ノ犯罪ハ物件ニ施サレタル封印ヲ破壞スル所爲ヲ要シ之レカ推論ノ結果トシテ假令封印ヲ施サレタル物件ヲ破壞若ハ盜取スルモ封印ノ實質ニ對シ破壞ノ所爲ナクシテ同條ノ犯罪ヲ構成セサルコト寔ニ所論ノ如シ然レトモ原判決力認メタル事實ニヨレハ本件封印ノ目的物ハ膠ニシテ容器ノ之ヲ保持スルモノナクシテハ其封印ノ目的ヲ達スル能ハサルコトハ自明ノ事實ナルカ故ニ膠ノ容器ハ膠ニ施サレタル封印ノ一部ヲ爲シタルモノト論セサルヲ得ス隨テ所論膠樽ニ施サレタル封印ノ紙片ニハ何等破壞除去ノ所爲ナカリシトスルモ封印ノ一部ヲ爲シタル酒樽自体ニ孔穴ヲ穿チ以テ之ヲ破壞シタル以上ハ即チ封印ヲ破壞シタルモノニ外ナラサルヲ以テ原判決力之レニ對シ刑法第百七十四條ヲ適用シタルハ相當ナリトス本論旨ハ理由ナシ

○酒精及酒精含有飲料税法第四條ニ所謂清酒濁酒等ハ純粹ノ清酒濁酒等ヲ指稱シタルモノニシテ之ヲ基礎トナシ他ノ物品飲料ヲ混和シテ製造シタル不純粹ノ飲料ヲ包含スルコトナシ

○清酒濁酒白酒味淋等ヲ基礎トシ他ノ物品ヲ混和シテ特殊ノ飲料ヲ製造セムトスル者ハ既ニ基本タル酒類ニ付キ製造ノ免許ヲ受ケ納稅ノ義務完了シタル場合ト雖モ尙ホ酒精及酒精含有飲料税法ノ規定ニ從ヒ別ニ政府ノ免許ヲ受ケ且同法所定ノ造石稅ヲ納付セサルヘカラス

(明治三十七年九月十九日)

上告趣意書ノ第一點ハ原判決ハ法則ヲ不當ニ適用シタル不法アリ本件被告ノ第一ノ所爲ハ酒精及酒精含有飲料税法第一條第四條ニ依リ同法ヲ適用スヘキモノニアラス然ルニ原院ハ葡萄酒ヲ原料トナシ之ニ酒精ヲ混入シ或ハ砂糖其他ノ藥品ヲ混和シ純酒精含有量二十箇未滿ノ飲料三十八石二斗ヲ製造シタリトシ同法第十五條ヲ適用シタルハ不當ナリ(甲)酒精及酒精含有飲料税法ハ混成酒税法ヲ改正シタルモノニシテ舊法第二條ニハ前掲葡萄酒ニ酒精ヲ混和シタル事實カ若シ免許ヲ受ケサルトキハ同法ノ違犯タルコトハ勿論ナルモ新法ニ於テハ其第一條ニ酒精及酒精含有飲料ニハ本法ニ依リ造石稅ヲ課ストアリ第十五條ニハ免許ヲ受ケスシテ酒精及酒精含有飲料ヲ製造シタル云々トアリテ同法ノ適用セラル、場合ハ酒精及酒精含有スル飲料ヲ製造シタルトキニ在リ而シテ其立法ノ精神ヲ探討スルトキハ一ハ酒造税法ト相俟テ通稅ヲ豫防スルト一ハ徵稅ノ目的ニ存スルコトハ其法規自体ニ於テ明ナルカ故ニ本件第一ノ事實ノ如ク葡萄酒ニ酒精ヲ混和シタル場合ニ於テ葡萄酒モ既ニ課稅セラレ酒精モ亦既ニ課稅セラレ居ルヲ以テ此等物品ヲ混和スルモ毫モ通稅ノコトナク又徵稅ノ目的ニ反スルコト

ナキヲ以テ此事實ニ對シテハ同法ハ適用セラルヘキモノニアラス加之其立法ノ沿革ニ於テモ亦舊法ハ酒類ニ酒精ヲ混和スル事實ニ對シテモ課稅シタルカ新法ハ之ヲ廢シ酒精及酒精含有ノ飲料ノミニ限定シタルニ徵スルモ本件第一ノ所爲ノ如キ既製ノ酒精既製ノ葡萄酒ヲ混和シタル場合ニ適用スヘカラサルコトハ明ナリ然ルニ原院カ既ニ課稅セラレ居ル含有酒精ニ對シ更ニ課稅スヘキモノト解釋シ其所爲カ免許ヲ受ケサルカ故ニ同法ノ違犯ナリトシタルハ法則ヲ不當ニ適用シタル不法アルヲ免レス本件第二ノ所爲ニ對シテモ亦同様不法アルヲ免レスト信スト云フニ在リ○依テ按スルニ酒精及酒精含有飲料稅法第一條ニハ「酒精ヲ含有スル飲料」トアルヲ以テ人ノ飲用ニ供スルカ爲メニ製造セラレタル料品ニシテ苟モ酒精ヲ含有スルモノハ總テ其中ニ包含スヘク其飲料カ純然タル酒精ヲ基礎トシテ製造セラレタルト酒精ヲ含有スル所ノ酒類ヲ基礎トシテ製造セラレタルトハ之ヲ問フノ必要ナシ何トナレハ法律ハ前示ノ如ク「酒精ヲ含有スル飲料」ト一般的ニ規定シ其間ニ區別ヲ設ケサルヲ以テナリ但シ同法第四條ニハ「清酒濁酒味淋燒酎麥酒及葡萄酒ヲ以テ釀造シタル葡萄酒ニハ本法ヲ適用セス」トアリ蓋シ是等酒類ハ其性質ニ於テハ酒精ヲ含有スル飲料ニシテ第一條ノ飲料中ニ當然包含セシムヘキモノナレトモ第四條ノ特別規定ヲ以テ第一條ノ飲料中ヨリ除外シタルモノニ外ナラス然レトモ第四條ニ所謂清酒濁酒等ハ純粹ノ清酒濁酒等ヲ指シタルモノニシテ清酒濁酒等ヲ基礎トシ他ノ物品飲料ヲ混和シテ製造シタル不純粹ナル飲料ヲ其中ニ包含セサルコトハ第四條ノ主旨ニ徵シテ明ナリ何トナレハ前記第四條ノ法文ハ清酒濁酒其他ノ酒類其モノニハ本法ヲ適用セストノ意義ニ解スヘク清酒濁酒其他列舉ノ酒類ヲ包有スル飲料ニハ本法ヲ適用セスト

ノ趣旨ニ解スヘカラサルハ文理上疑ヲ容レサルヲ以テナリ果シテ然ラハ製造人カ單ニ清酒濁酒白酒味淋燒酎麥酒葡萄酒ヲ製造シタルニ止マラスシテ之ヲ基礎トシ他ノ物品ヲ混シテ特種ノ飲料ヲ製造セムトスルニハ既ニ基本タル酒類ニ付キ製造ノ免許ヲ受ケ納稅ノ義務ヲ完了シタル場合ト雖モ尙且酒精及酒精含有飲料稅法ノ規定ニ從ヒ別ニ政府ノ免許ヲ受ケ且ツ同法ニ定ムル造石稅ヲ納付スルノ義務アルヤ明ナリ假リニ本件ノ葡萄酒ニ對シテハ既ニ相當ノ稅金ヲ賦課セラレタルコトハ所論ノ如クナリトスルモ被告カ無免許ニテ其葡萄酒ニ他ノ物品ヲ混和シ酒精含有飲料ヲ製造シタル所爲ハ酒精及酒精含有飲料稅法第十五條ニ該當シ同條ニ定ムル刑罰ノ制裁ヲ辭スルコトヲ得サルヤ明ナリ左レハ原院カ右ノ事實事由ニ基キ被告ニ刑ヲ言渡シタルハ相當ニシテ論旨ハ理由ナシ

○所遺諸事類並其件ノ詳文ニ付モ單ニ不五ノ年製マ以テ酒類ノ賣買ニ對シテ同法ノ規定ニ從フコトハ明ナリ然レバ被告ノ行為ハ同法ノ規定ニ違反スルコトハ明ナリ且ツ被告ノ行為ハ同法ノ規定ニ違反スルコトハ明ナリ且ツ被告ノ行為ハ同法ノ規定ニ違反スルコトハ明ナリ

○酒造稅法違犯事件ノ判文ニ於テ單ニ不正ノ手段ヲ以テ清酒ノ査定ヲ免レト記載シ被告カ如何ナル手段ヲ以テ其査定ヲ免レタルヤヲ明示セサルトキハ犯罪事實ニ付キ理由不備ノ違法アリトス (明治三十七年九月二十日)(明治三十年八月十八日)

上告趣意書ハ原裁判所ニ於テハ第一明治三十六年十一月十四日ヨリ同三十七年一月八日迄ノ間ニ於テ廣島縣安藝郡坂村ナル被告ノ酒造場ニ於テ不正手段ヲ以テ清酒四斗一合ノ査定ヲ免レ第二明治三十七年一月十二日ヨリ同年二月二十四日迄ノ間ニ於テ前同所ニ於テ不正手段ヲ以テ清酒三石八升一合ノ査定ヲ免レタリトナシ如何ナル手段ヲ以テ査定ヲ免レタルヤノ事實ヲ確定セラレス然レトモ單ニ不正手段ヲ以テ査定ヲ免レタリトノミアリテハ其査定ヲ免レタルヤ否ヤノ事實ヲ調査スルコト能ハサルノミナラス上告人ハ原院審理前明治三十六年十一月十四日ヨリ同三十七年一月八日迄ノ間ニ於テ四斗一合明治三十七年一月十二日ヨリ同年二月二十四日迄ノ間ニ於テ三石八升一合ノ餘分ノモノアル理由ヲ發見シタリ即チ容器ノ現在ノ容量ト検査官カ石數ヲ算出セラレタル帳簿上容器ノ寸ト相違アリテ現在ノ容量ニ比スレハ多數ノ石數ヲ容ル、コト、ナリ從テ藏出丈ケ差引計算上餘分ノ清酒アルコトニナレリ依テ此點ヲ以テ容器ノ檢證ヲ申出タレトモ原裁判所ハ之ヲ排斥セラレタリ是レ被告カ無罪タルコトヲ立證スル唯一ノ證據ヲ排斥セシモノニシテ殊ニ第一審裁判所カ犯罪ヲ認メラレタルモ亦計算上ヨリ相算シテ四斗一合ト三石八升一合餘外ノ清酒アル點ヨリ推測シテ査定ヲ免レタリトセラレタルモノナレハ其犯罪ナリト認ムル基點ニ誤アリトスル上ハ之ヲ審究セサレハ果シテ犯罪ナルヤ否ヤヲ知ルコト能ハサルヘキニ右ノ如ク漠然不正手段云々ト説明シ査定ヲ免レタル

モノナリトセラレシハ失當ノ判決ナリト云フニ在リ○因テ按スルニ證據調ノ程度ヲ定ムルハ原院ノ職權ニ屬スルヲ以テ原院カ被告ノ申請ニ係ル容器ノ檢證ヲ爲サルモ失當ニアラスト雖モ原判文ヲ查スルニ其第一第二ノ事實ニ付テハ何レモ單ニ「不正ノ手段ヲ以テ清酒云々ノ査定ヲ免レ」ト記載シタルノミニシテ被告カ如何ナル手段ヲ以テ清酒ノ査定ヲ免レタルヤ又被告カ用キタル手段カ果シテ不正ナルヤ否ヤ之ヲ監査スルニ由ナキヲ以テ原判決ハ犯罪事實ニ付理由不備ノ瑕瑾アル不法ノ判決ニシテ破毀ヲ免レサルモノトス

○書類物件等ノ差押ハ權限アル官吏カ其物件書類等ヲ取上ケ占有スルニヨリ効力ヲ生ス

(明治三十七年九月二十七日)

上告趣意第二點ハ假ニ本案被告ノ所爲ハ刑法第三百七十一條ニ該當スヘキモノナリトスルモ現行間接國稅犯則者處分法(第七條第十條)ニヨレハ收稅官吏犯則事實ヲ證明スヘキ物件ヲ差押ヘタルトキハ現場ニ於テ直チニ差押目錄ヲ作り且其顛末ヲ記載シテ立會人ト共ニ署名捺印スルコトヲ要スルヲ以テ未タ此ノ手續ヲ完了セサル間ハ其物件ニ對シ差押ノ効力ヲ生スヘキモノニアラス原院ノ認ムル本案事實ニヨレハ赤坂稅務屬ハ被告ニ對シ池田喜三次郎酒造稅法違犯嫌疑事件ノ證據物件トシテ被告所有ノ手帳ヲ差押フル旨ヲ告知シタル迄ニシテ前記ノ手續ニ付テハ其着手ヲモ爲サ、リシコト明確ナルヲ以テ被告ニ對スル手帳ノ差押ハ未タ何等ノ効力ヲ發生セサルモノト謂ハサルヘカラス從テ被告カ赤坂稅務屬ノ所持中ヨリ奪取スルモ竊盜罪ノ成立スヘキ理由ナシト云フニ在リ○審按スルニ書類物件等ノ差押ハ權限アル官吏カ其物件書類等ヲ取上ケ占有スルニヨリ効力ヲ生スルモノニシテ間接國稅犯則者處分法第七條第十條ニ於ケル差押目錄並ニ顛末書ノ作成ノ如キハ已ニ成立シタル差押處分ヲ明ニスヘキ手續上ノ規定ニ外ナラス故ニ赤坂稅務屬カ池田喜三次郎酒造稅法違犯事件ノ證據物件トシテ被告所有ノ手帳ヲ占有シテ之ヲ差押ヘル旨ヲ被告ニ告知シタル以上ハ其差押ノ効力ヲ生シタルヤ明白ナルヲ以テ差押目錄及顛末書ノ作成手續ヲ爲サ、ル場合ト雖モ被告カ其手帳ヲ竊取シタル以上ハ刑法第三百七十一條ノ竊盜罪ヲ構成スルハ勿論ナルニヨリ原判決ハ相當ニシテ上告論旨ハ理由ナシ

○酒精及酒精含有飲料稅法ハ酒精含有飲料ニ付其製造ノ原料ヲ限定セサルカ故ニ酒精ニ他物

ヲ混和スルト將タ酒精ヲ含有スル液体ニ他物ヲ混和スルトヲ問ハス苟モ免許ヲ受ケスシテ

酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造シタルトキハ同法第十五條ノ犯罪ヲ構成ス(明治三十七年十月四日)

上告趣意ハ明治三十四年法律第八號酒精及酒精含有飲料稅法ヲ一讀スルニ其法意タル純粹ノ酒精ニ清水其他或ル藥品等ヲ調和混成シ以テ一種ノ飲料ヲ製造シタル行爲ヲ制裁スルニ在ルモノト解釋セサルヘカラス蓋シ本法ハ彼ノ混成酒稅法ヲ改正シ新タニ名稱ヲ附シタルモノナルコトハ本法第二十六條ニ依リ之ヲ知ルヲ得ヘク要ハ一種清酒樣ノ飲料ヲ擬製シ以テ脫稅ヲ圖ルノ行爲ヲ豫防スルニ在ルカ故ニ清酒及ハ清酒ノ變味シタルモノニ他ノ藥品等ヲ施用シ之ヲ改善シタリトテ此種ノモノタル已ニ納稅ヲ了シアルヲ以テ所謂脫稅ノ事實ヲ生セサルカ故ニ毫モ制裁ヲ與フル必要ナキヲ知ルヘシ(中略)ト云フニ在リ○依テ按スルニ明治三十四年法律第八號酒精及酒精含有飲料稅法ハ酒精ヲ含有スル飲料ニ付其製造ノ原料ヲ限定セサルカ故ニ酒精ニ他物ヲ混和シテ製造スルト將又酒精ヲ含有スル液体ニ他物ヲ混和シテ製造スルトヲ問ハス苟モ免許ヲ受ケスシテ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スルトキハ之ヲ罰スル法意ナリト解セサルヲ得ス而シテ原判決ノ認メタル事實ニ依レハ上告申立人ハ酒精含有飲料製造ノ免許ヲ受ケスシテ火落清酒變味清酒ニ具殼灰アムモニア、柿澁、砂糖水、サツカリ、ホルマリン液等ヲ混和シテ之ヲ精製シ依テ酒精容量百分中十二箇乃至十六箇ヲ含有スル一種ノ酒精含有飲料ヲ製造シタリト云フニ在レハ之ヲ同法第十五條ニ問擬シタル原判決ハ相當ニシテ上告趣旨ハ其理由ナシ

○納稅者カ税金ノ逋脱ヲ圖リ其所有物ヲ賣却シ相手方ハ情ヲ知テ之ヲ買受ケタル場合ニハ納稅者ノ所爲ハ國稅徵收法第三十二條第一項ニ該當シ相手方ノ所爲ハ同條第三項ニ該當ス而シテ同法第十五條ハ政府ノ取消權ヲ規定シタルニ過キスシテ斯ノ如キ場合ニ第三十二條ノ適用ヲ妨クルモノニ非ス（明治三十七年十月二十日）

被告兩名辯護人宮古啓三郎ノ辯明書第一點ハ原判決ニ依レハ第一被告與三郎ハ明治三十五年第一期酒造税金八百六十七圓七十錢ヲ明治三十六年七月十四日限り納付スヘキ旨ノ告知書ヲ同年七月五日ニ受取リナカラ其期間内ニ納付セス滯納者ト爲リタル者ニシテ告知書ヲ受領シタルヨリ納期終了マテノ間ニ於テ該税金逋稅ヲ企テ意思繼續シテ（一）明治三十六年七月六日酒造用器具四十點疊障子等六點ヲ代金百五十圓ニテ被告峰吉ニ賣渡シ（二）同日風呂桶其他日用雜品六十餘點ヲ代金六十圓ニテ被告峰吉ニ賣渡シ同日中島福次郎ニ清酒二十駄ヲ代金四百圓ニテ賣渡シ（四）同月七日及ヒ九日ノ兩度ニ田中サダヘ燒酎二駄ト一挺ヲ代金七十圓ニテ賣渡シ以テ以上ノ財産ヲ脫漏シ第二被告峰吉ハ其情ヲ知リナカラ前記ノ如ク酒造器具日用品等ヲ同人ヨリ買受ケ其犯罪ヲ幫助シタリト云フニ在リ之ニ對シ與三郎ニハ國稅徵收法第三十二條第一項峰吉ニハ同條第三項ヲ適用シ處斷シタルモノナリ抑國稅徵收法第三十二條ニ存スル藏匿脫漏ノ意義ハ刑法第三百八十八條ニ存スル藏匿脫漏ノ意義ト異ナルコトナク而シテ此藏匿脫漏ノ意義タル共ニ債務者カ其財産ヲ之レ無キモノ、如ク裝フ行爲ヲ稱スルモノニシテ真正ノ法律行爲ヲ爲ス場合ニ其適用ヲ爲スヘキモノニアラス本件ニ於テハ被告與三郎カ總テ相當ノ代價ヲ以テ賣買ヲ爲シタルモノナルコトハ前記ノ如ク原院ノ認ムル所ナレ

ハ之ニ對シテ脫漏ノ法條ヲ適用シ得ヘキ筈ナシ此場合ニ於テハ國稅徵收法第十五條ノ規定ニヨリ其行爲ノ取消ヲ求メラルヘキノミ又被告ハ其情ヲ知テ之ヲ幫助シタリト云フモ是亦真正ノ賣買ヲ爲シタル當事者タルニ過キサレハ罪トナルヘキ謂ハレナシ然ルニ原院カ被告ノ所爲ハ總テ眞實ノ賣買ヲ爲シタルモノニシテ適法ナル法律行爲ヲ認メナカラ之ニ對シテ國稅徵收法第三十二條第一項竝ニ同第三項ヲ適用シ被告ヲ有罪ト判決シタルハ違法ノ裁判ナリト云フニ在リ○依テ原判決事實理由ノ部ヲ見ルニ原院カ被告等ノ犯罪行爲ナリトシテ記載スル所ノ事實ハ大要論旨ニ掲クル所ノ如シ然レトモ原院ハ被告與三郎峰吉ニ於テ原判文ニ載セタル各物件ノ賣買ヲ爲シタルハ所論ノ如ク兩名間眞正ノ法律行爲ヲ爲シタルモノニアラスシテ則チ與三郎ニ付テ之ヲ云ヘハ其賣却ノ行爲ハ税金ノ逋稅ヲ圖リシ結果タル財産ノ脫漏ヲ遂行スル手段又峰吉ニ付テ之ヲ云ヘハ其買受ケノ行爲ハ情ヲ知リテ與三郎ノ財産脫漏ノ所爲ヲ幫助スル手段ニ外ナラスト認メタルモノナルコトハ原判決事實理由ノ全體ヲ通讀シテ之ヲ見ルニ足ルヘケレハ要スルニ本件ニ對シテハ國稅徵收法第三十二條ヲ適用スルヲ相當トス何トナレハ同法第三十二條ヲ見ルニ其第一項ニハ滯納者（中略）其財産ヲ（中略）脫漏シタルトキハ云々トアリ又其第三項ニハ情ヲ知テ前二項ノ所爲（財産ノ脫漏其他）ヲ幫助シ（中略）タル者ハ云々トアリテ右被告等ノ所爲ハ恰モ該法條ノ正面ニ該レハナリ而シテ同法第十五條ハ同條ニ掲ケアル場合ニ政府ニ取消權アルコトヲ規定シタルニ止リ本件ノ如キ場合ニ同法第三十二條ノ適用ヲ妨クルモノニアラス故ニ原院カ被告與三郎ニ對シテハ同法第三十二條第一項被告峰吉ニ對シテハ同條第三項ヲ各適用處斷シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ其理由ナシ

○一事不再理ノ原則ヲ主張スルニハ當事者双方同一タルヘキハ勿論其目的ノ事物モ亦同一ニシテ先ノ裁判確定シタルコトヲ要ス (明治三十七年十月二十八日)(明治二十九年十二月二十四日)

上告第二點ノ要旨ハ特許局ハ本件登録商標ハ特許局審判番號第二百五十七號ヲ以テ特別著明ノ外觀ヲ有セサルモノトシテ登録拒絕セラレタルモノナルニ再ヒ之ヲ受理シ登録ヲ爲シタルハ一事不再理ノ原則ニ背反シタル違法アルモノナリト云フニ在リ○依テ此點ニ就キ記録ヲ調査スルニ上告人ノ引用スル審判番號第二百五十七號事件ト題スル審決ハ舊商標條例ノ下ニ審決セラレシモノニ係リ殊ニ其事物モ同一ナラス全ク別事件タルコトヲ原審カ認メタル顛末ハ上告第一點ニ對スル説明ニ依リ之ヲ會得スヘシ抑一事不再理ノ原則ヲ主張セムニハ當事者双方同一タルヘキハ勿論其目的ノ事物モ同一ニシテ先ノ裁判確定セシモノタルコトヲ要ス然ルニ審判番號第二百五十七號事件ト題スル審決ハ單ニ商標請求人タリシ被上告人カ審査官ノ拒絕査定ニ服セス其審査ノ當ヲ得タルヤ否ヤノ審判ヲ受ケタルニ止マリ當時上告人ハ之ニ與カリタルモノニアラス故ニ上告人カ單ニ同一事物タルコトヲ理由トシテ一事不再理ノ原則ヲ主張スルヲ得サルモノトス

○刑事訴訟法第二十五條及ヒ第二十六條ハ裁判所ノ管轄ニ關スル原則ヲ定メタルモノトス故ニ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ處分スヘキ犯罪ヲ除ク外如何ナル犯罪ト雖モ總テ此二條ニ依リ其管轄ヲ定メサルヘカラス

○刑事訴訟法第三十條ノ趣旨ハ海船内ノ犯罪ニ付キ裁判管轄ノ範圍ヲ擴張スルニ在リテ專屬管轄ヲ定メタルモノニ非ス (明治三十七年十一月一日)

(參照) 海船内ノ犯罪ニ付テハ定繫地又ハ犯罪後最初ニ着船シタル地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス(舊刑事訴訟法第三十條)

上告趣意書ノ要旨第一ハ第一審判決ニ依レハ本件犯罪ノ場所ハ西洋形天神丸蛭子丸船内ニシテ天神丸ノ定繫所ハ福岡縣三瀧郡青木村大字江島蛭子丸ノ定繫所ハ同縣同郡大川町ニシテ犯罪後最初ノ着船ハ長崎縣南高來郡島原町宇港ナリ故ニ本件犯罪ノ管轄ハ福岡又ハ長崎地方裁判所ニシテ佐賀地方裁判所ニアラサルコトハ刑事訴訟法ノ規定ニ徴シテ明ナリ然ルニ原院カ被告ヨリ管轄違ノ申立ヲ爲シタルニ管轄違ノ判決ヲ爲サス之ヲ却下シタルハ不當ナリ(中略)ト云フニ在リ○因テ按スルニ刑事訴訟法第三十條ニハ「海船内ノ犯罪ニ付テハ定繫港又ハ犯罪後最初ニ着船シタル地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス」トアリ此條文ニ依リテ之ヲ見レハ海船内ノ犯罪ニ付テハ定繫港又ハ犯罪後最初ニ着船シタル地ノ裁判所ヲ以テ專屬管轄ト爲シタルカ如キ觀ナキニアラスト雖モ裁判所ノ管轄ニ付テハ事物ノ管轄ト土地ノ管轄トノ二種アリテ前者ニ付テハ刑事訴訟法第二十五條ニ之ヲ規定シ後者ニ付テハ同法第二十六條ニ之ヲ規定セラレタリ之ヲ換言セハ刑事訴訟法第二十五條及ヒ第二十六條ハ裁判所ノ管轄ニ關ス

○間接國稅犯則者處分法第二條ハ包括的ニ收稅官吏ノ搜索權ヲ認メ搜索ノ方法ニ付キ何等ノ制限ヲ付セザレハ收稅官吏ハ家宅内ノ或場所ナルト其住居人ノ身體タルトヲ問ハス藏匿セラレタル證憑物件ノ所在ニ就テ搜索ヲ爲シ得ヘキモノトス（明治三十七年十一月七日）

被告辯護人岩田宙造上告趣意辯明書ノ第一點原判決ハ擬律錯誤ノ不法アルモノナリ原判決ニ認メタル事實ニ依レハ稅務屬カ家宅搜索ノ執行中八次郎妻はつゑナル者密ニ澁紙貼小箱入ノ帳簿ヲ懷中ニ隱匿セシヲ發見シ之ヲ押收セムト爲シタル際被告ハはつゑニ助勢シ右押收ヲ妨ケタルモノナリ則チ被告ハ稅務屬カ間接國稅犯則者處分法ニ依リ家宅搜索執行中強力ヲ以テ人ノ身體ヲ搜索セムトスル行爲ヲ妨ケタリト云フニ在リ然レトモ家宅搜索ハ刑事訴訟法ニ於ケル第五條ノ如ク明文アルニ非サレハ必スシモ當然身體ノ搜索權ヲ包含スルモノニ非サルヤ論ナシ然ルニ右處分法ニハ身體ノ搜索權ヲ認メタル規定ナク從テ收稅官吏カはつゑノ身體ヲ搜索シ之ヲ強制シテ其身ニ付ケタルモノヲ奪ハムトシタルハ職權外ノ行爲ニシテ正當ノ職務執行ト云フヘカラス故ニ之ヲ妨ケタル行爲ヲ以テ直ニ刑法第三百九條ニ問擬シタルハ到底擬律ノ錯誤タルヲ免レサルヘシト云フニ在レトモ○間接國稅犯則者處分法第二條ニ「收稅官吏ハ犯則事實ヲ證明スヘキ物件帳簿書類等ヲ藏匿スト認ムル場所ニ臨檢シ搜索ヲ爲スコトヲ得」トアリ法律ハ一般的ノ文詞ヲ用キテ包括的ニ搜索權ヲ收稅官吏ニ認メ搜索方法ニ付テハ何等ノ制限ヲ附セサルヲ以テ收稅官吏ハ藏匿セラレタル證憑物件ノ所在ニ付キテ搜索ヲ爲スコトヲ得ヘク其物件ノ藏匿シアルハ家宅ノ或場所ナルト其住居人ノ身體タルトハ之ヲ問フコトヲ要セサルモノト解釋スヘク本件ノ如ク犯罪ノ證憑トナスヘキ物件ヲ人ノ懷中ニ藏匿

シタル場合ニ於テハ懷中所在ノ物件ニ付キ押收ノ手續ヲ爲スコトヲ得ヘキハ勿論ニシテ其物件カ人ノ懷中ニ存在スルノ故ヲ以テ拱手傍觀シテ之ヲ不問ニ付スヘキモノニアラス况ンヤ本件搜索ノ目的タル澁紙貼小箱入ノ帳簿ハ始メヨリ市川八次郎妻ノ懷中ニアリタルニアラスシテ同人ハ收稅官吏タル木村寅之助等カ既ニ搜索ノ執行ニ着手シタル後ニ於テ其執行ヲ免ル、目的ヲ以テ該帳簿ヲ懷中ニ隱匿シタルモノナルコトハ原院ノ認ムル所ノ事實ナレハ之ヲ押收スルハ其職務當然ノ措置ニ屬シはつゑノ身體ニ對スル搜索ノ處分ヲ必要トスルニ至リタルハ不法ニ其執行ヲ免レムトシタルはつゑガ自ラ招キタル結果ニシテ收稅官吏ハ其執行處分ニ對シテはつゑノ爲シタル妨害行爲ヲ排斥シ其執行手續ヲ完了セムト試ミタルニ過キサルヲ以テ之ニ對シテ不服ヲ唱フルコト能ハサルニ於テオヤ故ニ本論旨ハ謂ハレナシ

○執達吏代理カ債権者ノ委任ニ基キ債務者ノ住所ニ臨ミ其所有ニ係ル金庫ノ開扉ヲ命シタルモ之ヲ開扉スル能ハサルヨリ後日ノ取調ヲ保全スル爲メ該金庫ニ封印ヲ施シタルトキハ既ニ強制執行ニ着手シタルモノニシテ其封印ハ執達吏ノ職務上當然爲シ得ヘキ必要ノ行爲ナリトス故ニ惡意ヲ以テ之ヲ破棄シタル所爲ハ封印破毀罪ヲ構成ス (明治三十七年十一月十日)

檢事長代理檢事奥村靖上告趣意書ハ本件公訴事實ハ全部原判決ノ認ムル所ニシテ無罪ノ理由ハ執達吏ハ封印其他ノ方法ヲ以テ差押ヲ爲ス權限アルモ直チニ差押ヲ爲スコト能ハサル場合ニ差押フヘキ財産ヲ保全スル爲メ豫メ封印ヲ爲シ得ル權限ナキヲ以テ本件封印ハ權限外ノ行爲ニシテ之ヲ破毀スルモ罪トナラスト云フニ外ナラス執達吏ハ直チニ差押ヲ爲スコト能ハサル場合ニ差押フヘキ財産ヲ保全スル爲メ封印ヲ爲シ得ル權限ヲ有スルヤ否ヤハ刑法ノ解釋問題ニアラスシテ執達吏規則及民事訴訟法上ノ問題ナリ故ニ布符類推ハ解釋上禁止セサル所ニシテ法令ニ明文ナキヲ以テ執達吏ハ封印スル權限ナシト輕斷スルヲ得ス法令ニ何等ノ規定ナキモ官吏ハ法令ニ規定アル場合ノ外尙職務執行上必要ナル行爲ヲ爲シ得ル權限ヲ有スルコトハ貴院判例ノ認ムル所ナリ (明治三十二年四月十八日明治三十五年六月十二日明治三十六年六月十二日宣告貴院判決參照) 而シテ執達吏ハ本件ノ場合ノ如ク金庫内ノ有体動産ヲ差押フルニ當リ鍵ヲ紛失シ又ハ隱蔽セラレ之ヲ開クコト能ハサル場合ニ鍵ヲ發見シ若クハ合鍵ヲ調製スルニ至ルマテ之ニ封印スルニアラサレハ差押ノ目的ヲ達スルコト能ハサルヲ以テ封印ハ職務執行上必要ノ行爲ナレハ既ニ差押ノ權限ヲ有スル以上ハ當然必要ナル手段方法ヲ爲シ得ル權限ヲ有スルモノト推論セサルヘカラス若シ法令ニ明文ナシトノ理由ニ基キ之ヲ否認セ

ハ執達吏差押ヲ爲スカ爲メ債務者ノ意思ニ反シ其家宅ニ這入シ物品ノ搬出隱匿ヲ禁止シ居室容器ノ鎖鑰ヲ破壊シテ内部ヲ調査シ人身ヲ拘束シテ携帶物品ヲ搜索スルカ如キ權限モ亦之ヲ否認セサルヘカラス果シテ然ラハ執達吏ハ債務者ノ承諾ナキ場合ハ差押ヲ爲スコト能ハサル結果ヲ生スヘシ巡查憲兵卒ハ現行犯タル事實ヲ保存スル方法ヲ強制シテ爲シ得ル權限ヲ有スルコト前掲貴院判例ノ認ムル所ナルノミナラス豫審判事ハ檢證搜索及物件ノ差押ヲ爲スニ當リ法令ニ何等ノ規定ナキモ居室容器ノ鎖鑰ヲ破壊シテ内容ヲ調査シ又ハ一時封印ヲ爲シテ調査スヘキ場所物件ヲ保全スル權限ヲ有スルカ如キハ何人モ之ヲ疑フモノナシ前述スルカ如ク執達吏ハ差押ノ爲メ必要ナル場合ハ豫メ封印ヲ爲シ差押フヘキ財産ヲ保全スル權限ヲ有スルコトハ明瞭ナルニ關セス原判決ハ必要ナルト否トヲ問ハス全ク權限外ノ行爲ニシテ刑法第百七十四條ノ犯罪ヲ構成セサルモノト判定シタルハ擬律ノ錯誤アル不法ノ判決ナルヲ以テ原判決ヲ破毀シ更ニ相當ノ裁判相成度シト云フニ在リ○依テ按スルニ執達吏ハ強制執行ノ機關トナリシ場合ニ於テハ適法ニ其職務即チ執行行爲ヲ爲スヘキ職責ヲ有スルコト勿論ナレハ苟モ其職責ヲ盡スカ爲メニ必要欠クヘカラス行爲ハ固ヨリ之ヲ爲スノ職權アルヤ明ナリ本件公訴ノ事實ハ執達吏代理溝口好高カ債権者長谷川竹次郎外一人ノ委任ニ基キ強制執行ノ爲メ債務者タル被告宅ニ臨ミ其所有ノ金庫内ヲ取調フル必要アルヲ認メ被告ニ開扉ヲ命シタルニ被告ハ金庫ノ鍵ヲ紛失シタリトテ開扉スル能ハサル旨ヲ申出タルヨリ溝口好高ハ已ヲ得ス後日ノ取調ヲ保全スル爲メ一條ノ繩ヲ金庫ニ廻ラシ扉ノ把手ノ所ニ結緊シ之ニ封印ヲ施シタルヲ被告カ其繩ノ一端ヲ切斷シ封印ヲ破毀シタリト云フニ在リテ果シテ右ノ如キ事實ナラハ

右執達吏ノ代理ノ爲シタル行爲ハ即チ強制執行ニ着手シタルモノニシテ換言スレハ有体動産ノ差押ヲ爲シ未タ其完了ニ至ラサル事實ニシテ執達吏代理ノ金庫ニ施シタル封印ハ執達吏ノ職務上當然爲シ得ヘキ必要ノ行爲ナレハ惡意ヲ以テ之ヲ破毀シタル者ハ即チ刑法第七十四條ノ制裁ヲ受ケサルヘカラス然ルニ原判決ハ公訴事實ノ如ク被告カ封印ヲ破毀シタルコトハ之ヲ認メ得ヘシト雖モ金庫内ニ物件ノ存否判明セス若シ在ラハ他日之レカ差押ヲ爲スノ便利ヲ慮リ其容器即チ金庫ニ封印ヲ施スカ如キハ法律上許容セラレタル適當ノ行爲ニアラス從テ該封印ハ官ノ封印トシテ有効ナラサルヲ以テ被告ハ刑法上制裁ヲ受クヘキノ理ナシト説明シ無罪ノ判決ヲ爲シタルハ不法ニシテ破毀ヲ免レサルモノトス

○免許ヲ受ケスシテ若干ノ酒精ヲ製造シタル事實アル以上ハ假令其數量僅少ナルモ五十圓ノ罰金ヲ免ル、コトヲ得ス故ニ密造ニ係ル酒精ノ數量明確ナラサル場合ニ於テ法定ノ最低罰金額五十圓ニ處シタルハ相當ナリ

○免許ヲ受ケスシテ製造シタル酒精ノ數量明確ナラサルカ爲メ法定ノ最低額ノ罰金ニ處スヘキ場合ニハ其酒精分ノ多寡ハ罰金ノ數額ニ何等ノ影響ヲ及ボサ、ルヲ以テ特ニ之ヲ判示スルノ要ナシ(明治三十七年十一月十七日)

上告趣意擴張書第一點ハ原判決ハ不當ニ法則ヲ適用シタルモノナリ原判決ノ認定事實ニ依レハ「被告ハ(中略)醪ヲ原料トシテ酒精若干ヲ製造シタルモノトナシ其數量ヲ明示セス又法則ノ適用ニ於テ被告ノ所爲ハ(中略)密造シタル酒精ノ量ハ之ヲ認ムルヲ得サルヲ以テ同條但書ニ依リ法定ノ最低罰金額五十圓ニ處ス云々」トアリ即チ原審ハ製造シタル酒精ノ數量不明ナルニ拘ハラヌ五十圓ノ罰金ニ處スト判決セラレタルハ不法ナリ何者酒精及酒精含有飲料稅法第十五條ニヨレハ免許ヲ受ケスシテ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造シタル者ハ其造石稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ストアリテ造石稅ナキモノニ對シテハ處罰スルヲ得サルモノナリ蓋シ同條但書ノ如キ處罰ノ基本(造石稅)アル罰金額ノ最低度ヲ示シタルニ過キスシテ課稅額ナキモノヲ罰スヘキ法意ニ非サルヤ明ケシ何トナレハ本事案ノ如キ脫稅行爲アリテ始メテ犯罪ヲ構成シ得ヘク脫稅行爲ナカラムカ犯罪成立ノ餘地ナキモノナレハナリ(下略)ト云フニ在レトモ○原判決ニ被告ハ酒精含有飲料製造ノ免許ヲ受ケサルニモ拘ハラヌ云々醪ヲ原料トシテ酒精若干ヲ製造シタルモノナリト認メアル以上ハ縱シ其酒精ノ數量ハ明確ナ

ラサルモ其若干製造シタル事實ナルコト明ナルニ依リ犯則行爲タルノ事實理由ニ於テハ缺ク
 ル所ナシ而シテ酒精及酒精含有飲料稅法第十五條ニ免許ヲ受ケスシテ酒精又ハ酒精ヲ含有ス
 ル飲料ヲ製造シタルモノハ其造石稅ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得
 ストアルニヨリ本件被告カ製造シタル酒精ノ數量ニシテ明確ナラムカ即チ其石數ニ相當スル
 稅額ノ五倍ノ罰金ニ處スヘキモノナルト同時ニ若シ其製造シタル石數ニ相當スル稅額ノ五倍
 カ五十圓ニ達セサルトキハ同條但書ニ從ヒ五十圓ノ罰金ニ處スヘキ筋合ナルニヨリ苟モ免許
 ヲ受ケスシテ若干ノ酒精ヲ製造シタル事實アルニ於テハ如何ニ其數量ノ僅少ナルニモセヨ到
 底五十圓ノ罰金ヲ免ル、ヲ得ス然レハ原院カ前掲ノ如ク被告ニ於テ免許ヲ受ケスシテ酒精若
 干ヲ製造シタル事實ヲ認メ其數量ノ明確ナラサルヲ以テ酒精及酒精含有飲料稅法第十五條但
 書ニ依リ法定ノ最低罰金額五十圓ニ處シタルハ相當ニシテ論旨ハ上告ノ理由トナラス、第三
 點ハ酒精及酒精含有飲料稅法第一條ニ所謂酒精又ハ酒精含有飲料タルモノニハ同法第三條ノ
 所定ノ比重ヲ有スル純酒精ヲ含有スル液体ナラサルヘカラサルハ同法第二條ニヨルモ明ナリ
 果シテ然ラハ被告カ免許ヲ受ケスシテ酒精ヲ製造シタリト認定スルニハ其酒精ナルモノニハ
 幾何ノ純酒精ヲ含有シタルモノナリヤヲ説明セサルヘカラス然ルニ原審判決ニヨレハ單ニ被
 告ハ酒精ヲ製造シタリト説明スルニ止リ其酒精ト稱スルモノカ果シテ幾何ノ純酒精ヲ包含シ
 タリヤ否ヤノミナラス其有無ヲモ説示セサルハ之亦理由不備ノ判決ナリト信スト云フニ在リ
 ○依テ按スルニ免許ヲ受ケスシテ酒精ヲ製造シタル者ニ對シ其造石數ニ相當スル稅額五倍ノ
 罰金ニ處スヘキ場合ニ在リテハ先ツ其稅額ヲ定ムル標準トシテ純酒精ノ容量ヲ判示スルノ必

要アレトモ本件ノ如ク製造シタル酒精ノ數量明確ナラサルニ依リ稅額ヲ基準トセスシテ單ニ
 法定ノ最低額ノ罰金ニ處スル場合ニ在テハ其酒精分ノ多寡ハ罰金ノ數額ニ何等影響ヲ及ホサ
 、ルヲ以テ之ヲ判示スルノ要ナシ故ニ論旨ハ理由ナシ

要アレトモ本件ノ如ク製造シタル酒精ノ數量明確ナラサルニ依リ稅額ヲ基準トセスシテ單ニ
 法定ノ最低額ノ罰金ニ處スル場合ニ在テハ其酒精分ノ多寡ハ罰金ノ數額ニ何等影響ヲ及ホサ
 、ルヲ以テ之ヲ判示スルノ要ナシ故ニ論旨ハ理由ナシ

○犯罪ノ用ニ供セラレタル物件ニシテ犯人ノ所有ニ係リ沒收スヘキモノナル以上ハ其犯罪ニ付キ主刑ヲ受クル總テノ犯人ニ對シテ之ヲ言渡スヘク單ニ共犯中物件所有者ノミニ對シテ言渡スヘキモノニ非ス (明治三十七年十一月二十四日)

上告趣意書第一點ハ原判決ハ自分ニ對シ水牛角印願ノ沒收ヲ言渡サレタルモ該印願ハ原判決書中ニモ明記スル如ク第一審ニ於ケル相被告額田政次郎ノ所有ニシテ自分ノ所有物ニアラサレハ刑法第四十四條ニ依リ自分ニ對シテ沒收セラレヘキ筋合ノモノニアラス況ンヤ該印願ハ第一審ニ於テ額田政次郎ノ所有物トシテ同人ニ對シ沒收ノ言渡相成此部分ハ既ニ確定セルモノナルニ於テオヤト云フニ在レトモ○刑法第四十四條ニ於テ犯罪ノ用ニ供シタル物件カ犯人以外ノ人ノ所有ニ屬スルトキハ沒收スルコトヲ得サルモノトスルハ其物件ノ存在ハ公安ニ害アルモ之ヲ沒收スレハ犯罪ニ關係ナキ所有者カ偶犯人ノ之ヲ使用シタルニ依リ謂ハレナク權利ヲ害セラル、ノ非理ヲ避ケムカ爲メニ外ナラサレハ其物件カ苟モ犯人ノ所有ニ係ルニ於テハ之ヲ沒收スヘキハ勿論ナリ而シテ沒收ハ一ノ附加刑ニシテ犯罪ノ用ニ供セラレタル物件カ犯人ノ所有ニ係リ沒收スヘキモノナル以上ハ其物件ヲ使用シタル犯罪ニ付主刑ヲ受クル總テノ犯人ニ對シテ之ヲ言渡スヘク單ニ共犯中ノ物件所有者ノミニ對シ言渡スヘキモノニアラス今原判決ニ認メタル事實ニ依レハ本件水牛角印願ハ額田政次郎カ他人ヲシテ彫刻セシメ以テ偽造シタルモノニ係リ上告人ハ政次郎ト共謀シ右印願ヲ押用シテ私文書ヲ偽造行使シタルモノナレハ其印願ハ政次郎ノ所有ニシテ沒收スヘキコトヲ得ヘキモノナレハ共犯トシテ主刑ヲ受クル上告人ニ對シテモ其沒收ヲ言渡サ、ルヘカラス然ラハ第一第二審判決ニ於テ上告人

ニ對シ右印願ノ沒收ヲ言渡シタルハ相當ナリ又第一審判決ハ右印願ノ沒收ヲ政次郎其他共犯ノ各人ニ對シテ之ヲ言渡シタルモノニシテ上告人源次郎ニ對スル右沒收ノ言渡ハ本案ノ控訴ニ依リ未確定ニ在ルヲ以テ原審ニ於テ審理ノ末第一審判決ヲ取消シ更ニ沒收ノ言渡ヲ爲シタルハ違法ノ判決ニ非スシテ上告ハ理由ナシ

○犯罪ノ場所ハ其犯罪ニ適用スヘキ法律ヲ定ムルノ標準ト爲ルト同時ニ其犯罪ノ裁判管轄ヲ定ムルノ作用ヲ爲スモノナレハ犯罪事實ノ摘示ニ於テ全然場所ニ關スル記載ヲ缺如シタル判決ハ理由不備ノ違法アルモノトス (明治三十八年二月二十一日)

辯護人久田濟衆上告趣意擴張書ノ第一點ハ犯罪ノ場所ハ裁判管轄ヲ定ムルニ最必要ナリ臺灣ニ於テ犯シタル罪ハ内地ノ裁判所ニ於テ之ヲ審判スルヲ得ス故ニ罪ヲ斷スルニハ必ス先ツ犯罪ノ場所ヲ定ムルヲ要ス(中略)被告等カ右地所ヲ冒認シテ抵當トナシタルハ何レノ場所ナルカヲ明示セス故ニ原判決ハ本件犯罪ノ場所ヲ定メサルモノニシテ不法タルヲ免レスト云フニ在リ○依テ按スルニ犯罪ノ場所ハ犯罪構成ノ要件タル事實關係ニハアラサルヲ以テ犯罪ノ場所トシテ特ニ之ヲ判文ニ掲クルコトハ判決書ノ作成ニ關スル絶對的必要條件ニハアラサルモ少クモ判文記載ノ事實關係ニ依リ法律ノ適用並ニ裁判管轄ノ當否ヲ監査スルニ妨ケナキ程度ニ於テ之ヲ認識シ得ルコトヲ必要トシ犯罪ト其場所トノ關係ヲ全然不問ニ付スルコトヲ許サス何トナレハ一方ニ於テ犯罪ノ場所ハ其犯罪ニ適用スヘキ法律ヲ定ムルノ標準トナルト同時ニ他方ニ於テ其ノ犯罪ノ裁判管轄ヲモ定ムルノ作用ヲ爲スモノナレハ場所ノ觀念ヲ全然度外ニ置キタル犯罪事實ノ摘示ハ被告ニ對シテ刑ヲ言渡シタル判決ノ當否ヲ審査スルニ必要ナル事實關係ノ表示ニ於テ盡ササル所アリテ理由不備ノ違法アルコトヲ免レサルヲ以テナリ而シテ原判文ヲ見ルニ本件被告等ノ冒認罪ヲ組成スル所以ノ抵當權設定ノ行爲ハ何レノ場所ニ於テ之ヲ爲シタルヤニ付キテハ判文中特ニ記載スル所ナク又判文中記載ノ事實關係ヨリ見ルモ其場所ノ何レナルヤヲ認識スルニ由ナシ原判文ハ犯罪ノ場所ニ關スル記載ヲ全然缺如シタル理由不備ノ裁判ニシテ上告論旨ハ理由アリ

○酒精及酒精含有飲料税法ハ石數ヲ以テ課税ノ標準ヲ定ムルカ故ニ免脱ニ係ル造石税ノ幾何ナルヤヲ知ルニ付テハ先ツ酒精又ハ酒精含有ノ原容量ノ總石數ヲ見テ其原容量百分中ニ含有スル純酒精ノ度數ヲ計リ之ヲ基本トシテ原容量ノ總石數中ニ含有スル純酒精ノ分量幾何箇ナルヤヲ算定セサルヘカラス (明治三十八年四月十一日)

上告趣意ノ第一點ハ原院ハ被告ヲ罰金六十七圓八十五錢ニ處シタルハ如何ナル標準ニ基キシモノナルヤ分明ナラス抑モ酒精及酒精含有飲料税法ニ依リ無免許製造ヲ處罰スルハ造石税ニ基キ之ニ五倍スルノ金額ヲ以テ罰金ノ額トス而シテ税率標準ハ石數ニ依ルモノニシテ敢テ泰西數量ノ磅ニ基クモノニ非ス然ルニ原院ハ三十九度ノ酒精百七十磅ヲ製造シタルコトヲ認メタルモ之ヲ本邦石數ニ換算シテ果シテ何石何斗ナルヤヲ分明ニ説明セス只一七、五一ノ箇數ヲ製造シタルト説明セラレタルモ一七、五一ハ果シテ一石七斗余ナルヤ又ハ一斗七升餘ナルヤ將タ一升七合余ナルヤ分明ナラス之判決ニ理由ヲ付セサル違法ノ判決ナリト云フニ在リ○依テ按スルニ酒精及酒精含有飲料税法第二條ニ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スルトキハ一石三斗付キ原容量百分中純酒精ノ容量一箇毎ニ七十五錢ノ割合ヲ以テ其石數ニ應シテ造石税ヲ課ストアリテ法律ノ趣旨ハ石數ヲ以テ課税ノ標準ヲ定ムルニ在ルカ故ニ免脱シタル造石税ノ幾干ナルヤヲ知ルニ付テハ先ツ酒精又ハ酒精含有ノ原容量ノ總石數ヲ見其原容量百分中ニ含有スル純酒精ノ度數ヲ計リ之ヲ基本トシテ原容量ノ總石數中ニ含有スル純酒精ノ分量幾干度即チ幾干箇ナルヤヲ計算セサルヘカラス然ルニ原判決ニ於テハ云々原容量百分中三十九度ノ酒精百七十磅即チ酒精箇數一七、五一ヲ製造シタルモノト記載シタルニ止マリ

本件ニ於テ被告カ脫稅シタル酒精原容量ノ總石數ハ果シテ幾干ニシテ其總石數中ニ含有セシ純酒精ハ幾干箇ナルヤ之レカ說明ヲ爲ス所ナキヲ以テ原容量百分中三十九度ノ割合ニ於ケル純酒精ノ箇數ハ實際一七、五二一ナルヤ又判決ニ於テ「即チ酒精箇數一七、五二一」トアル酒精トハ果シテ純酒精ヲ指シタルモノナルヤ將タ原容量ノ酒精ヲ謂ヒシモノナルヤ之ヲ知ルヘカラス左レハ原判決ハ犯罪ヲ構成スルニ必要ナル事實ノ記載明瞭ナラス所謂理由ノ不備アルモノニシテ破毀ヲ免レサル不法ノ原由アルモノトス

○清酒ニ他物ヲ混淆シタルモノハ純粹ノ清酒ニ非スシテ酒精ヲ含有スル一種ノ飲料ナリトス故ニ免許ヲ受ケスシテ之ヲ製造シタル所爲ハ酒精及酒精含有飲料稅法第十五條ノ犯罪ヲ構成ス (明治三十八年三月二十日)

長崎控訴院檢察長水上長次郎ノ上告趣意書ハ本案ノ事實ハ保藏ニ於テ酒精及酒精含有飲料製造ノ免許ヲ受ケスシテ清酒ニ好味液ト稱スル食鹽砂糖等ヲ混和シタル流動物ト水トヲ混淆シテ之ヲ販賣シタルモノニシテ其混淆ノ割合ハ當院判文ニ認メタル如シ右ノ事實ニ付當院ハ被告人ニ於テ前示ノ飲料ヲ清酒トシテ販賣シタルモノニシテ酒精含有飲料トシテ販賣シタルモノニアラサルヲ以テ罪トナラスト云フカ如キ說明ヲ爲シタレトモ被告人ノ販賣シタル名稱ハ如何ナルニモセヨ其販賣シタル物件カ清酒ニアラスシテ他物ヲ混シテ製造シタル飲料ナルニ於テハ之ヲ酒精含有飲料ノ無免許製造ナリト論決セサルヲ得サルハ勿論ノ儀ナレハ當院ハ判文上明言セサレトモ其意ノアル所ヲ想像スルニ工學博士川喜多能達外一名ノ鑑定書ニ記スル如ク被告人ノ混合シタル割合ニテハ未タ清酒タルノ性質ヲ失ハサルモノニシテ別種ノ飲料ヲ製造シタルモノニアラスト云フニ外ナラサルヘシ而シテ本稅法第四條ニ清酒云々本法ヲ適用セストアルヲ以テ本案ノ有罪ナリヤ將タ無罪ナリヤヲ決スル唯一ノ爭點ハ清酒トハ何ソヤトノ問題ヲ解決スルニアリト信ス本稅法及ヒ酒造稅法ニハ清酒ノ定義ヲ示サ、レトモ酒造稅法及同稅法施行規則ニ散見スル所ヲ約言スレハ清酒トハ蒸米ト麴ト酒母ト水トヲ以テ醱酵性ノ醪ヲ釀造シ其滓粕ヲ濾過シテ得タル飲料ノ謂ニシテ其配合ノ分量ハ釀造者ノ意見ニヨリ必スシモ一定セサルヘシト雖モ以上原料以外ノ物体ヲ混和シタル清酒ナキコトハ一般ニ認メラ

○清酒ニ他物ヲ混淆シタルモノハ純粹ノ清酒ニ非スシテ酒精ヲ含有スル一種ノ飲料ナリトス故ニ免許ヲ受ケスシテ之ヲ製造シタル所爲ハ酒精及酒精含有飲料稅法第十五條ノ犯罪ヲ構成ス (明治三十八年三月二十日)

長崎控訴院檢察長水上長次郎ノ上告趣意書ハ本案ノ事實ハ保藏ニ於テ酒精及酒精含有飲料製造ノ免許ヲ受ケスシテ清酒ニ好味液ト稱スル食鹽砂糖等ヲ混和シタル流動物ト水トヲ混淆シテ之ヲ販賣シタルモノニシテ其混淆ノ割合ハ當院判文ニ認メタル如シ右ノ事實ニ付當院ハ被告人ニ於テ前示ノ飲料ヲ清酒トシテ販賣シタルモノニシテ酒精含有飲料トシテ販賣シタルモノニアラサルヲ以テ罪トナラスト云フカ如キ說明ヲ爲シタレトモ被告人ノ販賣シタル名稱ハ如何ナルニモセヨ其販賣シタル物件カ清酒ニアラスシテ他物ヲ混シテ製造シタル飲料ナルニ於テハ之ヲ酒精含有飲料ノ無免許製造ナリト論決セサルヲ得サルハ勿論ノ儀ナレハ當院ハ判文上明言セサレトモ其意ノアル所ヲ想像スルニ工學博士川喜多能達外一名ノ鑑定書ニ記スル如ク被告人ノ混合シタル割合ニテハ未タ清酒タルノ性質ヲ失ハサルモノニシテ別種ノ飲料ヲ製造シタルモノニアラスト云フニ外ナラサルヘシ而シテ本稅法第四條ニ清酒云々本法ヲ適用セストアルヲ以テ本案ノ有罪ナリヤ將タ無罪ナリヤヲ決スル唯一ノ爭點ハ清酒トハ何ソヤトノ問題ヲ解決スルニアリト信ス本稅法及ヒ酒造稅法ニハ清酒ノ定義ヲ示サ、レトモ酒造稅法及同稅法施行規則ニ散見スル所ヲ約言スレハ清酒トハ蒸米ト麴ト酒母ト水トヲ以テ醱酵性ノ醪ヲ釀造シ其滓粕ヲ濾過シテ得タル飲料ノ謂ニシテ其配合ノ分量ハ釀造者ノ意見ニヨリ必スシモ一定セサルヘシト雖モ以上原料以外ノ物体ヲ混和シタル清酒ナキコトハ一般ニ認メラ

レタル所ナリトス果シテ然ラハ川喜多外一名ノ鑑定書ニ純粹ノ清酒若干ニ若干ノ好味液及水ヲ混和スルモ尙清酒タルヲ失ハスト云ヘルハ少クトモ酒造稅法及ヒ本稅法ノ趣旨ニ適ハサルモノト斷言スルニ躊躇セサルナリ尤モ當院判決ハ証據トシテ右鑑定書ヲ採用シタルニモアラサレハ強テ之ヲ駁撃スルノ要ナキニ似タレトモ判決ノ趣旨之ニ同シキヲ以テ先ツ其不當ヲ一言スルノ無益ナラサルヲ信セリ假リニ一步ヲ讓リ清酒ニ混スルニ少量ノ他物ヲ以テスルモ尙清酒タルヲ失ハストノ論旨ヲ相當ナリトセムカ然ラハ其混和ノ分量若干ニ達セハ清酒ニ非スト云フヲ得ヘキカ其分界點ヲ定ムルハ到底不能ノ事ナラム強テ之ヲ定メムト欲セハ法律ノ規定ヲ以テスルノ外ナカルヘシ然ルニ法律上其規定ナキヲ以テ本論旨ノ不當ナル自ラ明ナリ何トナレハ若干ノ清酒ニ若干量以上ノ他物ヲ混シタルモノハ清酒外ノ飲料ニシテ其以下ヲ混シタルモノハ依然清酒ナリトスルカ如キ區別ハ現行ノ法律解釋トシテハ一顧ノ價ナキ獨斷說ナルヲ免レサルヘケレハナリ(中略)其發賣者ハ清酒割水用防腐劑ト稱スレトモ其ノ實ヲ察テハ多量ノ水ヲ酒類ニ混和スルトキハ酒精分ヲ稀薄ナラシムルヲ以テ之ヲ補フニ一種ノ辛烈ナル香味即チ氣香ヲ以テシタルモノニシテ飲料需要者ヲ瞞着スル清酒外特種ノ飲料ヲ製造シタルモノナルコト疑ナキ所ナリ(中略)成程割水又ハ防腐藥ノ施用ハ法令ノ允許スル範圍内ニ於テ之ヲ爲スハ固ヨリ咎ムル所ニアラサレトモ法令ノ規定ニ準據セサルトキハ其割水又ハ防腐藥ノ施用モ之ヲ爲スヲ許ササルコト法文上明白ニシテ疑ナキ所ナレハ酒類製造者ニアラサル被告ニ於テ本案ノ行爲ヲ敢テシタルハ決シテ適法ノコトニアラサルナリ故ニ其情狀ノ想スヘキモノアルニモセヨ本案ノ行爲カ犯罪タルヲ免レサルハ勿論ノ儀ト思料スト云フニ在リ○依

テ按スルニ酒精及酒精含有飲料稅法第四條ニ所謂清酒濁酒白酒味淋燒酎麥酒及葡萄酒ハ純粹ノ清酒濁酒等ヲ指稱シタルモノニテ之ヲ基礎トシテ製造シタル不純粹ノ酒類ヲ包含セサルコト明ナルヲ以テ若シ免許ヲ受ケスシテ純粹ノ酒類ニ非サル一種ノ酒精含有飲料ヲ製造シタルトキハ同法第十五條ノ犯罪ヲ構成スルコト論ヲ俟タス然ルニ原院ニ於テハ被告カ酒類販賣業者ナルニモ拘ハラス清酒ニ水三割弱ヲ加ヘ尙ホ之ニ好味液ト稱スル食鹽苦土鹽硝石糖蜜等ヲ混和シタル液体凡ソ三百分ノ一ヲ混清シテ之ヲ販賣シタル事實ヲ認メナカラ右ハ未タ清酒ノ性質ヲ失ハサルモノヲ販賣シタルモノト判定シ被告ニ無罪ノ言渡ヲ爲シタルトモ清酒ニ他物ヲ混清シタルモノハ純粹ノ清酒ニアラスシテ酒精ヲ含有スル一種ノ飲料タルコト勿論ナレハ前記ノ如ク被告カ清酒ニ他物ヲ混清シタル以上ハ無免許ニテ清酒ニ非サル一種ノ酒精含有飲料ヲ製造シタルモノトシテ處罰セサルヘカラス然ルニ事竝ニ出テス無罪ヲ言渡シタルハ所論ノ如ク不法ノ裁判ニシテ全部破毀ヲ免レス

○取引所仲買人カ他人ノ注文ニ固リ定期米ヲ買付ケ又ハ賣付ケタルトキハ其委任關係ハ特別ノ同意アルカ若ハ該取引ノ局ヲ結ハサル限り當然消滅スルモノニ非ス故ニ仲買人カ唯取引所トノ計算ニ於テ便宜上或買米又ハ賣米ヲ日仕舞轉賣又ハ買戻ノ方法ニ依リ他ノ賣米又ハ買米ト相殺シタレハトテ之カ爲メ委任關係ノ存續ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ

(明治三十八年五月二十三日)

(上告論旨略)仍テ之ヲ按スルニ取引所仲買人ハ他人ノ注文ニ因リテ取引ヲ爲ストキハ其注文者トノ間ニ一種ノ委任關係ヲ有スト雖モ取引所ニ於テハ自己ノ名義及ヒ責任ヲ以テ取引ヲ爲スモノナルカ故ニ取引所及取引ノ相手方ニ對シテハ獨立シテ別個ノ關係ヲ保ツモノナリ此ヲ昧テ仲買人カ他人ノ注文ニ固リ定期米ヲ買付ケ又ハ賣付ケタル場合ニ於テモ他ニ同期ノ賣米又ハ買米ト相殺シタレハトキハ取引所ト勘定ヲ爲スニ當リ日仕舞轉賣或ハ買戻ト稱シ之レヲ相殺シテ建米カキコトト爲シ置キ後日注文者ヨリ轉賣若ハ買戻ノ申出アルトキハ新ニ賣付又ハ買付ヲ爲シ注文者トノ間ニ於テハ此賣付又ハ買付ニ付テ轉賣若ハ買戻シタルノ勘定ヲ爲シ注文者ヲシテ其間建米ヲ維持シタル地位ニ在ラシムルカ如キハ往々取引所ニ行ハル、所ニシテ何等ノ法規ニモ情ヲ及ス又注文ノ本旨ニ非ス原ザルヲ以テ從來本院ノ是認スル所ナリ(明治三十四年五月四日、明治三十七年五月三十一日)然レハ斯カル方法ノ行ハル、所ニ於テハ仲買人ハ他人ノ注文ニ依リシタル買米又ハ賣米ヲ取引所トノ勘定ニ建米ト爲シ置カサルモ妨ナキコト勿論ノ筋合ナルカ故ニ注文者ノ建米ノ有無ハ仲買人ト取引所間ノ關係如何ニ依テ判斷ヲ爲スヘカトカハ道理ナリ然リ而シテ仲買人カ他ヨリ注文ヲ受ケタルモ其買取取引ヲ爲サ、リシカ如キ

適合ハ注文者トノ間ニ於ケル委任關係ハ勿論存續セサルヲ以テ後ニ至リ注文ノ如キ買取取引ヲ爲スモ注文者ニ於テ之ヲ追認セザル限り委任關係ナキコト言フ俟タズト雖モ一旦注文ニ從ヒ買取取引ヲ爲シタルトキハ其委任關係ハ特別ノ同意アルカ若ハ該取引ノ局ヲ結ハサル限消滅スルモノニ非ス而シテ定期ノ取引ハ期限ニ至リ目的物ノ受渡ヲ遂タルカ或ハ期限前注文者ノ申出ニ因リ又ハ其申出ナキモ規約ニ基キ隨意ニ處分スルヲ得ヘキ事由ノ發生ニ因リ仲買人カ注文者ノ爲メニ轉賣買戻若ハ解合ヲ爲シテ茲ニ却メテ其局ヲ結フモノナレハ仲買人カ唯取引所トノ勘定ニ於テ便宜上或買米又ハ賣米ヲ日仕舞轉賣買戻ノ方法ニ依リ他ノ賣米又ハ買米ト相殺シタレハトテ注文者ノ爲メニ其取引ノ局ヲ結フモノニ非サルヲ以テ之カ爲メ委任關係ノ消滅セサルコト洵ニ明白ナリトス抑被上告人ハ上告人カ訴外藏内治郎作ノ注文ニ因リ明治三十一年十二月二日ニ賣付タル明治三十五年二月限定定期米二千六百石ヲ取引所トノ勘定ニ於テ日仕舞ト爲シタルニ因リ治郎作ノ爲メニ建米ナキニ至リタリト主張スルモノナレトモ佐賀兼毅取引所ニ於テハ仲買人トノ勘定ニ同日爲シタル同期ノ賣付買付ヲ相殺シテ日仕舞ト爲ス方法ノ行ハル、コトハ原院モ認ムル所ナレハ假令上告人カ取引所トノ間ニ被上告人ノ云フ如キ日仕舞勘定ヲ爲シタルハトテ治郎作ノ爲メニ建米ナキニ至リ同人トノ委任關係消滅シタルモノト爲スヘカラス然ルニ原院カ上告人ト取引所間ノ關係ヲ以テ直チニ上告人ト治郎作間ノ關係ヲ推シ委任關係ノ消滅シタルモノトシ因テ上告人ニ本訴金員返還ノ義務アリト爲シタルハ不法ニシテ破毀ヲ免レサルモノトス

○酒造稅法第二十五條ハ詐術ノ積極的ナルト消極的ナルトニ付區別ヲ設ケス

○酒造稅法第二十五條ハ同時ニ免稅ヲ出願シタル清酒ニ付キ其一部ニ關シ免稅ヲ得ムカ爲メ
特ニ不正ノ手段ヲ運ラシタルトキハ其手段ニ關係ナキ他ノ部分ニ付テモ犯罪成立スルモノ
トシテ之ヲ處罰スルノ法意ニ非ス (明治三十八年六月二日)
上告趣意書ハ原判決ノ本件事實ノ認定ハ和水ニ依リ腐敗シタル清酒ノ造石稅免除ヲ申請ス
ルニ當リ其和水ノ事實ヲ隱蔽シ申請書ニ記載セシテ造石稅ノ免除ヲ得ムトシタルモノナリ
ト云フニ在リテ右事實ニ付キ酒造稅法第二十五條ヲ適用セラレタレトモ右認定事實ニ依レハ
單ニ和水ノ事實ヲ發表セザリシ消極行爲ニ過キヌシテ同條所定ノ故意ニ事項ヲ作爲シ又ハ詐
術ヲ構ヘ云々トアル積極行爲ニ該當セザルニ拘ハラヌ同條ニ依リ處斷セラレタルハ擬律ノ錯
誤アルヲ免レサルモノト思料スト云フニ在レトモ○酒造稅法第二十五條ニハ酒類ヲ製造スル
者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ構ヘ造石稅ノ免除ヲ得又ハ得ムトシタルトキハ其石數ノ造
石稅五倍ノ罰金ニ處ス云々トアリテ詐術ノ積極的ナルト消極的ナルトニ付キ區別ヲ設ケサル
ヲ以テ消極的詐術ヲ構ヘテ造石稅ノ免除ヲ得又ハ得ムトシタル場合モ同條ノ制裁アルコト明
ナリ況ンヤ次ノ論旨ニ對シ説明スル如ク腐敗清酒ハ九石八斗六升八合ニアラサルニ全部腐敗
シアリト詐ハリ右數量中ニ含有スル水量ニ應スル既販賣清酒ノ免稅ヲ得ムトシタル事實ナレ
ハ即チ腐敗セザルモノヲ腐敗シタルト詐レル積極的手段ヲ構ヘタルモノナルヲ以テ假リニ同
條ノ精神ハ本論旨ノ如シトスルモ被告ノ所爲ハ同條ノ犯罪ヲ構成スヘキモノナルカ故ニ原判
決ハ此點ニ於テ擬律ノ錯誤ナリト云フヲ得ス 上告趣意擴張書第二點ハ假リニ第一點ノ理由

ナシトスレハ腐敗シタル清酒ノ免除ヲ求メ得ヘキハ酒造稅法ニヨリ營業人ニ許容セラレタル
權利行爲ナルヲ以テ酒造稅法第二十五條ニヨリ處罰スヘキ行爲ハ元來造石稅ヲ課セラルヘキ
モノニアラサルモノヲ以テ課稅物件ニ付キ免稅事項ノ發生シタルモノ、如ク裝ヒ其免稅ヲ得
又ハ得ムトシタル場合ニシテ本件事實ヲ以テスレハ九石八斗六升八合ノ内和水量ノミニ付キ
同條ヲ適用シ處斷スヘキモノナルニ原院ハ其總量ニ付造石稅五倍ノ罰金ニ處セラレタルハ右
法條ヲ不當ニ適用シタル不法ノ判決ナリト云フニ在リ○依テ原判決ヲ閱スルニ原院ハ被告カ
酒類製造ノ免許ヲ受ケ村上梅松ヲ營業代理人トシ被告ノ酒造場ニ於テ營業ニ從事中梅松ハ明
治三十七年十二月二十二日收稅官吏ノ査定ヲ受ケタル酒精分二十度以下ノ清酒十一石餘ニ一
石ニ付一斗一升二合ノ割合ニテ水ヲ混和シ若干ヲ販賣シタルニ其殘餘ノ清酒九石八斗六升八
合ハ腐敗シタルヲ以テ同年六月二十六日梅松ヨリ右腐敗酒ノ造石稅免除ヲ申請スルニ方リ前
記和水ノ事實ヲ隱蔽シ宛カモ査定ヲ受ケタル儘ノ清酒カ和水以外ノ原因ニテ腐敗シタルカ如
ク記載アル免稅申請ヲ八屋稅務署長都留良一ニ提出シ以テ腐敗酒九石八斗六升八合ニ對スル
造石稅ノ免稅ヲ得ムト爲シタルモ遂ニ事發覺シタリトノ事實ヲ認定シタルモノニシテ即チ被
告カ右九石八斗餘ノ免稅ヲ得ムカ爲メ故ラニ水ヲ混和シタリトノ事實キアラヌ此ノ混和ニ因
リ酒ノ腐敗ヲ來シ免稅ヲ願出ツルニ當リ混水ノ事實ヲ隱蔽シタリトノ事實ナレハ九石八斗六
升八合中混水ノ量ヲ控除セル清酒ノ純量ハ眞ニ腐敗シタルモノナレハ之ニ關シテハ故ラニ事
故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ構ヘタルモノト云フヲ得ス而シテ酒造稅法第二十五條ハ同時ニ免稅ヲ
出願シタル清酒ニ付テハ其一部ニ關シ免稅ヲ得ムカ爲メ特ニ不正ノ手段ヲ運ラシタルトキハ

其手段ニ關係ナキ他ノ部分ニ付テモ犯罪ノ成立スルモノトシテ之ヲ罰スルノ法意ニテラサルコトハ其明文ニ據ルモ將タ之ヲ條理ニ照スモ疑ヲ挾ムノ餘地ナキモノニシテ又管院ノ判例トシテ認ムル所ナリ故ニ本件ノ事實ニ在リテハ九石八斗六升八合中ニ包含セル水分ニ相當スル既販賣ノ清酒ニ付キ犯罪成立スヘキモノナルニ原院ハ九石八斗六升八合ニ付キ犯罪ノ成立スルモノトシ其壘石數ノ税額五倍ノ罰金ヲ被告ニ科シタルハ不法ニシテ破毀ヲ免レス

○酒造税法第三十一條ハ同法違反者ニ對シテ絶對的ニ再犯加重ノ例ヲ除外シ何等ノ區別ヲ設

ケザレハ一ノ税法違反ノ所爲ハ他ノ税法違反ノ所爲トノ關係ニ於テ互ニ前科トナリ再犯ト爲ラサルハ勿論他種ノ犯罪ニ對スル關係ニ於テモ亦互ニ前科ト爲リ再犯ト爲ラサルモノト解釋セサルヘカラス (明治三十八年六月二十日)

東京控訴院檢察長倉富勇三郎上告趣旨書ハ原判決ハ刑法第九十二條ヲ適用セサル不法アリ原判決理由中末段ノ説明ニ依レハ被告カ國稅徵收法違反ノ行爲アリタル以前ニ於テ酒造税法違反ノ罪ニ依リ罰金ノ刑ニ處セラレタル事實ヲ認メタルモ酒造税法第三十一條ハ此税法ヲ犯シタル者ニハ刑法再犯加重ノ例ヲ用キストノ規定アルヨリ同法違反ノ刑ハ常ニ再犯加重ノ前科ト爲スヲ得サルモノナリト判定セリ然レトモ酒造税法第三十一條ハ同法違反ノ行爲カ再犯アル場合ニ於テ刑法再犯加重ノ規定ヲ之ニ適用セサルノ法意ニシテ同法違反ノ刑ヲ以テ他ノ再犯罪ニ對スル加重刑ト爲サストノ趣意ヲ有スルモノニアラス何トナレハ酒造税法ハ同法違反罪ニ付テノミ規定シタルモノニシテ他ノ犯罪ニ付テ再犯加重ヲ爲サル規定ヲ設クヘキモノニ非サレハナリ而シテ現行刑法ニ於ケル再犯加重ノ規定ハ再犯者ハ刑罰法ヲ蔑如スルノ傾向ヲ有スルカ故ニ各本條ニ定メタル刑期ヲ以テ十分ナリト爲ス能ハストノ理由ニ依リ此ノ規定ノ適用ヲ受ケサル犯罪ノ刑ナルト否トヲ問ハス一般ニ前科ヲ有スル者ニ對シ適用セラル、モノナレハ酒造税法違反犯罪ノ刑ヲ以テ前科ト爲サルハ擬律ノ錯誤ナリト思料スト云フニ在リ○依テ按スルニ酒造税法第三十一條ニ「此税法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用キス」トアリテ法律カ税法違反ニ對シテハ絶對的ニ再犯加重ノ例ヲ除外

シ何等ノ區別ヲ設ケサルヨリ推論スルトキハ酒造稅法違犯者ハ稅法違犯ノ所爲ヲ爲シタルカ爲メニ再犯著トシテ其刑ヲ加重セラル、コトナカルヘキコト換言スレハ一ノ稅法違犯ノ所爲ハ他ノ稅法違犯ノ所爲トノ關係ニ於テ互ニ前科トナリ再犯トナルコトナカルヘキハ勿論他種ノ犯罪ニ對スル關係ニ於テモ亦互ニ前科トナリ再犯トナラサルモノト解釋スルヲ相當トス蓋シ上告論旨ノ主眼トスル所ハ酒造稅法第三十一條ハ同法違犯罪ニ付テノミ規定セラレタルモノナレハ他ノ犯罪ニ付テ再犯加重ヲ爲スハ妨ケナク再犯者ハ刑罰法ヲ蔑如スルノ傾向ヲ有スルカ故ニ各本條ニ定メタル刑期ヲ以テ十分ナリトナスコトヲ得スト云フニ在ルモ第一段ニ說明スル如ク酒造稅法第三十一條ハ同法違犯者ニ對スル關係ニ於テハ絕對無條件ニテ再犯加重ノ除外例ヲ設ケ何等ノ區別ヲ爲サ、ルヲ以テ稅法違犯ハ他ノ犯罪ノ前科トシテモ又他ノ犯罪ノ再犯トシテ加重セラルヘキ犯罪トシテモ再犯加重ノ原因タルコトヲ得サルモノト解釋セサルヘカラス若シ夫レ立法ノ趣旨ハ上告論旨ニ云フ如ク再犯ノ理由ヲ以テ稅法違犯ノ所爲ニ對スル刑罰ノ加重ヲ禁スルノ一點ニ存シ稅法違犯ノ所爲ヲ前科トシ他種ノ犯罪ニ對スル再犯加重ヲ妨ケサルニ在リトセムカスル區別ハ法文上ニ於テ之ニ明確ナラシムルコトヲ要シ當然之ヲ推測スルヲ得ス何トナレハ凡ソ再犯ハ前科アリ再度ノ犯罪アリテ成立スルモノニシテ此ニツノモノハ再犯加重ノ必要ノ前提ヲ爲スモノナレハ法律カ既ニ或犯罪ニ付キ再犯加重ノ例ヲ用キサル旨ヲ規定シタル以上ハ其犯罪ハ一般刑ノ適用上ニ於テ前科トシテモ再度ノ犯罪トシテモ再犯加重ノ原因タルコトヲ得サルモノト解スヘク他種ノ犯罪ヲ再犯タラシムヘキ前科タルコトハ敢テ之ヲ妨ケサルモノト解スルカ如キハ法律ノ區別セサル所ニ區別ヲ設クルモノニ

外ナラスシテ解釋法ノ原理ニ反スルモノナレハナリ或ハ曰ハム稅法違犯ノ所爲ヲ理由トシテ他ノ罪犯ヲ加重スルコトヲ得ストノ規定ハ加重セラルヘキ犯罪ニ付キテ之ヲ規定スヘク稅法違犯ノ所爲ニ付キテ之ヲ規定スヘキモノニアラス隨テ他ノ犯罪ニ付キテ例外的ノ規定ナキ以上ハ刑法總則ノ規定ニ依ラサルヘカラスト然レトモ斯ルニ於テハ稅法違犯以外ノ總テノ犯罪ニ付キ稅法違犯ノ所爲ハ前科トシテ再犯ノ原因タルコトヲ得サル旨規定スルコトヲ要スルコト、ナリ到底其ノ繁ニ堪ヘサルニ至ルヲ以テ斯ル主義ヲ採用スルノ不可ナルハ論ヲ俟タサルノミナラス酒造稅法違犯ノ所爲カ他ノ犯罪ノ前科トシテモ又加重セラルヘキ再度ノ犯罪トシテモ再犯加重ノ原因トナラサルハ酒造稅法違犯罪ノ性質ニ基因スルモノナレハ之ニ關スル除外例ハ該犯罪ニ關スル立法規定中ニ之ヲ設クルヲ相當トスヘシ(中略)原院カ本件ニ付再犯加重ノ例ヲ用キサリシハ相當ニシテ上告論旨ハ理由ナシ

○明治三十五年法律第二十二號第一條ハ國稅ノ課稅標準額及ヒ稅額ハ四捨五入ノ法ニ依リ錢位ニ止ムト規定シ造石稅額ヲ以テ脫稅者ニ科スヘキ罰金ヲ定ムルノ標準ト爲シタル場合ニ於テモ亦其造石稅額ハ該規定ニ則リ之ヲ錢位ニ止メサルヘカラス (明治三十八年七月六日)

廣島控訴院檢事長矢野茂附帶上告趣意ハ原判決理由ニ曰ク法律ニ照スニ被告ノ所爲ハ酒精及酒精含有飲料稅法第五條ニ違犯スルヲ以テ同第二條第十五條云々被告ヲ罰金六十七圓八十五錢五厘ニ處シ云々ト判示シタルモ明治三十五年法律第二十二號第一條ニ依レハ國稅ノ課稅標準額及稅額ハ四捨五入ノ法ニ依リ錢位ニ止ムトアリテ本案被告カ負課セラルヘキ造石稅ハ其密造ニ係ル酒精ノ箇數十七箇五一一ニ稅法規定ノ稅額即チ一箇七十五錢ト非常特別稅法第二條ノ增額即一箇ニ付二錢五厘ヲ添加シタル合計七十七錢五厘ヲ乘シタル金十三圓五十七錢一厘ノ中ヨリ其錢位以下ヲ切捨テ金十三圓五十七錢トナル而シテ右造石稅ヲ基本トシテ其五倍ニ當ル罰金ハ應ニ金六十七圓八十五錢ナラサルヘカラス然ルニ原判決カ前掲ノ如ク罰金六十七圓八十五錢五厘ニ處スヘキモノト說明シタルハ明治三十五年法律第二十二號第一條ヲ適用セザリシ不當アルモノナリト云フニ在リ○依テ按スルニ明治三十五年法律第二十二號第一條ハ國稅ノ課稅標準額及稅額ハ四捨五入ノ法ニ依リ錢位ニ止ムト規定シテ納稅者ニ課スヘキ稅額ハ總テ此規定ニ依リ算定スヘキモノナルカ故ニ本欄ノ如ク造石稅額ヲ以テ脫稅者ニ科スヘキ罰金ヲ定ムルノ標準ト爲シタル場合ニ於テモ其造石稅額ハ亦右ノ規定ニ則リ錢位ニ止ムヘキモノト然ルニ原判決ハ被告ニ科スヘキ罰金額ヲ算定スルニ當リ右ノ規定ヲ適用セザリシコト寔ニ所論ノ如クナルヲ以テ擬律ニ錯誤アル不法ノ裁判ニシテ破毀ノ原由アルモノトス

○骨牌稅法施行ノ際廢棄スヘキ骨牌ヲ廢棄セスシテ無印紙ノ儘之ヲ所持シタル行爲ハ同法附則第二十四條第三項ノ犯罪ヲ構成ス而シテ其所持ノ目的カ販賣ニ在ルヤ否ヤハ犯罪ノ成否ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ (明治三十八年九月二十一日)

辯護人山口憲上告趣意擴張書第一點ハ骨牌稅法第二十四條第三項ハ從前ノ販賣業者カ免許ヲ受ケスシテ販賣ノ爲メ骨牌ヲ所持シタル場合ニ適用スヘキ罰則ニシテ其目的販賣ニアラサルトキハ假令之ヲ所持スルモ同條項ノ適用ヲ受クヘキモノニ非スト信ス何トナレハ骨牌ハ應禁物ニアラサレハ所持ノ一事ヲ罰スヘキ道理ナケレハナリ果シテ然ラハ原院カ被告ヲ同條項ノ犯罪者トシテ罰セムトスルニハ其所持ノ目的ハ將來販賣スルニアリトノ事實ヲ確定スルヲ要ス(中略)ト云フニ在レトモ○骨牌稅法附則第二十四條第二項ニ於テ從前ノ骨牌製造業者若ハ販賣業者ニシテ稅法施行ノ際免許ヲ受ケタルモノト見做サレサル者ノ所持ニ係ル骨牌ノ廢棄ヲ命スルハ脫稅ノ危險ヲ生セザラシムカ爲メ之カ發生ヲ豫防スルノ目的ニ出テ此等ノ者カ從來營業品トシテ所持シタル骨牌ヲ稅法施行ノ後其手ニ殘留スルコトナカラシムトスルニ在リ故ニ稅法施行ノ際ニ於テ廢棄スヘキ骨牌ヲ廢棄セスシテ所持スルトキハ其骨牌ヲ廢棄セスシテ手中ニ殘留セシ事實ノミニテ已ニ將來ニ於ケル脫稅ノ危險ヲ生セシムルモノナルヲ以テ茲ニ稅法附則第二十四條第三項ノ違反ヲ爲スヤ勿論ニシテ敢テ所持ノ目的カ販賣ニアルト否トニ因リテ犯罪ノ成否ヲ區別スヘキモノニアラス故ニ原院ニ於テ被告カ骨牌稅法施行ノ際販賣品トシテ所持シタル骨牌二組ヲ廢棄セスシテ無印紙ノ儘之ヲ所持シタル事實ヲ以テ稅法第二十四條第三項ニ該當スル違反ナリトシテ處斷シタルハ相當ニシテ本論旨ハ理由ナシ

○苟モ免許ヲ受ケスシテ酒母又ハ醪ヲ製造シタル以上ハ其目的ノ如何ニ拘ハラヌ酒母醪及麴取締法第九條ノ犯罪ヲ構成スルモノトス

○免許ヲ受ケスシテ清酒並ニ醪ヲ製造シタル場合ニハ清酒製造ノ所爲ニ付キ酒造税法第二十二條ヲ適用スルト同時ニ尙ホ醪製造ノ所爲ニ付テハ酒母醪及麴取締法第九條ヲ適用シ二罪俱發トシテ處分セサルヘカラス (明治三十八年九月二十一日)

大阪控訴院檢察長藤堂融上告趣意書ハ原院ニ於テハ被告カ政府ノ免許ヲ受ケスシテ明治三十八年一月日不詳以降白米麴米水各若干ヲ原料トシ清酒約八斗一升餘ヲ製造シ尙意思ヲ繼續シ清酒ヲ造ルノ目的ヲ以テ同年三月初旬白米麴米各若干ヲ原料トシ醪八斗七升ヲ醸造シタルモノナリトノ事實ヲ認定シ而シテ後段ニ至リ第一審カ前記清酒ヲ製造シタル所爲ト醪ヲ製造シタル所爲トヲ分離シテ二罪俱發トシ醪製造ノ點ニ對シ已ニ廢止ニ歸シタル酒母醪及麴取締法ヲ適用シタルハ失當ナリトノ理由ヲ以テ第一審原判決ヲ取消シ更ニ認定事實ノ全部ニ付酒造税法第二十二條ヲ適用處斷セラレタリ然リト雖モ酒母醪及麴取締法ハ明治三十七年十二月三十一日法律第七號ヲ以テ公布セラレタルモノニ係リ酒造税法ト併立シテ嚴然タル現行法ニ屬ス既ニ二箇ノ法律ニシテ併立セル以上ハ犯人ノ意思目的ノ如何ニ關ハラヌ苟モ政府ノ免許ヲ受ケスシテ酒類ヲ製造シタルモノハ酒造税法第二十二條ニ醪ヲ製造シタルモノハ酒母醪及麴取締法第九條ニ照シテ處斷セサルヘカラス然ルニ原院ノ判決此ニ出テス醪ヲ製造シタル所爲ニ對シ其取締法ノ適用ヲ遺脱シタルハ不法ナリト思料スルヲ以テ破毀ノ上更ニ相當ノ裁判アラムコトヲ望ムト云フニ在リ○因テ按スルニ酒母醪及麴取締法ハ明治三十七年十二月三十

一日法律第七號ヲ以テ公布セラレタル以來未タ曾テ廢止セラレタルコトナシ又酒造税法中酒母及醪ニ關スル規定ハ同日法律第三號ヲ以テ全部刪除セラレタリ而シテ酒母醪及麴取締法第九條ニハ「免許ヲ受ケスシテ酒母醪若ハ麴ヲ製造シタル者又ハ云々シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ云々」トアリ又現行酒造税法第二十二條ニハ「免許ヲ受ケスシテ酒類ヲ製造シタル者ハ五十圓以上五千圓以下ノ罰金ニ處ス」トアリテ酒類製造ノ免許ヲ受ケサル者カ酒類ヲ製造シタルトキハ酒造税法第二十二條ニ依リテ處罰シ未タ酒類ヲ製造セサルモ既ニ無免許ニテ酒母又ハ醪ヲ製造シタル以上ハ其目的ノ如何ニ拘ハラヌ右取締法第九條ニ依テ處罰スルノ法意ナルコト明ナレハ原判決ニ於テ被告カ無免許ニテ明治三十八年一月中清酒ヲ製造シ尙同年三月中醪ヲ製造シタル事實ヲ認メタル以上ハ其醪ヲ製造シタルハ如何ナル意思目的ニ出テタルヤヤ問ハヌ清酒製造ノ所爲ニ付酒造税法第二十二條ヲ適用スルト同時ニ尙ホ醪製造ノ所爲ニ付テハ右取締法第九條ヲ適用シ二罪俱發ナリトシテ處分セサルヘカラス然ルニ事茲ニ出テス酒造税法違犯ノ一罪ナリトシテ處分シタルハ失當ニシテ擬律錯誤ノ裁判タルコトヲ免レス

○株式會社ニ對スル酒造税法違犯被告事件ニ付キ其代表者タル專務取締役ヲ被告人トシテ審理シタル末同會社ノ支配人カ業務ノ執行上税法ニ違反セシ事實ヲ認定シタルトキハ裁判所ハ被告人トシテ該取締役ノ名義ヲ判文ニ掲載シ同會社ヲ處罰スル旨ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス

○非常特別稅額モ亦罰金額算定ノ標準トナスヘキモノナリ (明治三十八年十月十六日)

被告ノ上告趣意書ハ會社ハ其目的ノ範圍内ニ於テノミ人格ヲ有スルモノニシテ其目的の外ニ於テハ會社ナク人格ナク從テ代表者ナシ故ニ假令無形人ノ名義ヲ以テ罪ヲ犯スモノアルモ責任ノ歸スル所ハ個人タル有形人(現實罪ヲ犯シタル)ナリトス然ルニ本件ニ於テ日本酒造株式會社支配人風間守太郎一個ノ行爲ニ基ク犯罪事實ニ於テ同社專務取締役トシテ被告ヲ處罰セルハ刑法上ノ原則ニ違背セル不法アルモノトスト云フニアリ辯護人高梨恂一上告趣意辯明書ノ第四點ハ凡ソ刑事法上ノ原則トシテ犯罪者トシテ其責任ヲ負擔スルハ被告本人タラサルヘカラス即チ刑事裁判ノ目的ハ被告人ハ罪ヲ犯シタリヤ否ヤ犯シタリトスレハ如何ナル刑罰ヲ科スヘキヤニアリトス依テ被告某甲被告事件ニ於テ被告某甲トシ一判決文ニ於テ被告某甲ニ關スル事實理由從テ法條ノ適用ナク其主文ニ於テ乙某ヲ處罰セリトセムカ何人モ其違法ノ甚シキニ驚カサルモノナカルヘシ而シテ本件ニ關シ東京控訴院ハ明治三十三年法律第五十二號ヲ誤解セル結果此驚クヘキ違法ヲ敢テセリ即チ原判決ハ被告ヲ有形人タル日本酒造株式會社專務取締役三宮保太郎ト爲シ其ノ主文ニ於テハ法律上全ク被告ト別人タル無形人日本酒造株式會社ヲ處罰シタリ則チ一判決一犯罪ニ於テ被告某甲ヲ處罰セスシテ全ク被告タラサル乙某ヲ處罰シタリ蓋シ刑法上ノ原則トシテ無形人タル法人ハ其行爲能力ヲ欠缺セルヲ以テ犯罪

責任ヲ負擔セサルコト本件本人提出上告趣意書ニ於テ論辯セルカ如シ然レトモ斯テハ法人代表者ノ犯罪行爲ヲ獎勵スルノ恐アルヲ以テ明治三十三年法律第五十二號ノ發布トナリ法人ノ代表者ニ於テ法人ノ業務ニ關シ租稅其他ノ諸法規ニ違反シタル場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トナシ右被告人タル代表者ヲ其代表者タル資格ニ於テ處罰スルコト、定メタリ蓋シ刑事裁判ノ目的ハ前述セル如ク被告人ヲ必要條件ト爲スヲ以テ便宜上斯ク定メタル次第ナリ則法律上法人並ニ其代表者ハ形體ヲ異ニシ且能力ヲ異ニスルヲ以テ法人並ニ其代表者ノ別異ナルコト勿論ナルモ處罰ノ必要且便宜上其代表者ヲ被告トナシ之ヲ處罰セムコト明治三十三年法律第五十二號ノ法意ナリトス然ルニ原判決ハ右法意ヲ誤解シ有形人タル專務取締役三宮保太郎ヲ被告トナシナカラ被告ヲ處罰セスシテ日本酒造株式會社ヲ處罰セルハ明治三十三年法律第五十二號ヲ誤解セルノミナラス判文ノ體ヲ爲サ、ル違法ノ甚シキモノナリトスト云フニ在レトモ○明治三十三年法律第五十二號ハ第一條ニ法人ノ代表者又ハ其雇人其他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ租稅及葉煙草專賣ニ關スル法規ヲ犯シタル場合ニ於テハ各法規ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス云々ト規定シ以テ右法令違犯ノ所爲ニ付法人ヲ處罰スヘキ旨ヲ明示シ第二條ニ法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トスト規定シ以テ法人ノ爲メ事實上被告人トシテ審理及判決言渡ヲ受クヘキ責任者ニ定メ法人處罰ノ手續ヲ明ニシ其目的ヲ達スルコトヲ期シタルモノナレハ原院ニ於テ本件酒造株式會社ナル法人ノ代表者タル專務取締役三宮保太郎ヲ被告人トシテ審理ヲ遂ケタル末同會社ノ支配人風間守太郎カ同會社ノ業務ノ執行トシテ酒造税法ヲ犯シタル事實ヲ認定シ被告人トシテ同會社專務取締役三宮

保太郎ノ名義ヲ判文ニ掲ケ同人ニ對シ同會社ヲ處罰スル旨ノ言渡ヲ爲シタルハ右法律ノ規定ニ適合セルモノニシテ本論旨ハ不當ナリ第三點ハ明治三十八年一月一日法律第一號非常特別稅法第二條酒稅第一種増徴二圓ハ日露戰役中ノ非常特別稅ナリ故ニ酒造稅法違反ノ行爲ニ對シ造石稅五倍ノ罰金ヲ科スヘキハ酒造稅法規定ノ造石稅ニ限ルヘキモノニシテ非常特別稅迄モ五倍シテ罰金ヲ科セムトスルニハ特別規定ノ明文ヲ要スヘキナリ然ルニ原判決ハ非常特別稅額迄モ尙五倍シテ科シタルハ違法ノ裁判ナリトスト云フニ在レトモ○酒造稅法違反ノ罰金額ハ造石稅ヲ標準トシテ之ヲ算定スヘキモノニシテ造石稅ノ改正セラル、トキハ罰金額モ亦之ニ準スヘキハ當然ノ結果ナリ故ニ原判決カ本件犯罪ニ所論現行非常特別稅法ヲ適用シタルハ正當ニシテ本論旨ハ理由ナシ

三十八年一月一日法律第一號非常特別稅法第二條酒稅第一種増徴二圓ハ日露戰役中ノ非常特別稅ナリ故ニ酒造稅法違反ノ行爲ニ對シ造石稅五倍ノ罰金ヲ科スヘキハ酒造稅法規定ノ造石稅ニ限ルヘキモノニシテ非常特別稅迄モ五倍シテ罰金ヲ科セムトスルニハ特別規定ノ明文ヲ要スヘキナリ然ルニ原判決ハ非常特別稅額迄モ尙五倍シテ科シタルハ違法ノ裁判ナリトスト云フニ在レトモ○酒造稅法違反ノ罰金額ハ造石稅ヲ標準トシテ之ヲ算定スヘキモノニシテ造石稅ノ改正セラル、トキハ罰金額モ亦之ニ準スヘキハ當然ノ結果ナリ故ニ原判決カ本件犯罪ニ所論現行非常特別稅法ヲ適用シタルハ正當ニシテ本論旨ハ理由ナシ

○犯罪ノ場所及ヒ被害者ヲ異ニスルモ意思ノ繼續アル以上ハ法律上一罪トシテ處斷スルモ妨ト爲ラス (明治三十八年十二月四日)

辯護人信岡雄四郎外一名上告趣意擴張ノ第三點ハ原判決ハ理由ノ冒頭ニ「意思繼續シテ」ト掲ケ本件第一乃至第三ノ行爲ヲ繼續犯ナリト認定シタリ然レトモ第一乃至第三ノ事實ハ各被害者及犯罪ノ場所ヲ異ニスルコトハ原院ノ認ムル所ノ如クナルヲ以テ宜シク數罪俱發ヲ以テ之ヲ論セサルヘカラサル筋合ナルニ原院ノ處措此ニ出テサリシハ違法ナリト云フニ在レトモ○被害者及ヒ犯罪ノ場所ヲ異ニスル如キハ初メヨリ繼續ノ意思ニ出テタル犯罪ノ數次ノ實行ヲシテ法律上一罪タラシムルノ妨ケト爲ルヘキモノニ非サルヲ以テ本論旨ハ理由ナシ

○酒精及酒精含有飲料稅法第二十三條ノ製造者若ハ販賣者ナル文詞ハ一般ノ用例ニ從ヒ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造若ハ販賣スル者ヲ概括セルモノニシテ官ノ免許ヲ得テ此等ノ業務ニ従事スル者ナルト將タ其免許ヲ受ケスシテ事實上斯業ニ従事スル者ナルトヲ問ハサル趣旨ナリトス (明治三十八年十二月十四日)

被告ノ上告趣意書ハ原院ハ「被告ハ免許ヲ受ケサルニモ拘ハラヌ被告ノ雇人岡田猪兵衛ハ明治三十八年一月九日云々被告所有酒類製造場内ニ於テ清酒十石八斗七升七合ニ六十五度ノ酒精三斗五合ヲ混和シ十度零三ノ酒精含有飲料十一石一斗八升二合ヲ製造シタリ」ト判斷シ(イ)被告ハ免許營業者ニ非サルコト(ロ)被告ノ雇人岡田猪兵衛カ酒精ヲ混和シタルコトノ二箇ノ事實ヲ認メタリ以上原院カ確定シタル事實ニ對スル原判決ニ於テ明治三十四年法律第八號酒精及酒精含有飲料稅法第二十三條ヲ適用シ上告人ニ對シテ過罰ヲ命シタルハ擬律ノ錯誤ナリ何トナレハ同條ハ免許營業者ノ雇人ノ行爲ニ對シテ免許者ニ責任ヲ歸セシムル特定ノ場合ニシテ免許營業者ニ非サル者ノ雇人使用人ノ行爲ニ付キ其主人ニ責任ヲ歸セシムルカ如キハ(法律ニ明文ナシ)同條ノ問フ所ニアラサレハナリト云フニ在リ○依テ按スルニ原判決カ本件ニ適用シタル明治三十四年法律第八號酒精及酒精含有飲料稅法第二十三條ニハ酒精又ハ酒精含有飲料ヲ製造又ハ販賣スル者ノ代理人戸主家族同居者雇人其他ノ從業者ニシテ其業務ニ關シ同法ヲ犯シタルトキハ其製造者又ハ販賣者ヲ處罰スヘキ旨規定シアルヲ以テ同法條ノ適用ヲ受クヘキ者ハ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造シ若ハ之ヲ販賣スル者ナラサルヘカラサルコトハ言フ俟タスト雖モ同條ニ謂フ製造者又ハ販賣者トハ官ノ免許ヲ受ケタル者ノミヲ指

示シタルモノト解スヘカラス其製造者若ハ販賣者ナル文詞ハ一般ノ用例ニ從ヒ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造若ハ販賣スル者ヲ概括セルモノニシテ官ノ免許ヲ得テ是等ノ業務ニ従事スル者ナルト將タ其免許ヲ受ケサルモ事實上斯業ニ従事スル者ナルトヲ問ハサル趣旨ナリト解スルヲ相當トス何トナレハ同條ニハ汎然製造者若ハ販賣者ナル文字ヲ使用シ官ノ免許ヲ受ケタル者ノミニ對スル規定ナルコトヲ示サ、ルノミナラス酒精又ハ酒精含有飲料ヲ販賣スルニハ或一定ノ規則ヲ遵守スル外別ニ官ノ免許ヲ受ケタルコトヲ要セサルニ拘ハラヌ其免許ヲ受ケタルコトヲ要スル製造者ト之ヲ必要トセサル販賣者ト同一規定ノ下ニ於テ同一ノ制裁ヲ受ケシムルモノハ製造業ニ關シテモ事實上業務ニ従事スル者ヲ官ノ免許ヲ受ケタル者ト同様ニ處罰セシムル法意ナルコトヲ推知スヘケレハナリ況ンヤ本法ニ依ル收稅ノ目的ヲ宗全ニ達セシメムトスルニハ事實上製造業ニ従事シ官ノ免許ヲ受ケサル者ニ對シテモ前掲法條ヲ適用スルコトヲ要スルヲ以テ第二十三條ノ趣旨ハ右説明ノ如ク概博ナルヘキコトヲ確ムルニ十分ナルニ於テオヤ故ニ酒精又ハ酒精含有飲料ヲ製造スル者ハ官ノ免許ヲ受ケテ製造スル場合ナルト官ノ免許ヲ受ケスシテ製造スル場合ナルトヲ問ハス苟モ其業務ニ關シ從業者ニ同法違犯ノ所爲アルトキハ同法第二十三條ノ制裁ヲ免ル、ヲ得サルモノトス今原判決ヲ閱スルニ被告ノ雇人カ酒精含有飲料ヲ密造シタル事實ヲ認ムルモ被告カ酒精又ハ酒精含有飲料ノ製造ヲ業務トナシタルヤ否又被告ノ雇人カ爲シタル密造ハ被告ノ業務ニ關シタルモノナルヤ否ノ事實ヲ確定セサルニ付原判決カ爲シタル擬律ノ當否ヲ判定スルニ由ナシ乃チ原判決ハ結局理由不備ノ不法アルモノニシテ全部ノ破毀ヲ免レヌ

○他人ヨリ酒類出港ノ囑託ヲ受ケタル者カ沖繩縣酒類出港税則第六條ニ違背シ酒類ヲ輸出シタルトキニ假令荷主ニ於テ出港税ヲ納付セサルノ意思ナカリシ場合ト雖モ尙ホ荷主ヲシテ其罪責ヲ負ハシムヘキモノトス (明治三十九年三月二日)

上告趣意書ノ第一ハ原判決ニヨレハ被告カ那覇港ニ於テ泡盛焼酎ヲ買入レ鹿兒島港マテ輸送シ吳ルヘキ旨ヲ中園傳助ニ囑託シ金二百圓ヲ送付シタルモノトノ事實ヲ認定シ而シテ其證憑トシテ傳助及被告ニ對スル尋問顛末書ヲ採用セリ然レトモ右ノ各證ハ單ニ被告カ金二百圓ヲ送付シテ泡盛買入レヲ託シタリトノ事實ヲ見ルニ足ルヘク未タ出港税ヲ納付セスシテ鹿兒島港ニ輸入スヘキ旨ヲ囑託シタリトノ證憑トスルニ足ラス若シ傳助ニシテ被告ノ家族ナルカ又ハ納税違犯ニ付テノ囑託ヲ受ケタルモノトセハ沖繩縣酒類出港税則第十條ニ依リ當被告カ處罰セラル、モ或ハ當然ナルヘキモ如何ニセム傳助ハ輸送シタル帆船新福丸ノ船長ニシテ一般ヲ司ルモノナレハ彼レカ偶々出港税ヲ納付セサル所爲ヲ以テ被告ニ歸セシムルノ理由ナシ即チ税則第十條ニハ總テ其荷主又ハ船長ヲ處罰スヘシトアルニ依リ船ヲ以テ輸送シタル場合ハ船長ニ責任アリテ荷主ニ其責ナキコト明ナリ原院ノ判決ハ擬律ノ錯誤アルヲ免レスト云フニ在レトモ○原院ハ其公廷ニ於ケル被告ノ供述中園傳助平仁四郎及被告ノ尋問顛末書被告ノ保管證等ノ記載ヲ綜合シテ被告カ船乘業中園傳助ニ對シ沖繩縣ニ於テ泡盛焼酎ヲ買入レ鹿兒島迄輸送シ吳ルヘキ旨ヲ囑託シ金二百圓ヲ送附シタルニ傳助ハ之ヲ諾シ沖繩縣那覇港ニ於テ氏名不詳ノ者ヨリ本件泡盛ト稱スル燒酎ヲ買入レ新福丸ニ積込ミ出港税ヲ納メスシテ同港ヲ出帆シ當鹿兒島市ニ輸入シ其荷主タル被告ニ交付シタルヲ被告ハ受取リタルモノナリトノ事

實ヲ認定シタルモノニシテ右事實ノ認定ニ依レハ中園傳助ハ船乘業ノ者ニシテ被告ノ囑託ヲ受ケ本件燒酎ヲ那覇港ヨリ鹿兒島市ヘ輸出シタルモノニシテ同人ハ之ヲ輸出スルニ當リ出港税ヲ納付セサリシモノトス而シテ沖繩縣酒類出港税則第十條ニハ「前條々ノ場合ニ於テ家族雇人及囑託ヲ受ケタル者又ハ乗込人ノ所犯ニ係ルモノト雖モ總テ其荷主又ハ船長ヲ處罰スヘシ」トアリテ他人ヨリ酒類出港ノ囑託ヲ受ケタルモノカ同税則第六條ニ違背シ即チ出港税ヲ納付セスシテ酒類ヲ輸出シタルトキハ假令荷主ニ於テ出港税ヲ納付セサルノ意思ナカリシモノトスルモ荷主ニ其罪責ヲ負ハシムル趣旨ナルコトハ毫モ疑ナキヲ以テ原院カ同税則第十條第六條等ヲ適用處斷シタルハ擬律ノ錯誤ニアラス

○鹽專賣法施行ノ際販賣ノ目的ヲ以テ鹽ヲ所有スル者カ申告義務ニ違背シタルトキハ其犯罪ノ場所ハ申告ヲ受クヘキ官廳ノ所在地ナリトス (明治三十九年五月十八日)

辯護人原嘉道外一名上告趣意書ノ第五點ハ犯罪ノ場所ハ判決ニ之ヲ明示セサルヘカラス本案原判決ハ鹽ノ所在地ヲ以テ犯罪ノ場所ト認メタルモノトセムカ「之レヲ被告長九郎並ニ小野吉右衛門ノ倉庫ニ隱蔽シ」ト判定シタルノミニテ其倉庫ノ所在ヲ明示セサルヲ以テ犯罪ノ場所不明ナリ若シ又原判決ハ申告義務ノ違背ハ申告スヘキ官廳ノ所在地ナリト認メタルモノトセムカ明治三十八年勅令第三百三十七號「第三條」ニ依ル鹽所在地ノ所轄稅務署カ何レノ場所ニ存在スルヤヲ明示セサルヘカラス要スルニ犯罪ノ場所ニ付キ理由不備ノ違法アルヲ免レスト云フニ在レトモ○本件ノ如キ申告義務ノ違背ニ付テハ犯罪ノ場所ハ申告ヲ受クヘキ官廳ノ所在地ナリトス而シテ原判文ニ被告カ本件食鹽ノ數量及所在ヲ所轄稅務署ニ申告スヘキ義務ヲ有スルモノナルニ拘ハラス其申告ヲ爲サ、リシモノナル旨ノ記載アリテ其所轄稅務署即チ秋田稅務署カ秋田市ニアルコトハ公知ノ事實ナルヲ以テ特ニ其稅務署カ秋田市ニアルコトヲ判文ニ明記セサルモ理由不備ノ違法アリト云フヲ得ス

○骨牌稅法第十四條第一項後段ノ販賣ナル文辭ハ營業又ハ營利ノ爲メニスル販賣行爲ハ勿論民法上ノ賣渡行爲ヲモ包含セルモノトス (明治三十九年六月十五日)

辯護人菊地儉輔上告趣意擴張書ノ第一點ハ原判決ハ本件被告ノ所爲則チ被告カ政府ノ免許ヲ受ケス明治三十九年一月二十一日ヨリ同年二月三日ニ至ル迄ノ間意思繼續シテ三回ニ骨牌四組ヲ越前長次郎ニ販賣シタリトノ事實ニ對シ骨牌稅法第十四條第一項後段ノ規定ヲ適用セラレタリ然レトモ右骨牌稅法第十四條ノ規定ハ免許ヲ受ケスシテ骨牌ノ製造業又ハ販賣業ヲ爲シタル者ニ對スル制裁ヲ定メタルモノニシテ是等營業者ニ非サル者カ偶々骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲シタルカ如キ場合ニ適用スルノ法意ニ非サルヲ信ス蓋シ骨牌稅法ハ骨牌ノ製造業者及其販賣業者ヨリ一定ノ租稅ヲ徵收スルコトヲ目的トスルモノニシテ而シテ右第十四條ハ則チ政府ノ免許ヲ得スシテ骨牌ノ製造又ハ販賣ノ營業ヲ爲シ以テ脫稅ヲ計リタルモノヲ罰セムトスルノ趣旨ナルコトハ同法全體ノ規定ヨリシテ容易ニ推知シ得ヘキノミナラス之ヲ同法第一條第八條第九條第十二條及骨牌稅法施行規則第八條ノ條文ニ參稽スルモ是等條文ニ所謂「販賣ヲ爲サムトスル者」「販賣ヲ爲ス者」「販賣者」等ノ文辭ハ骨牌ノ販賣營業者ヲ指稱スルモノナルコト文理上明ニシテ從テ骨牌稅法第十四條ニ所謂「販賣ヲ爲シタル者」トノ文辭モ亦販賣業ヲ爲シタル者トノ意味ニ解スルヲ相當トス何トナレハ一法律中ニ存スル同一ノ文辭ハ苟モ別段ノ理由ナキ以上ハ同一意義ニ解スヘキハ理ノ當然ナレハナリサレハ骨牌ノ販賣ヲ營業トスル場合ニ於テハ政府ノ免許ヲ受クルヲ要スルハ言ヲ俟タスト雖モ之カ營業ヲ爲サル限リハ民間ニ於テ自由ニ其賣買ヲ爲シ得ヘキハ毫モ疑ノ存セサル所ニシテ本件被告カ其所持